
沙羅弥デイズQuoD

うめ吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

沙羅弥デイズQuoD

【Nコード】

N75710

【作者名】

うめ吉

【あらすじ】

『最強』は存在しない。だけど、だからこそ、わたしは『最高峰』の強さが欲しい！

大いなる野心と強さへの憧憬、勘違いと思いがり、その他諸々を胸に秘め、イタい外見をした少女は立ち上がる。邪気眼？ 厨二？ 言わせとけ！

第一話 お子様なんて言わないで（前書き）

さあ、冒険譚の始まりだ！ 偉大なる決闘デュエルの世界を駆け抜ける、偉大なる決闘者デュエリストの物語だ！

なんてノリで始めるのは、きちんとした冒険活劇を書けるようになってからの方がいいでしょう。生憎と私がこれから皆様にお見せするのは、そんな上等なものではありません。

申し遅れました、私は作者に代わって語り手を勤める、高城沙羅弥と申します。もしお時間があるようでしたら、暫しお付き合いくださいませ。

第一話 お子様なんて言わないで

「アーカナイト・マジシャンをシンクロ召喚。シンクロ召喚成功時にこのカードに魔力カウンターを2つ乗せる。アーカナイト・マジシャンの効果を発動、ボクの場の魔力カウンターを1つ取り除いて相手の場のカードを1枚破壊する」

白い髪に赤い瞳の少年 高城八尋 が対戦相手の場に存在する最後のカードを破壊する。

追い詰められた方の少年が伏せていたのはミラーフォース、この追い詰められた状況で引き当てたのはディステイニードローだったのかもしれない。

結果的に役に立たなかつたとはいえ、逆境に立たされたとき、それを切り抜けるドローができたということは、彼には光るものがある。

でもそれだけじゃ駄目。

物語を彩るにはドローしただけじゃ足りない。引き当てたカードを使用し、逆転への一手を繰り出したそのとき、はじめてドラマを産み出すことができる。

その好機を活かしきれなかつた時点で、あなたの紡ぐ物語はわたしのそれに大きく劣る！

……

……

何故か周囲からわたしに視線が集中してるわね。わたしの美貌に

見とれているとか？

ふふっ、充分考えられることだわ。男性ばかりか女性まで見とれさせるとは、罪作りな美しさもあつたものよね。

見とれてるにしては視線や空気に妙な気配が混じってる気もするけど、それに関してはいつものことと言えなくもない。

「沙羅弥、さつきから思考がダダ漏れになってるぞ」

「はあ？ いきなり何言ってるのよ？」

この兄は唐突に何を言い出してるのか。思わず冷たい眼差しを向けてしまう。

「だから、さつきから考えてることが全部口に出てるんだ。あれが、地の文と見せかけて声に出してるって、ラノベでよく見るオチか。どこの主人公だよお前。現実にそんなことするヤツ初めて見たぜ」

隣に立っている兄が呆れ返った顔でわたしを見ている。

ちよつと待って、言われたことを一つずつ確認していきましょう。

「声、出たか？」

「バツチリ出た。自覚無く出てるのが信じられねーくらいの大声で」

「どの辺から？」

「『追い詰められた方の少年が』から俺が声をかける直前まで。っつうかお前、外見にコンプレックスがあるくせに自分で美貌がどうか考えてたのかよ」

うわっ、恥ずかし！ そんな事態に陥っていたなんて、この沙羅弥、一生の不覚！

「モンスターでダイレクトアタック」

「そこまで。高城八尋さんの勝利です」

あら、そういう言ってるうちに決着ね。序盤は少し盛り上がったけれど、中盤以降は流れを掌握した側のワンサイドゲームだった。

お互いの力が拮抗した状態が続く、なんてことはパワーカードが溢れる現在ではまずあり得ない。

やっぱりアニメみたいに盛り上がる戦いは簡単には見られないものね。

お互いにファンデッキ　ここではアニメキャラをモデルにしたり、何らかのテーマを持たせたデッキのうち、BFや剣闘獣のようなガチに分類されているものを除く　を組んだとしてもあっさりゲームが終わったりする時代だし、シンクロ召喚の実装以降は安定した高速デッキを組むこともできている。

考えてみると元キングのジャックってスゴいかも。自らピンチを演出したりしてエンターテイメントを作り上げ、その上で勝ち続けていたのは驚嘆に値するわ。

関係ないけどクラッシュした回数、その負傷からの回復速度が他のキャラクターを圧倒的に上回っていることも驚嘆に値する。いったいどんな身体をしているのかしら。

色々考えているうちに周りが撤収作業に入っている。今日はここまでみたいね。

気がつくと先程まで居た兄が居ない。集合場所は事前に決めてあ

るとはいえ、隣に居たくせに声もかけずにさっさと先に行ったことをちよつと問い詰めてみようかしら。

「お前の独り言の巻き添えで、注目浴びるのが嫌だったからに決まってるだろ」

「~~~~つ、逆の立場ならわたしも同じ行動を取っただろうけど、妹を放つて行くななんて薄情な！」

待ち合わせ場所に移動すると、わたし以外は既に集まっていた。

わたしを置いて先に行った理由を聴くと、兄はしれつとそんな答えを返した。

同じことをするのに文句を言うわたしを身勝手だと思う人もいるかもしれない。

甘いわね。目の前の薄情者　高城十夜　は『兄』で、わたしは『妹』。二人は同等じゃなく、大きな差があるのよ。

「ただでさえ目立つお前と一緒にだつてのに、あんな痛い発言で人目を集めたんだ。俺的には避難するのが賢明だろ」

「十夜だつて外見だけで十二分に目立ってるじゃない！」

この兄は凄く目立つ。八尋兄さんも目立つ方だけど、十夜はそれ以上に人目につく容姿をしている。

腰まである銀の髪を首の辺りで無造作に纏めた一つ結わき、獣のそれを髻髯とさせる金色の瞳。改めて見ても、どこの厨二病キャラ

だと思わせるこの特徴から十夜は極端に目立つ。

もつとも、厨二病的な外見はわたし自身そのままではまるから口には出したくないけど。

「二人とも、人前で喧嘩しない。そろそろ帰ろうか」

それまでわたしたちの様子を黙って見ていた八尋兄さんに止められる。

別に本気で喧嘩をしようとしたわけじゃないけど、普段より興奮しやすくなってるのは確かかも。さっきのダダ漏れ独り言は自分で思ってるよりも恥ずかしかったみたい。

「癩癩を起こした子供に一方的に噛みつかれてるだけを喧嘩といっのか？」

わたしはそこまで子供じゃない。言い返すと子供と言われて怒るのが子供だ、とか言ってきそうだからこの場は黙っておくけど。

「今は事実がどうであるかよりも周りからどう見えるか、が大事だね。続きをしたければ帰ってからにしなよ。それじゃ行くよ」

「だつてさ。ほら、置いていかれたくなきゃさっさと来な」

「別に一人でも帰れるわよ」

「妹を置いていくのは薄情なんだろ？」

そのニヤケ面、スツゴク癩に障るわ。八尋兄さんとは距離が離れてるし、少し急ぎましようか

他愛の無い会話をしながらの帰り道。

「なかなか楽しかったね。そっちはどうだった？」

「こっちもそれなりに楽しめたわ。普段見ないようなデッキも相手にしたから色々参考になったし」

今日は兄さん達とカードゲームのイベントに出掛けたのだけど、先述のとおり楽しめた。

大会ではなくイベントであるのがポイントで、楽しむことを目的とした参加者も多く、ユニークなデッキも見られた。やっぱり自分の好きなカードでデュエルするのは楽しいもの。ゲームの楽しみ方は人それぞれだしね。

今回のイベントは内容も至って緩く、デュエルスペース内で延々と遊んでいただけ。

一応メインイベントとしてのトーナメントはあったけど、あれも場を盛り上げるための遊びに過ぎない。

ファンデッキには楽しく遊べる場所が重要よね。フリーデュエルで嫌われるようなデッキを試すこともできたけど今回は自重した人が多かったみたい。勿論例外も居るけど。

「兄さんは今日デッキいくつ用意してたの？」

「魔法使い族のだけだよ。現環境にどの程度刺さるか試してみたくなってるね」

「……対戦相手に嫌われなかった？」

「今回みたいなイベントならそこまで嫌われやしないよ。少し厭が
られはしたかもしれないけどね」

兄さんは苦笑を溢しながら十夜の方に視線を向けた。

「十夜はどうだった？」

「今のデツキの問題点も見えだし、新しいデツキも組みたくなった。
帰ったら速攻で作る」

「それは良かった。そんなに楽しんでくれたならボクも誘った甲斐
があつたよ」

「次は絶対あんな風には行かねーぜ」

満足げに微笑む兄さんに不敵な笑みを返す十夜。

夕暮れの街並み、見つめあい、笑みを交わす男二人（兄弟）。こ
の光景、事情を知らない人に見せたらどう思うのかしら？

後程何かに使えるかもしれないので、こっそり携帯で撮影してお
く。今度加工してお隣さんに見せてみましょうか。

その後も他愛ない話を続けながら、特に何事もなく帰宅。

間違つてもトラックが突っ込んできたり、妙チクリンな神様と遭
遇したりして異世界に飛ばされたりはしていない。

途中何か引つ掛かる言葉があつたような気がするけど何だったの
かしら？ すぐに気付かない、思い出せないと言うことは大したこ
とじゃないのかな。

「誰も居ない家でもただいま。それと十夜、沙羅弥、おかえり」

「ただいま、おかえり」

「ただいま」

我が家では、一緒に帰宅した際に年齢の高い順に家に入り、後から入ってくる兄弟を迎える習慣がある。

兄さんが言うには「家に帰っても、誰も居ないなんて寂しいだろう?」とのこと。

多分これは両親が不在な我が家の暮らしで、兄さんなりに気を遣ってくれた結果として出した答えの一つなのでしょう。その厚意には素直に甘えさせて貰っている。

さて、夕飯にはまだ時間があるし、部屋で今日の見直しがてらデスクの調整でも行うことにしましょうか。

自室に戻って鞆から取り出したデスクを広げる。

「やっぱりサイクロンくらいは入れとくべきだったかな。最後は散々だったし」

先程兄さんには今日は楽しめたと言ったし、その言葉に嘘は無い。実際最初のフリーデュエルもトーナメントも、それ自体はわたしも楽しんだ。

八尋兄さんはトーナメントを最後まで勝ち抜いた。十夜は準決勝進出。ちなみに十夜を倒したのは八尋兄さんだった。

対してわたしは初戦で敗退した。

(更に言えばわたしに勝った相手は二回戦で十夜に負けた)

兄達が優秀な結果を残して注目を浴びていた中、わたしは傍観者念のために言っておくけど、別に目立ちたかったわけじゃないからね。

わたしのデッキと対戦相手のデッキの相性が悪かったなんて言い訳にもならない。そんなこと解ってる。

だけど、お互いにテーマデッキであるという点は同じなのに、勝ち残った兄と、最初に負けたわたし。これじゃわたしが兄さん達に大きく劣っているみたいじゃない。

そのイメージだけは何としても払拭しなくちゃならない。

「あと伏せカード対策につかえそうなのは……」

これはわたしの持論だけど『最強』は存在しない。だけど、だからこそ、わたしは『最高峰』の強さが欲しい！

そのためにも、わたしはこんな狭い範囲内で低い立場に甘んじているわけにはいかないのよ。

「できた、これでまた試してみよう」と

ふふん、今日という日の屈辱は、この先に待つわたしの栄光の口ドの礎となる。

見てなさい、わたしは必ずあの二人を超える！

新たな決意を胸に宿し、硬く握りしめた拳を天を衝かんばかりに突き上げたとき、勢いよくドアが開いた。

「沙羅弥、夕飯できたぞ　　って、何やってんだお前？　そんな格好で固まって」

「……ノックぐらいしなさいよ」

エプロンを身に付けた十夜が可哀相な子を見る眼をわたしに向けていた。

こ、この屈辱は忘れない！　絶対に忘れはしない！

食卓に用意されていた献立は主菜がふるふき大根、副菜に大根と油揚げの煮物、大根の葉の和え物。湯気の上がる味噌汁の具にはたっぷりの大根が。

一汁三菜の食卓、そう言うつと聞こえだけは非常に良い。

全部大根じゃなければね……

どうして大根だらけなのよ？　視線だけで問いかけると即座に答えは返ってきた。

「悪い、夕飯の買い物に行くのを忘れてたんだ」

……これがあのおとき感じた違和感の正体。

今日の夕食当番の十夜が帰宅したらデッキ組むとか言ってたっけ。

「今日は皆で出かけていたからね。仕方が無いよ」

「ともかく冷めないうちに食べ。いただきます」

「いただきます」

まずはふるふき大根を一口。

腕を上げたわね。大根そのものの味が生きてるわ。それに最近寒くなってきたから、この暖かさが身に染みる。(これって年寄りくさい?)

続いて大根と油揚げの煮物に箸をつける。

ちゃんと油揚げを油抜きしてるわね。感心感心。前に面倒くさがつて油抜きせずに作ったこともあったけど、作った本人の好みに合わなかったらしく、以降は怠らずに油抜きしている。

欲を言えば煮物は一度冷まして出汁を充分に染み込ませてから食べたいんだけど、今回はそんな時間がなかったので仕方がない。

ご飯を一口、味噌汁を一啜り。次いで和え物に箸を伸ばす。

八尋兄さんは主菜　ご飯　汁物　副菜(煮物)　副菜(和え物)

ご飯　汁物　主菜、の順で三角食べ?　実際はこれでは三角とはならない　をしている。

このあたりの習慣は家族でも似ないらしく、十夜にはそのような習慣は無い。十夜は適当な順番で食べたいように食べている。

わたしは順番に拘って食べている訳じゃない。最初に一巡させたのはご飯の分量とおかずの消費ペースを合わせるための味見。ご飯だけ残ったり、おかずだけ多く残るのは好きじゃない。できれば同じくらいのタイミングで両方なくなるのがいい。

八尋兄さんの三角食べ　しつこいようだけど、あれは三角にはならない　も同じ理由で行うわけだし。

(それにしても、何を食べても口の中に大根の味が残ってるのがちよっと辛い。嫌いなわけでも美味しくないわけでもないんだけど、

他に何か欲しくなるわ)

大根だらけの食卓を囲み、今日も高城家の夜は平和に更け行く。

この夜、無数の巨大な大根に囲まれ押し潰されるという意味不明の夢に魘されることを、この時のわたしには知る由もなかった。

第一話 お子様なんて言わないで（後書き）

次回予告（某カエル型侵略者のノリで）

「沙羅弥です！ ここまで御覧ください。方ってどれくらい居るのか激しく不安です。仕事の合間に興味本位で始まったこの小説（笑）、いったいこれからどうなっていくのか、作者もわたしも知りません。とりあえず更新が遅いことは確定事項です。

そんなことより次回はわたしの決闘デュエルのようです。相手はおそらく八尋兄さん。調整したわたしのデッキは兄さんに通用するのかわ？ お時間御座いましたら是非御覧ください」

第二話 典雅なる休日！（前書き）

初投稿から数日、早くも拙作に感想を下さった方、お気に入り登録してくださった方が居ます。まさに望外の喜びです。

自己満足と興味本位によって始めた本作ですが、しばしお付き合い合
いくださいませ幸いです。

第二話 典雅なる休日！

6:50 (AM)

「ねえ、起きて」

「……」

「起きてったら。朝御飯冷めちゃうよ」

「……」

「十夜、起きてよ。一緒に食べようよ」

「……」

これだけ言っても十夜は起きようとしな。普段は朝が早い方なのに、時々こつこつ日がある。普段は出さないようなどが甘えるような声を掛けながら、身体を優しく揺すり続ける。

「十夜ってば」

「んっ んん？」

「おはよう」

「………ひとつ言いたいことがある」

「何？」

「普通、その台詞で起こしに来るのって妹か幼馴染みじゃないか？
なんで八尋がそんな台詞で起こしに来るんだよ……」

「沙羅弥がこう言っただけ起こすように言っただけだからね」

ようやく起きた十夜はげんなりとした様子で文句を言っている。
確かに男同士で、ああいう起こされ方はされたくないでしょう。だからこそ、させてみたんだけど。

でもね十夜、あなたの言うような『普通』は二次元にしか存在していないんじゃない？

「とにかく、早く降りてきなさい。すぐ朝御飯にするからさ。行く、兄さん」

部屋を出るわたしを怪訝な顔で眺める十夜。

うん、わたしが部屋に居た理由が気になってるんでしょ？

そんなの、ラノベやゲームみたいなシチュエーションで男に起こされた際の厭がる顔やリアクションを見てみたかったに決まってるじゃない。

寝起きでまだ頭が働いていないのか、その程度の事実にもたどりで着けていないらしい十夜を残し、二人で階下へ。

三人分の朝食を配膳していると、未だ眠そうな十夜が降りてきた。

「八尋、沙羅弥おはよう」

「おはよう十夜」

あんなに長い髪なのに兄のセットの時間は異様に早い。普通、腰まである髪を起床から10分足らずで整えられるわけがないと思うんだけど……実はその頭、ウィッグ、もしくはカツラじゃないでしょうか？

「三人揃ったことだし、食べましようか。さあ、可愛い妹の愛情がたっぷり詰まった朝御飯、存分に堪能しなさいな」

「「いただきます」」

朝食は一日の活力の源。朝食を摂る習慣の無い人も多く居るみたいだけど、我が家では毎日決まった時間に三食摂るのが習慣付いている。

今日の朝食当番はわたし。

とは言っても昨日買い物に行っていないので、ろくに食材が無かった。

必然的に非常に簡単な献立になる。

昨夜と同じ具の大根の味噌汁、だし巻き玉子、大根のサラダ。

これで冷蔵庫はほぼ空になり、我が家の食材は大量の大根のみとなった……昨夜から思ってたんだけど、何でこんなに大根ばかりが沢山あるのかしら？

千切りにした大根のサラダはこのシャキシャキとした歯ごたえが堪らない。鰹節をまぶして、醤油と味醂をかけることで鰹の風味を全体に行き渡らせることで味わいも高まる。お好みでお酢や胡麻油を加えたドレッシングを作ってみるのも良い。

どういうわけか、今は調味料すらろくに無いんだけどね。

だし巻き卵はちょっと失敗しちゃったわ。中心を半熟にしておき

たかつたんだけど、わたしは卵焼き系統の中身を半熟に仕上げるのが苦手によく失敗する。

刻みネギの歯応えもアクセントになってはいるものの、少し固めに焼き上がってしまったために微妙に物足りない。失敗したわたしが言うのもなんだけどさ、やっぱり半熟の柔らかさと合わさってこそその美味しさがあると思うのよ。

味付けそのものはよくできたと自負している。噛んだ瞬間に、優しい甘味が口内に広がる。塩分を抑えたのは健康指向とかじゃなくて、わたしは甘い方が好きだから。

「今夜何か食べたいものある？」

「何でもいい」

「大根以外でお願い」

「少しは具体的な答えを返そうよ」

問いかけに対して、非常に曖昧な答えを返された兄さんは困ったような声を出しているけど、朝食の最中に夕食のリクエストを聴かれても困る。そもそも十夜は嫌いな食べ物がないし、わたしも普通に家庭で出されるような物なら平気。

それでも敢えて言うなら大根以外でしょ。昨日から大根ばかり食べてるわけだし。

「とりあえず大根以外は受け入れるけど、リクエストが無いなら今夜はボクの好きに作るよ」

「りょーかい」

「はい」

兄さんは何を作っても美味しいから安心。ギャグ漫画とかにありがちな妙な創作料理　しかも不味い　を出してくることもないし。

「ご馳走様。食べ終わったら食器は流し台に出しといてよ」

いつも言わないでも出してくれるので言う必要はない気がするけど、一応言ってから席を立つ。

兄さんは朝食が終わったらバイトに行くし、十夜も出かける予定があるらしい。

さて、今日はどう過ごそうかしら。

9:00 (AM)

兄達は既に出かけた。今家に居るのはわたしのみ。

洗濯機を回している間に掃除機をかける。家の中全てではなく、あくまでも生活の中心になるリビング、台所、廊下を重点的に掃除するだけ。

さすがに私室には踏み込まない。鍵のかかる部屋は無いので入り放題だけど、それでもプライベート空間は不可侵領域なのだ。ノックもせずにドアを開ける兄が居たり、寝込みに悪戯を仕掛けたりしていても不可侵領域なのよ。

お風呂場は本来は十夜の担当だったのだけど、用事ができて出掛けてしまったので仕方がない。他にやることも無いので代わりにやっておくことにする。

服が濡れないように注意しながら作業をするので、やや効率が悪い。一瞬、誰も居ないのだから服を脱いで掃除しようかとも思ったけど、それは流石に恥ずかしい。

見てる人の居る居ないの問題じゃなくて、感覚的な問題なのでどうにもならないわよ。

お風呂場の掃除を終えると洗濯も終了していた。

わたしは天気に関係なく、専ら乾燥機派だったりする。なので今日も晴れてはいるけど乾燥機で済ます。

……外で干したり、取り込んだりするのが面倒なのよ。

再び台所へ。ここには掃除しなければならぬものがたくさんある。

「『沙羅弥のお掃除テクニク』電子レンジ編」 始まり始まり
――」

電子レンジは生活するうえで、とても便利な道具だけど、ついつい掃除をサボりがちよね。食べ物の屑が残っていたり、油が飛び散っていたりと、中は結構汚れているものよ。

水拭き程度で落とせるような軽い汚れはともかく、油による汚れはなかなか落とせない。

そこで活躍するのがこれ。未来から来たネコ型ロボット風に言うてみましょう！

「普通のタオル〜」

どこの家庭にもあるただのタオル。さあ、適当なタオルを用意して水に濡らし、軽く絞ったらレンジに入れて2分チンしてね。

ようは蒸しタオルを作るだけ。蒸しタオルは熱くなってるから、

取り出すときに火傷しないように気をつけて。

電子レンジの中はタオルから発生した水蒸気によって汚れが浮いているので格段に掃除しやすくなっている。水分子に働きかけて加熱する電子レンジの性質を利用した掃除方法よ。

これでも落とせないような頑固な汚れには耐熱容器に水を入れて重曹を溶かしたものをレンジで加熱するの。重曹は食用のものを使えば身体に害も無く、御家庭に小さなお子様が居て、強い洗剤を使いたくないという人でも安心よ。

油污れにならだいたい効くから、ガス周りなんかの汚れを落とすのにも役立てて。

「知らなかった人、今日これ覚えて帰ってよ」

虚空に向けて笑顔とウインクで決めてみる。

虚しい……

わたしは誰に説明してるのかしら？

レンジの掃除を終えた後はソファに身を投げ出してうつ伏せになる。

お風呂場の掃除は特にそうだけど、どうしても屈みながらの作業になるので腰に負担が掛かりやすい。肩や腰に先程余分に作っていた蒸しタオルを当てて身体をほぐす。

「ふにゃああああっ」

とても人には見せられない姿になっている自覚はあるので、これは一人の時にしかない。

身体力が抜けているのはともかく、表情まで脱力しきった姿を人前に晒すのは御免だわ。

やるべきことはやったし暫くはのんびり過ごさせて貰う。

どうせ一人なんだし、昼食は適当に済ませればいいかな。もう本当に大根だけしか無いから、駄目って言われても適当にするんだけど。

16:00

「ただいま」

「兄さん、決闘デュエルしましょう」

買い物袋を両手に提げ、いつも通りの時間に帰宅した八尋兄さんに間髪入れず勝負を申し込む。

「出会い頭に決闘デュエルを申し込むなんて、アニメの主人公にでもなりたくなっただのかい？」

「一日中一人で居たから暇なのよ……」

朝からは家事に追われ、午後からはダラダラしていた。なので今のわたしは欲求不満。昨日新たに作り変えたわたしのデッキも試し

たいし。

ところで、昨日十夜にも言われたけど、主人公って人に言われるとスゴく莫迦にされてる気がするんだけど。

「暇ならお隣に行けば良かったのに」

「……休みの日にまで押し掛けちゃ悪いと思ってね。とにかく、決闘デュエルしましょーよー」

「わかった、やるよ。ボクの部屋で待つて、すぐ行くから」

「はい」

いつ来ても生活感に欠ける部屋ね。

兄さんの部屋は物が極端に少ない。わたしと十夜に必要なものを優先的に回した結果、兄さんの部屋は殺風景なものになってしまった。

置いてある家具はガラステーブル、ベッド、衣服の収納ケースのみ。

普段リビングに居るから部屋に物は必要ない、なんて言ってるけど、これは流石に少なすぎない？

雑貨の収納に空き箱を使っているあたりなんか、インテリアに拘りを持たない兄さんの性格が出ているわね。

「お待たせ」

テーブルを挟んで向かい合った兄さんに4つのデスクを示される。

「どれにする？」

これは……

- 1 . 一番右
- 2 . 右から2番目
- 3 . 右から3番目
- 4 . 一番左

今のイメージは何なの？ まあいいわ。

「わたしから見て一番右よ」

「それじゃあ先攻と後攻、沙羅弥の好きな方を選びなよ」

「先攻を貰うわ」

兄さんの言葉に迷いなく先攻を取らせて貰う。兄さんがどのデッキを使ってくるか分からない以上、後手に回るのは避けたい。それにわたしのデッキは、

「ドロー、スタンバイフェイズは終了」

結構良い手が来てる！

これなら次のターンで一気に勝負を持って行けそう。

「メインフェイズ。大寒波を発動、次のわたしのドローフェイズま

で魔法、罨を使用できなくなる」

大寒波

通常魔法（制限カード）

メインフェイズ1の開始時に発動する事ができる。

次の自分のドローフェイズ時まで、お互いに魔法・罨カードの効果の使用及び発動・セットはできない。

このカードで兄さんのプレイを制限し、速攻で決める！

「魔轟神獣ガナシアを召喚。手札の魔轟神グリム口の効果を発動、自分の場に「魔轟神」と名のついたモンスターが存在するとき、手札から墓地に送ることによってデッキに存在するグリム口以外の「魔轟神」を手札に加える。この効果で手札に加えるのは魔轟神クルス。もう一枚グリム口を使用して魔轟神獣ノズチを手札に加えてターンを終了」

魔轟神獣ガナシア

効果モンスター

星3 / 光属性 / 獣族 / 攻1600 / 守1000

このカードが手札から墓地へ捨てられた時、

このカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したこのカードの攻撃力は200ポイントアップし、

フィールド上から離れた場合ゲームから除外される。

魔轟神グリム口

効果モンスター

星4 / 光属性 / 悪魔族 / 攻1700 / 守1000

自分フィールド上に「魔轟神」と名のついたモンスターが表側表示で存在する場合、

手札からこのカードを墓地へ送る事で自分のデッキから「魔轟神グリムロ」以外の

「魔轟神」と名のついたモンスター1体を手札に加える事ができる。

魔轟神クルス

効果モンスター

星2 / 光属性 / 悪魔族 / 攻1000 / 守800

このカードが手札から墓地へ捨てられた時、自分の墓地に存在するこのカード以外の

レベル4以下の「魔轟神」と名のついたモンスター1体を特殊召喚する。

魔轟神獣ノズチ

効果モンスター

星2 / 光属性 / 獣族 / 攻1200 / 守800

自分のメインフェイズ時に発動する事ができる。

手札から「魔轟神」と名のついたモンスター1体を捨て、

このカードを手札から特殊召喚する。

この効果で特殊召喚に成功した時、

手札からレベル2以下の「魔轟神」と名の付いた

モンスター1体を特殊召喚する事ができる。

この魔轟神獣たちはわたしのお気に入り。魔轟神で魔轟神獣をサ

ポートし、シンクロ召喚を多用して速攻で勝負を決めるのがわたしの基本スタイルよ。十夜が言うには「サポートする方とされる方が逆」らしい。

「ボクのターン、ドロ」

手札を見る兄さんは少し考え込んでるみたい。魔法が使えないのが効いてるのかしら？

八尋兄さんは表情の変化に乏しいからイマイチ判断できない。あの微笑のポーカーフエイスで初対面の人ならだいたい騙せそう。でもやりようはある。この至近距離なら眼球の動きに注目することで脳の働きを読むことが……わたし心理学とか脳科学はサツパリだから、そういうのわからないんだけどね！

「手札から星5以上の闇属性モンスター、BF - 暁のシロッコを捨てて、ブラック・フェザーダーク・グレファアを特殊召喚」

ダーク・グレファア

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 戦士族 / 攻1700 / 守1600

このカードは手札からレベル5以上の闇属性モンスター1体を捨てて、

手札から特殊召喚する事ができる。

1ターンに1度、手札から闇属性モンスター1体を捨てる事で自分のデッキから闇属性モンスター1体を選択して墓地へ送る。

BF - 暁のシロッコ

効果モンスター

星5 / 闇属性 / 鳥獣族 / 攻2000 / 守 900

相手フィールド上にモンスターが存在し、

自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、

このカードはリリースなしで通常召喚する事ができる。

1ターンに1度、自分フィールド上に表側表示で存在する

「BF」と名のついたモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターの攻撃力は、そのモンスター以外の

フィールド上に表側表示で存在する「BF」と名のついた

モンスターの攻撃力の合計分アップする。

この効果を発動するターン、選択したモンスター以外の

モンスターは攻撃する事ができない。

ダーク・グレファア

出たな、闇変態！ 海外版が公開された際に種族が獣族に誤植さ

けたもの

れたが為に、獣族と呼ばれ、変態としてのポジションがさらに強固
となったダイ・グレファアの成れの果て。しかしその実態はさまざま
まなコンボに悪用された危険なカード。

捨てたカードがシロツコってことは今日の兄さんのデッキはBF。
アニメ1話から登場している元キングを差し置いてデュエリストパ
ックが発売された優良カード群。わたしとしてはディフォーマー使
いの彼にそろそろ活躍してほしいのだけだ。

「ダーク・グレファアの効果を発動して手札のBF - 大旆のヴァー
ユを捨てて、デッキのBF - 月影のカルートを墓地に送る。ダーク・
アームド・ドラゴンを特殊召喚」

BF - 大旆のヴァーユ

チューナー（効果モンスター）

星1 / 闇属性 / 鳥獣族 / 攻 800 / 守 0

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、このカードをシンクロ素材とする事はできない。

このカードが墓地に存在する場合、このカードと墓地に存在するチューナー以外の

「BF」と名のついたモンスター1体をゲームから除外し、

そのレベルの合計と同じレベルの「BF」と名のついた

シンクロモンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したモンスターの効果は無効化される。

BF - 月影のカルート

効果モンスター

星3 / 闇属性 / 鳥獣族 / 攻1400 / 守1000

自分フィールド上に表側表示で存在する「BF」と名のついたモンスターが

戦闘を行うダメージステップ時にこのカードを手札から墓地へ送る事で、

そのモンスターの攻撃力はこのターンのエンドフェイズ時まで1400ポイントアップする。

ダーク・アームド・ドラゴン

効果モンスター（制限カード）

星7 / 闇属性 / ドラゴン族 / 攻2800 / 守1000

このカードは通常召喚できない。

自分の墓地に存在する闇属性モンスターが3体の場合のみ、

このカードを特殊召喚する事ができる。

自分のメインフェイズ時に自分の墓地に存在する闇属性モンスター

1体を

ゲームから除外する事で、
フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊する。

いきなり凶悪なカードを出してくるわね。大寒波で伏せカードを用意できなかったのがわたしの方に裏目に出ちゃってる感じになってる。ガナシアを攻撃表示で出した時点である程度手札は読まれるのかもしれない。

「BF - 極北のブリザードを召喚、ブリザードが召喚に成功したとき、自分の墓地から星4以下の「BF」と名のつくモンスター1体を表側守備表示で特殊召喚できる。ボクは効果を発動し、墓地からカルートを特殊召喚する」

BF - 極北のブリザード

チューナー（効果モンスター）

星2 / 闇属性 / 鳥獣族 / 攻1300 / 守 0

このカードは特殊召喚できない。

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在するレベル4以下の「BF」と名の付いたモンスター1体を表側守備表示で特殊召喚する事ができる。

「手札からBF - 黒槍のブラストを特殊召喚。ブラストは場にブラスト以外の「BF」が存在する場合特殊召喚することができる。星2のブリザードと星3のカルート、星4のブラストでシンクロ召喚、氷結界の龍 トリシューラを召喚だ」

BF - 黒槍のブラスト

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 鳥獣族 / 攻1700 / 守 800

自分フィールド上に「BF - 黒槍のブラスト」以外の

「BF」と名のついたモンスターが存在する場合、

このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、

その守備力を攻撃力が超えていれば、

その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

氷結界の龍 トリシューラ

シンクロ・効果モンスター（制限カード）

星9 / 水属性 / ドラゴン族 / 攻2700 / 守2000

チューナー+チューナー以外のモンスター2体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、

相手の手札・フィールド上・墓地のカードを

それぞれ1枚までゲームから除外する事ができる。

「ちよ、兄さんどんな引きしてるの!？」

マズい、この状況はマズい。兄さんの手札には魔法が使えないことが全く作用してない。手札6枚ともモンスターだったにも関わらず、それらを使い切って1キルする気満々だ。トリシューラの効果もマズい。

「トリシューラの効果を発動。沙羅弥の墓地からグリムロ、場からガナシア、それと手札を……ちよっと待って。先に手札をシャッフルしてくれるかな」

効果の処理を一時止められる。わたしたちは手札をランダムに選ぶ際、ババ抜きの際に要領で相手に指定させる。

さつきグリム口で加えたノズチとクルスの位置をそのまま持っているからフェアじゃないと思ってるわけね。入れ換えなかつたわたしに落ち度があるし、処理の途中で手札の位置を変更するなんて誉められた行為じゃないけど、兄さんから言ってきたから良いかな。公式戦つてわけでもないし。

手札をシャッフルし、改めて兄さんに手札を差し出し、1枚除外される。除外されたのはクルス。もつとも、今さら何を除外されても結果は同じなのだけれど。

「墓地の大旆のヴァーユの効果を発動、ヴァーユとシロツコを除外してBF-アームズウイングを特殊召喚」

BF-アームズ・ウイング

シンクロ・効果モンスター

星6 / 闇属性 / 鳥獣族 / 攻2300 / 守1000

「BF」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードは守備表示モンスターに攻撃する場合、ダメージステップの間攻撃力が500ポイントアップする。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていけば、

その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

大旆のヴァーユの効果で特殊召喚したモンスターは効果が無効になるし、正規の手順で召喚されていないから場を離れると蘇生、帰

還はできない。でもこれももう関係ない。

場はがら空きにされたし、手札のカードじゃ防御はできないし。

「バトルフェイズに入ってダーク・グレフアーで攻撃」

成す術なく攻撃を受けざるを得ない。

沙羅弥 LP 8000 6300

「アームズ・ウィングで攻撃」

沙羅弥 LP 6300 4000

「トリシューラ、ダーク・アームドで攻撃」

沙羅弥 LP 4000 1300 0

ダメージ計算を終えて頂垂れる。

負けた、1ターンで負けた。それも1キルするつもりで仕掛けておいて逆に自分が1キルされちゃうとか。

「沙羅弥、残りの手札見せてくれる？」

兄さんの声に顔をあげ、手札と一緒にデッキとエクストラデッキも差し出し、再びテーブルに突っ伏す。うゝゝゝ、悔しいーっ！

「手札がこうで、デッキトップが……」

今兄さんが考えてることくらいは解る。わたしが勝つために取るべきだった行動を模索している。

実のところ一番のミスならハッキリしてる。それを思うと余計に情けなくなってきた。さして時間もかからずに考察を終えた兄さんからカードを返される際に一言。

「つまらないミス、だけど致命的なミスだったね」

「うぐうっ」

事実とはいえ直球で酷いことを言ってきた。慰めるとは言わないけど追い打ちをかけないでほしいわよ。しかも普段と表情を変えないのに物足りないと言いつつ、そんな口元が如実に語っている。

「って、この人1キルで勝負を決めておいて物足りないとか思ってるの!？」

「兄さんキライ、兄さんサイアク」

ジト眼で見つつ、わざとらしくカタカナで発音してみる。この二ユアンスを解ってほしい。

「やれやれ、我が家のお姫様はすっかり機嫌を損ねてしまったみたいだね。そんなに勝ちたかった？」

「勝ち負けじゃなく、物足りないと言っただけで止まない兄さんの態度が気に入らないの!」

言わされると凄く惨めな気がしてきた。自分の言葉で凹みそう。
うっ、今夜は食が細くなりそうだわ。

「いや、だってさ。いくら何でもゲームの内容があれじゃ、ねえ？」
く、屈辱だわ。わたしにとっては必勝の手が揃っていたというのに、それより早く1キルを成されたというのに、拳句、わたしが相手では楽しむことすらできないと!？

情けないやらイラつくやらで身体が震える。

「少しからかいすぎたかな。お詫びに夕飯に好きなものを作ってあげるよ」

頭を撫でながらそんなことを言うってくる。今度は子ども扱い? そんなことでわたしが靡くと思ったら大間違い……

19:00

「いただきます」

食卓に用意された今夜のメインディッシュには心が躍る。

「珍しいな。八尋が和食以外で作るなんて。確か自分の好きにするって言ってたのに」

「色々あったんだよ」

「色々、ねえ」

夕食の時間にキッチリとあわせて帰宅した十夜がこちらに視線を向けているのは感じるけど、今はそれどころではない。

「それで晩飯がグラタン。やっぱり子供だな」

ほっときなさい。それにグラタンは本来フランスの郷土料理だけど、日本で一般的に言われるグラタンは既に日本食の一部だわ。

「まあまあ、可愛いものじゃないか。これで機嫌が直るくらいに素直なんだから。ところで十夜」

食事に集中しようとしていた十夜が顔を上げると、

「君、今日の掃除当番を沙羅弥に押し付けたね？」

そこには微笑を浮かべた鬼が佇んでいたそうよ。

約1名を除き、高城家の夜は今日も平和に更け行く。

「八尋、誤解だ！！俺は帰ったらやるつもりで」

辞書を引いてもらうとわかるけど、平和という言葉には戦争や内乱などの『争いが無い』、という意味はあっても、『仲良し』とい

この意味は含まれていないことを「」に記しておくわ。

第二話 典雅なる休日！（後書き）

次回予告（K@@軍曹のノリで）

「沙羅弥です！ 作中初の決闘だデュエルというのに、すんんーく、あつさり負けちゃいました。物語の主人公って負けるときも魅せる負け方をするものだと思うんですけど、これはちょっとどうなんでしょう？

チートは無しにしたい、ってタグにある割りに、八尋兄さんの引きってチート過ぎると思いませんか？ 作者が言うには実際に引いたらあの手札だったんだそうです。前書きは作者に取られるし、あつさり負けるし、散々な休日でした。

そんなことより次回は「お隣さん」が登場するようです。お隣さんも決闘する人ですデュエルし、以後はレギュラー化するそうです。お時間御座いましたら、次回もまたお付き合ってください。

第三話 お隣さん（前書き）

沙羅弥です！ 見てくれている人ありがとうございます！

この話のデュエルの書き方は作者が愛読している冬將軍様の小説「流されて、デュエルアカデミア」を参考にしています。わたしも誠君たちのように熱く烈しく、楽しい決闘デュエルをしたいものです。

ではどうぞー。

第三話 お隣さん

「そう。休日の中にそんなことがあったの」

「ええ、わたしもまだまだってことなのかしら。正直、最近は何も覚えてばかりなんだもの」

午後の陽が射し込む居間で、用意されたお菓子に手を伸ばしつつ、週末の出来事を話す。

今わたしはお隣の九頭龍家でお茶をいただいている。

「それでヒロ君はどうしたの？」

「夕飯にわたしの好きなものを出して機嫌を取ってきたわ。あれで丸め込めると思われてるというのは、ちょっと気に入らないけど」

「でも、さっちゃんはそので機嫌なおつたんでしょう？」

わたしの向かいに座って優しげに微笑んでいるのはルリエさん。九頭龍家の家主であり、わたし達兄妹の事実上の保護者でもある。

ゆったりとしたブラウスにカーディガンを羽織り、ロングスカート、後ろ髪をバレッタで纏めたシックな装いの似合う大人の女性。柔らかな笑顔と深い包容力が魅力。

年齢の割りに落ち着きすぎている面がある一方で、やや過保護な一面も。

地元の商店街では有り得ないくらいの大人気を博していて、ルリ

工さんは商店街で買い物すると、普段より大幅におまけして貰えてお得。

反面、ルリエさんと一緒に商店街に行くことはデメリットが強烈で、十夜や八尋兄さんがルリエさんと一緒に行ったときは、無数の突き刺すような視線による針の筈となつたらしい。

十夜はどちらかというところ商店街では好かれてる筈なんだけど、あの兄さんが「居心地が悪く、逃げ帰りがかった」とまで感じたと言うのだから、商店街の皆さんの怒気や殺気は相当なものだったのかもしれない。

本人は何かしているわけでもなく、ただ笑顔でいるだけなのに周囲をエロゲーに出てきそうな環境に変質させる力を秘めたトンデモお姉さん、それがお隣の九頭龍ルリエさん。

おっと、わたしが18禁のゲームについて知識がある理由は秘密よ。

「ただいま〜」

軽い足音が小刻みに廊下を伝ってくる。

「お姉ちゃんただいま　　つて、沙羅弥こつちに居たんだ」

「おかえりなさい」

「カツちゃん、おかえりー」

ひらひらと手を振りながら帰宅したカツちゃんを迎える。

「カツちゃん言ーな」

制服姿で居間に入ってきたカツちゃん　九頭龍海聖さん　が
笑う。

相変わらず見ていて気持ちのいい笑顔をしている。

ルリエさんの妹で八尋兄さんのクラスメイト、当然わたし達兄妹
とは幼馴染みであり、昔からお世話になって……んん？

まあ、お世話になっている　ということにしておきましょう。

一言で表すと「快活」、その言葉を体現したような、ツインテー
ルに猫目が特徴的なノリの良い女の子でわたしにとっては「お姉ち
ゃん」みたいな人。

男女問わず友達が多く、クラスの中心となっているような元気っ
娘。

恋愛シミュレーションで言うなら、ゲーム開始時から主人公の友
達ポジションにいるタイプ。好感度は稼ぎやすく、内部パラメータ
はガンガン上がっていくというのに、キーフラグが立てにくかった
り、他のヒロインのフラグを同時に立てた場合の優先順位とかがから
攻略に苦労させてくれたりするのよね。

わたしはカツちゃんルートに入る気は無いから特に問題ないけど。
カツちゃんと呼ぶと「カツちゃん言ーな」と返してくるけど、笑
いながら返した通り、厭がってのことではなく、気心が知れた幼馴染
染み間のやり取りの一つ。

「海聖も着替えてきなさい。一緒にお茶にしましょう」

「そうするわ。戻ってくるまでにあたしの分まで食べたりしないで
よっ。」

「うーん、保証はしかねるわ」

ルリエさんの言葉に頷き、悪戯な笑みを浮かべるカツちゃんにこちらも笑顔で返す。

勿論そんなことをする気は無いのだけど、カツちゃんとの会話は楽しいので、いつもこういう感じになる。素直な性格から、十夜以上に楽しい反応をしたりすることもあるしね。

「それじゃ、着替えてくるから」

入ってきたときと同様、軽い足音を残して駆けていく。階段を上がっていく足音が小気味良く耳に響いていた。

「しかし、沙羅弥さあ」

私服姿で降りてきたカツちゃんを交えてお茶の続き。お煎餅を口にくわえて喋るのはどうかと思うわよ？

「あんた本当に似合っていないよね」

「？ わたしの格好に何か問題が？」

カツちゃん言葉に首を傾げつつ、身だしなみをチェックする。いつもの格好と然程大きな変化はない。わたしが見落としているだけで、何処かに不自然な点があるというのかしら。

「いや、格好がどうって意味じゃなくて。その容姿と服装のあんた

がさ、湯呑みでお茶飲みながら、煎餅食べてるなんて似合わないじゃない？」

……………今さらそこに突っ込むの？

「え？ さつちゃんには羊羹の方が良かった？ 持ってこようか？」

「お姉ちゃん、その発言はないわ……………」

確かに。今のポケ方はない。意図したわけではなく、ナチュラル自然に出てきた言葉であるあたりが何とも反応しづらい。

「わたしもサマにならないとは思うけど、見た目に関しては今さら過ぎない？」

「うん、あたしも何となくそう思っただけなだけどさ」

カツちゃんの言葉には悪意が無い。だからある程度は言われても許容できるんだけど、わたしは見た目に関してどうこう言われるのは気にしてるんだからね。

「沙羅弥なら絶対に紅茶飲んでる方が似合っつて」

「わたし紅茶飲めないもん」

正確には紅茶が苦手。わたしは紅茶が持つ特有の風味と香りが薬っぽく感じて好きじゃない。

その点に配慮してルリエさんは日本茶を出してくれている。何も言わなくとも好みに合わせたお茶を用意してくれるルリエさん。こんな細かい気配りはありがたい、わたしのお嫁に来てくれないかし

「ホントに、とことん見た目と合っていないよね」

だからそういうの気にしてるんだってば。

でも、カッチャんの言うことにも一理ある。確かにわたしはこの状況に似合っていないかもしれない。

ちよっと客観的に今の自分を見てみましょうか。

フリルやレース、リボンをあしらった黒を基調としたドレス。同じく黒のオーバースカート。ヘア・アクセサリーにはフリルつきのヘッドドレス。今は着用していないけど、編み上げブーツも完備。黒と白を織り混ぜたベーシックかつクラシカルなゴスロリファッション。

なお、メイクはしていない。本来はメイクも含めて「ゴスロリ」になる。頭のとっぺんから爪先まで完全に揃えるのが作法と言われるけど、わたしはしない。単純にこの服装が好きで着てるだけだもの。それに、化粧なんてしなくてもね。

少女趣味と猟奇趣味。天使と悪魔。清楚と淫靡。無垢と妖艶。生者と死者。神秘と怪奇 e t c

そういった相反する要素を内包するこの格好がわたしの趣味。

たまにダクゴスやグロゴスにも手を出す。だけどグロゴスはルリエさんが快く思わないので滅多にしない。以前本当に怪我をしたのかと思わせちゃって心配をかけたから。あの時のルリエさんの剣幕には恐れ入ったわ。大事にされてるのが伝わってきて嬉しかったけど、これは秘密。

もう一方の外見的要素、わたしの容姿の特徴は、十夜と同じ銀の

髪。透き通るように銀色が冴える長い髪は手櫛で鋤いても絡まりはしないほどに上質。

それとこれがわたしのコンプレックスの原因だけど、わたしは左右で瞳の色が違う。わたしの瞳は右が紅、左が蒼となっている。

虹彩異色

アニメやライトノベルのキャラクターには特徴としてよく付与されるから、割りとメジャーだけど、実際には稀な症例。オッドアイやバイアイとも言う。ただ、これらは主にネコなどの動物に対して使うことが多いので余り言われたくはない。

どうせ言われるなら『不揃いの瞳』オッドアイくらいに、ちょっと格好よく発音してほしい。

ちなみに先天性のものと後天性のものがあるけど、わたしは前者。この眼は生まれつきに色が異なっている。

〜豆知識！〜

猫は異色症が出てる方の耳に聴覚障害を併発しやすい。

さて、情報を整理すると、ゴスロリファッションで銀髪ロング、虹彩異色の可憐な美少女（ここ重要！）がお茶の間で湯飲みを持って「ほっこり」している。カッチャンから見るところなるわけよ。

見事なまでにミスマッチしてるわ。自分のことでなければ呆れるくらい。

「でもカッチャンも似合っていないのは同じじゃない？」

カツちゃんも見た目はお茶の間に似合ってるとは言いがたい。

そもそも姉妹でありながら、ルリエさんとは髪の色、瞳の色が明らかに違う。

ルリエさんは若干色素は薄いけど正統派の黒髪。瞳は名前の通りの瑠璃色。対してカツちゃんは色素が薄いどころか白金色の髪に名前の通り、海を思わせる深い碧の瞳。

こうして見るとこの二人、本当にエロゲーの姉妹ヒロインみたい。おっとり型の姉と快活な妹。まさにテンプレ、いや王道だわ。

「あたしはいいんだってば。たまには紅茶も飲んでるし」

九頭龍家は台所事情をルリエさんが仕切っているため、カツちゃんもお茶と言えば日本茶のイメージだったりするけどね。

「自分で淹れられるの？」

「？ あたしが淹れるよりお姉ちゃんが淹れる方が美味しいんだから、自分で淹れる必要なくない？」

「ルリエさん、甘やかし過ぎなんじゃない？」

「ちょっと、何で急にそんな真面目な顔になってんのよ？」

漫画だったら「凜」の一字が浮かびそうなほどの表情でルリエさんに問い掛ける。

「頼ってくれる海聖が可愛くって、つい」

「お姉ちゃんも甘やかし過ぎるのは否定しないんだ!？」

「冗談よ」

やっぱりルリエさんは優しいわあ。カッチャンを宥めてるその笑顔を見ただけで、胸の辺りをぽかぽかさせてくれる。

わたしもこの気持ちをカッチャンに向けて、

「わたしは本気だったよ」

最高の笑顔を贈る。今のわたしの笑顔はさぞ暖かいものになっているでしょう。

あれ？ カッチャン笑顔がヒクついてる？

「……………沙羅弥もイイ性格をしてるじゃない……………」

「ありがとう。わたしも性格は良い方だと自負してるわ」

「意味が違う!」

「お茶も飲んだし、決闘デュエルしましょう」

「また唐突!」

「実はこの休みの間にね」

「　　というわけなの」

「そ、それで、八尋に、、負け、負けたのが、、悔しいんだあ？」

ワンキルしようとして逆にワンキルされた件がツボに入ったらしく、涙目になっている。そんなに笑わなくても……

「微妙に違うんだけど、まあそんなところよ。その件も含めて、わたしは色々な相手と闘って色々な経験を積みたいの」

更なる高みに行くために、純粹なる勝利を得るために。

by ヘルカイザー亮

瞳に想いを灯し、カッチャんにぶつける。

「そういうことなら仕方ない。おねーさんが胸を貸してあげましょ
う」

「ええ、お願いするわ。おねえちゃん」

「　　」

喉を単音で鳴らすのはカッチャんの癖で、機嫌が良いときや、返事をする代わりとして使用することが多い。

猫目や性格と相まってますます猫っぽい。そういう点が魅力的で可愛らしいんだけど。

「デッキ取ってくるね」

カッチャンが再度部屋に戻ったのを確認し、今のうちにルリエさんに例のブーツを渡しておきましょう。

「ルリエさん、これ」

「あれ？ お姉ちゃんは？」

「部屋でやることがあるんだって」

なので、今はカッチャンと二人だけ。

「ふーん……まあ始めよつか。先攻と後攻、どうやって決める？」

「コイントスで。わたしがやるから、カッチャンが選択して」

わたしは一時期、指でコインを真上に弾けるように練習をした。特に意味は無いのだけど、綺麗にできるとカッコいいじゃない。

八尋兄さんは、こういう細かい作業が得意で、寸分変わらず真上に弾くうえ、コインの回転も惚れ惚れするほど綺麗。

十夜は、普通ね。良くも悪くも普通。ただ、勘が鋭いから、コイントスで裏表を当てさせるのは危険。別に運がいいわけではないので、目当てのほつが出ることはないだけマシかな。

「それじゃ」

コイントス、右手の親指で弾いたコインを左手の甲で受け右手で覆う。

「さあ、どっち？」

「表かな」

「ならわたしは裏ね」

左手に乗っていたコインは 表。

「 沙羅弥の先攻でいいよ」

「むっ。もしかして、さっきの話みたいに自分もワンキルしようと思ってる？」

「あはは、せいぜい気をつけなさいよ」

「どちらかというワンキルに気をつけるのはカッちゃんの方なんだけど……」

さて始めましょうか。

「デュエル」

「わたしのターン」

1枚ドロして6枚となった手札を確認。
今回は大寒波が無いので、まずは様子見。

「モンスターをセットしてターンエンド」

沙羅弥

LP8000、手札5

モンスター1（裏側守備）

わたしのデッキはモンスターを多めに入れているので伏せカードを用意できない場合が多い。基本は速攻による短期決戦なので、余り罫を入れるスロットが無いのよね。

「あたしのターン、ドロー」

今日はどれを使ってくるのかな？

カッチャンはデッキをたくさん持っているけど、モンスターを見れば簡単に判断できる。

「手札のレベル・ステイラーを墓地に送って、クイック・シンクロンを特殊召喚」

クイック・シンクロン

チューナー（効果モンスター）

星5 / 風属性 / 機械族 / 攻 700 / 守 1400

このカードは手札のモンスター1体を墓地へ送り、手札から特殊召喚する事ができる。

このカードは「シンクロン」と名のついたチューナーの代わりにシンクロ素材とする事ができる。

このカードをシンクロ素材とする場合、「シンクロン」と名のついたチューナーをシンクロ素材とするモンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

『遊星』で確定だわ。一般にはクイツクダンディと呼ばれてるデツキが近い。それでも遊星が使用したカードを優先的に使用してくる。

カツちゃんは原作のキャラクターの使うデツキを再現したがるから、こうして2〜3枚でデツキを特定できたりする。

「チューニング・サポーターを召喚。レベル1、チューニング・サポーターに、レベル5、クイツク・シンクロンをチューニング！集いし力が大地を貫く槍となる。光さす道となれ！シンクロ召喚！砕け、ドリル・ウォリアー！シンクロ素材にしたチューニング・サポーターの効果を発動して1枚ドロー」

チューニング・サポーター

効果モンスター

星1 / 光属性 / 機械族 / 攻 100 / 守 300

このカードをシンクロ召喚に使用する場合、

このカードはレベル2モンスターとして扱う事ができる。

このカードがシンクロモンスターのシンクロ召喚に使用され墓地へ送られた場合、自分はデツキからカードを1枚ドローする。

ドリル・ウォリアー

シンクロ・効果モンスター

星6 / 地属性 / 戦士族 / 攻 2400 / 守 2000

「ドリル・シンクロン」+チューナー以外のモンスター1体以上
1ターンに1度、自分のメインフェイズ時にこのカードの攻撃力を
半分にし、

このターンこのカードは相手プレイヤーに直接攻撃をする事ができ
る。

また、自分のメインフェイズ時に1度だけ、

手札を1枚捨ててこのカードをゲームから除外する事ができる。

次の自分のスタンバイフェイズ時、このカードの効果で除外した
このカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

その後、自分の墓地に存在するモンスター1体を手札に加える。

うん、今日もノリノリ（死語）ね。

見事にシンクロ召喚の口上を言っただけのカツちゃんはちょっと
尊敬に値する。わたしもなにか口上を考えようかしら。

「墓地のレベル・ステイラーの効果を発動して、ドリル・ウォリ
アのレベルを1つ下げて墓地から特殊召喚する。レベル・ステイ
ラーは守備表示よ」

レベル・ステイラー

効果モンスター

星1/闇属性/昆虫族/攻 600/守 0

このカードが墓地に存在する場合、自分フィールド上に表側表示で
存在する

レベル5以上のモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターのレベルを1つ下げ、このカードを墓地から特
殊召喚する。

このカードはアドバンス召喚以外のためにはリリースできない。

ドリル・ウォリアー 星6 5

「バトルフェイズ、ドリル・ウォリアーで守備モンスターを攻撃。
ドリル・ランサー」

わたしが伏せていたモンスターは魔轟神クシャノ。パラメータで勝るドリル・ウォリアーにクシャノは破壊される。

「メインフェイズに移って、ドリル・ウォリアーの効果を発動。黄泉ガエルを捨てて、このカードをゲームから除外するわ。この効果で除外したドリル・ウォリアーは次のあたしのスタンバイフェイズに特殊召喚する。ターンエンドよ」

海聖

LP8000、手札3

レベル・ステイラー（守備表示）

「チツ、ドリル・ウォリアーが面倒ね。わたしのターン、ドロ」

んんん、多分手札にアレを持つてるんだらうけど、待ってても仕方ないし、攻めよう。

「墓地のクシャノの効果を発動。手札のクシャノ以外の「魔轟神」を捨てて、墓地のこのカードを手札に加える。魔轟神獣ガナシアを捨てて墓地にクシャノを手札に戻す」

何気にクシャノも頻繁に手札、場、墓地を行き来するのよね。わたしのデッキの過労死モンスターの候補の1体。

魔轟神クシャノ

チューナー（効果モンスター）

星3 / 光属性 / 悪魔族 / 攻1100 / 守 800

手札から「魔轟神クシャノ」以外の「魔轟神」

と名のついたモンスター1体を墓地へ捨てて発動する。

自分の墓地に存在するこのカードを手札に加える。

「ガナシアの効果を発動。このカードが手札から墓地に捨てられた時、墓地から特殊召喚する。この効果で特殊召喚された場合、攻撃力が200アップし、場から離れる場合にゲームから除外されるわ」

召喚権を残して場に出せるという点ではガナシアも便利。強制効果なので、タイミングを逃さないのが優秀。

魔轟神獣ガナシア

効果モンスター

星3 / 光属性 / 獣族 / 攻1600 / 守1000

このカードが手札から墓地へ捨てられた時、

このカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したこのカードの攻撃力は200ポイントアップし、

フィールド上から離れた場合ゲームから除外される。

「手札の魔轟神グリム口を発動、自分の場に「魔轟神」が存在するとき、このカードを墓地に送って、デッキからグリム口以外の「魔轟神」を手札に加える。手札に加えるのは魔轟神獣チャワ。もう1枚グリム口を発動して魔轟神クルスを手札に」

グリム口も頻繁にお世話になる。サーチャーとしてそれなりに優秀だし、あまりアツッカーとして使いたくないけど、下級魔轟神の基礎パラメータでは攻撃力が高い。

魔轟神グリム口

効果モンスター

星4 / 光属性 / 悪魔族 / 攻1700 / 守1000

自分フィールド上に「魔轟神」と名のついたモンスターが表側表示で存在する場合、

手札からこのカードを墓地へ送る事で自分のデッキから「魔轟神グリム口」以外の

「魔轟神」と名のついたモンスター1体を手札に加える事ができる。

「手札を1枚捨てて、THE トリックキーを特殊召喚。トリックキーで捨てた魔轟神獣ケルベラルを特殊召喚。ケルベラルは手札から捨てられた時、墓地から特殊召喚する」

このトリックキーとケルベラルの組み合わせは召喚権を使わずに色々なことができて、とっても便利。よくトリックキーが奈落に落ちていくけど。

THE トリック

効果モンスター

星5 / 風属性 / 魔法使い族 / 攻2000 / 守1200

このカードは手札を1枚捨てて、手札から特殊召喚する事ができる。

魔轟神獣ケルベラル

チューナー（効果モンスター）

星2 / 光属性 / 獣族 / 攻1000 / 守400

このカードが手札から墓地へ捨てられた時、

このカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

「星2のケルベラル、星5のトリックでシンクロ召喚、エンシェント・ホーリー・ワイバーンを攻撃表示」

エンシェント・ホーリー・ワイバーン

シンクロ・効果モンスター

星7 / 光属性 / 天使族 / 攻2100 / 守2000

光属性チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

自分のライフポイントが相手より上の場合、

その数値だけこのカードの攻撃力はアップする。

自分のライフポイントが相手より下の場合、

その数値だけこのカードの攻撃力がダウンする。

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、

1000ライフポイントを払う事でこのカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

「手札の魔轟神獣チャワの効果を発動。手札の魔轟神クルスを捨ててチャワを特殊召喚する。クルスの効果発動、このカードが墓地に捨てられたとき、自分の墓地の星4以下の魔轟神を1体特殊召喚する。魔轟神グリム口を攻撃表示で特殊召喚」

魔轟神獣チャワ

チューナー（効果モンスター）

星1 / 光属性 / 獣族 / 攻 2000 / 守 1000

自分のメインフェイズ時に発動することができる。

手札から「魔轟神」と名のついたモンスター1体を捨て、

このカードを手札から特殊召喚する。

魔轟神クルス

効果モンスター

星2 / 光属性 / 悪魔族 / 攻 10000 / 守 8000

このカードが手札から墓地へ捨てられた時、自分の墓地に存在するこのカード以外の

レベル4以下の「魔轟神」と名のついたモンスター1体を特殊召喚する。

「カードを1枚伏せてクシャノを召喚。星1のチャワと星4のグリム口でシンクロ召喚。魔轟神レイジオンを攻撃表示。レイジオンの効果を発動、シンクロ召喚成功時、手札が1枚以下の場合に手札が2枚になるまでドローできる。わたしの手札は0なので2枚ドロー」

魔轟神レイジオン

シンクロ・効果モンスター

星5 / 光属性 / 悪魔族 / 攻2300 / 守1800

「魔轟神」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

自分の手札が1枚以下の場合、このカードがシンクロ召喚に成功した時、

自分の手札が2枚になるまでデッキからカードをドローする事ができる。

この魔轟神レイジオンはわたしのデッキのエンジンと言ってもいい。その効果はまさに未来を切り開く！

主人公的に言ったらならこんな表現になるのかな？ すると次からは「切り開け！ レイジオン！」くらい言っただけでシンクロ召喚しましよう。

「っ……」

前言撤回。逆転のカードを引ければともかく、引きが悪かったらカッコ悪すぎる。

「バトルフェイズ！ クシャノでレベル・ステイラーを攻撃。ガナシアでダイレクトアタック」

「手札から速攻のかかしを発動！ 直接攻撃を無効にしてバトルフェイズを終了させる。さすがに通さないって」

速攻のかかし

効果モンスター

星1/地属性/機械族/攻 0/守 0
相手モンスターとの直接攻撃宣言時、このカードを手札から捨てて発動する。

その攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する。

「ならメインフェイズで、星3のクシャノと星5のレイジオンでシンクロ召喚、スターダスト・ドラゴンを攻撃表示。伏せカード発動、貪欲な壺。墓地からレイジオン、トリツキー、グリム口を2枚、クルスをデッキに戻してシャッフルして2枚ドロップ……ターンエンド」

スターダスト・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星8/風属性/ドラゴン族/攻2500/守2000

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

「フィールド上のカードを破壊する効果」を持つ

魔法・罫・効果モンスターの効果が発動した時、

このカードをリリースする事でその発動を無効にし破壊する。

この効果を適用したターンのエンドフェイズ時、

この効果を発動するためにリリースされ墓地に存在するこのカードを、

自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

沙羅弥

LP8000、手札4

場 ガナシア、エンシェント・ホーリー・ワイバーン、スターダスト

「沙羅弥、あんた1ターンが長すぎ。待ちくたびれたわ
ー」
ドロ

いや、だってこれそういうデッキだもん。それにレイジオンで引いたカードさえ良ければ、もう少し回してるわよ。

一応スターダストを場に出してジャンク・デストロイヤーなんかの破壊効果への対策はしたけど、上手く行くかな……

「スタンバイフェイズに前のターンで除外したドリル・ウォリアーを特殊召喚。この時、自分の墓地のモンスターを1枚手札に加える。速攻のかかしを手札に加えるわ。それと墓地の黄泉ガエルの効果を発動。自分のスタンバイフェイズに魔法・罫ゾーンにカードが存在しない場合、墓地から黄泉ガエルを特殊召喚できる。黄泉ガエルは守備表示よ」

黄泉ガエル

効果モンスター

星1 / 水属性 / 水族 / 攻 100 / 守 100

自分のスタンバイフェイズ時にこのカードが墓地に存在し、自分フィールド上に魔法・罫カードが存在しない場合、

このカードを自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

この効果は自分フィールド上に「黄泉ガエル」が表側表示で存在する場合は発動できない。

やっぱり速攻のかかしを戻されたか。これでまたバトルフェイズを強制終了される。

ドリル・ウォリアーの効果で延々とそれを繰り返されると非常に

厄介。速攻を軸とするわたしにとって、手札誘発のモンスター効果は天敵と言える。そして、このデッキにはそのループを破る対策が殆どないので早急にどちらかを始末しないと！

「手札のグローアップ・バルブを墓地に送り、クイック・シンクロンを特殊召喚。墓地のグローアップ・バルブの効果発動。デッキの一番上のカードを墓地に送り、墓地から特殊召喚」

グローアップ・バルブ

チューナー（効果モンスター）

星1/地属性/植物族/攻 100/守 100

自分のデッキの一番上のカードを墓地へ送り、

墓地に存在するこのカードを自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

「グローアップ・バルブ」の効果はデュエル中に1度しか使用できない。

「墓地のレベル・ステイラーの効果を発動。クイックシンクロンのレベルを1下げて特殊召喚」

クイック・シンクロン 星5 4

「レベル1、レベル・ステイラーにレベル1、グローアップ・バルブをチューニング！ 集いし願いが新たな速度の地平へ誘う。光さす道となれ！ シンクロ召喚！ 希望の力、シンクロチューナー、フォーミュラ・シンクロン！ フォーミュラ・シンクロンの効果で

カードを1枚ドロ―」

フォーミュラ・シンクロン

シンクロ・チューナー（効果モンスター）

星2 / 光属性 / 機械族 / 攻 200 / 守1500

チューナー+チューナー以外のモンスター1体

このカードがシンクロ召喚に成功した時、

自分のデッキからカードを1枚ドロ―する事ができる。

また、相手のメインフェイズ時、自分フィールド上に表側表示で存在する

このカードをシンクロ素材としてシンクロ召喚をする事ができる。

「レベル・ステイラーを発動。ドリル・ウォリアーのレベルを1つ下げ、特殊召喚」

ドリル・ウォリアー 星6 5

「レベル1、黄泉ガエルにレベル4、クイツク・シンクロンをチューニング！ 集いし星が新たな力を呼び起こす。光さす道となれ！シンクロ召喚！ いでよ、ジャンク・ウォリアー！ ジャンク・ウォリアーの効果発動、このカードのシンクロ召喚された時に自分の場に存在する星2以下のモンスターの攻撃力分アップする。パワー・オブ・フェローズ！」

ジャンク・ウォリアー

シンクロ・効果モンスター

星5 / 闇属性 / 戦士族 / 攻2300 / 守1300

「ジャンク・シンクロン」+チューナー以外のモンスター1体以上
このカードがシンクロ召喚に成功した時、このカードの攻撃力は
自分フィールド上に表側表示で存在する
レベル2以下のモンスターの攻撃力の合計分アップする。

ジャンク・ウォリアー ATK2300 3100

「レベル1、レベル・ステイラーとレベル5、ドリル・ウォリアーにレベル2、フォーミュラ・シンクロンをチューニング！ 集い
願いが新たに輝く星となる。光差す道となれ！ シンクロ召喚！
飛翔せよ、スターダスト・ドラゴン！」

お互いの場にスターダストが並んだ。今気づいたけど、さっきわたし
が呼んだときにも口上言えばよかったのよね。被るとアレだから
キング、もとい元キングバージョンで。

「デブリ・ドラゴンを召喚。その効果でフォーミュラ・シンクロンを
特殊召喚」

デブリ・ドラゴン

チューナー（効果モンスター）

星4 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻1000 / 守2000

このカードが召喚に成功した時、

自分の墓地に存在する攻撃力500以下のモンスター1体を

攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される。

このカードをシンクロ素材とする場合、

ドラゴン族モンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

また、他のシンクロ素材モンスターはレベル4以外のモンスターでなければならない。

フィールドにフォーミュラ・シンクロンとスターダストが揃ったとなれば、当然、あのモンスターが来る！

「レベル8、スターダスト・ドラゴンに、レベル2、シンクロチューナー、フォーミュラ・シンクロンをチューニング！ 集いし夢の結晶が新たな進化の扉を開く。光さす道となれ！ アクセルシンクロ！！ 生来せよ、シューティング・スター・ドラゴン！！」

シューティング・スター・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星10/風属性/ドラゴン族/攻3300/守2500

シンクロモンスターのチューナー1体＋「スターダスト・ドラゴン」以下の効果をそれぞれ1ターンに1度ずつ使用できる。

自分のデッキの上からカードを5枚めくる。

このターンこのカードはその中のチューナーの数まで

1度のバトルフェイズ中に攻撃する事ができる。

その後めくったカードをデッキに戻してシャッフルする。

フィールド上のカードを破壊する効果が発動した時、その効果は無効にし破壊する事ができる。

相手モンスターの攻撃宣言時、このカードをゲームから除外し、相手モンスター1体の攻撃を無効にする事ができる。

エンドフェイズ時、この効果で除外したこのカードを特殊召喚する。

シユールディング・スター・ドラゴン、アニメで大活躍の主人公の切り札モンスター……いいわ、大分アニメっぽい闘いになってきたじゃない！

「手札の貪欲な壺を発動、墓地からドリル・ウォリアー、グローアツプ・バルブ、クイツク・シンクロン×2、チューニング・サポーターをデッキに戻し2枚ドロー」

ぐう、手札が減らない。あれだけ消費しているのに、まだ減らないなんて。

「シユールディング・スター・ドラゴンの効果発動！ デッキの上から5枚めくり、その中のチューナーの数だけ攻撃できる。1枚目、サイクロン、2枚目、クイツク・シンクロン、3枚目、ジャンク・シンクロン、4枚目、シンクロン・エクスプローラー、5枚目、エフェクト・ヴェーラー。チューナーは3枚ね、このターンは3回の攻撃が可能になる」

相変わらず引きが強い！

貪欲な壺でデッキのチューナーの比率を高めたからって、あのデッキで3枚めくるなんて！ アニメで遊星が機皇帝を相手にすると5枚連続でめくるのって、あれ明らかに積み込みでしょ？

バトルフェイズ、ジャンク・ウォリアーでエンシエント・ホーリー・ワイバーンを攻撃。スクラップ・フィストツ！……ダメーjistテツプ、ある？」

「通すわ」

沙羅弥 8000 7000

残念ながらこの攻撃は通す。

相手が手札を持つてる場合、光属性モンスターに攻撃するときってドキドキするわよね。相手の「ダメステいいですか？」に恐怖した人も多いはず。

「エンシエント・ホーリー・ワイバーンは死なせない エンシエント・ホーリー・ワイバーンの効果発動。戦闘で破壊され墓地に送られた時、1000ライフを払って特殊召喚する！ 守備表示！」

沙羅弥 7000 6000

「え……そいつそんな効果あつたんだ……普段フィニッシャーとしてしか使われないから忘れてたわ」

「……わたしも滅多に使ったことのない効果よ」

と言うより、普段からフィニッシャーが戦闘破壊されるという状況はまずいでしょ。カッチャんの驚きももつともよ。本当を言うと今初めて使ったし。

「バトル続行！ シューティング・スターでスターダストを攻撃、スターダスト・ミラーージュ！」

沙羅弥 6000 5200

「シューティング・スターでガナシアに攻撃」

沙羅弥 5200 3700

「ガナシアは自身の効果で除外されるわ」

「シューティング・スターでワイバーンを攻撃！」

「わたしのエースの1体を下級モンスターみたいに呼ばないで！
エンシエント・ホーリー・ワイバーンの効果を発動して守備表示で
特殊召喚」

沙羅弥 3700 2700

ちなみにこれのことよ。

ワイバーン

通常モンスター

星4 / 風属性 / 鳥獣族 / 攻1200 / 守1000

皆を守る翼竜の色違い。珍しいカードだから持つてる人は大切に
してあげてね。種族が鳥獣族であって、ドラゴン族じゃないので注

意！

「メインフェイズ2で、ジャンク・ウォリアーのレベルを1つ下げ、レベル・ステイラ を守備表示で特殊召喚。カードを1枚伏せてターンエンド」

ジャンク・ウォリアー 星5 4

海聖

LP8000、手札2

シューティング・スター、ジャンク・ウォリアー、デブリ・ドラゴン、レベル・ステイラー

伏せ1

「わたしのターンよ！ ドロー」

よし、行ける！

ドローしたカードに描かれた猫を見ているとそう思えた。ふふ、この子は可愛いだけが取り柄じゃないんだからね？

「墓地のクシャノの効果を発動、手札の魔轟神獣キャシーを捨ててクシャノを手札に戻す。キャシーの効果を発動、このカードが墓地に捨てられた時、表側表示のカード1枚を破壊する。シューティング・スターを破壊」

魔轟神獣キャシー

チューナー（効果モンスター）

星1 / 光属性 / 獣族 / 攻 800 / 守 600

このカードが手札から墓地へ捨てられた時、

フィールド上に表側表示で存在するカード1枚を破壊する。

「させるわけないでしょ！ シューティング・スター・ドラゴンの2番目の効果発動。場のカードを破壊する効果を無効にして破壊する！ これでキャシーの効果を無効にするわ」

予定通りキャシーは防がれる。でもこれで大丈夫。もうシューティング・スターは無力化されたも同然！

あなたの犠牲は無駄にはしないからね、子猫ちゃん。

「手札のクルスを捨ててTHE トリツキーを特殊召喚。クルスの効果で墓地からケルベラルを特殊召喚」

「またその組み合わせえ？」

「ワンパターンだと言われても仕方ないけど、この組み合わせは基本でしょ。ケルベラルとトリツキーでシンクロ召喚。アーカナイト・マジシャン、守備表示！」

アーカナイト・マジシャン

シンクロ・効果モンスター

星7 / 光属性 / 魔法使い族 / 攻 400 / 守 1800

チューナー+チューナー以外の魔法使い族モンスター1体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、

このカードに魔力カウンターを2つ置く。

このカードに乗っている魔力カウンター1つにつき、このカードの攻撃力は1000ポイントアップする。また、自分フィールド上に存在する魔力カウンターを1つ取り除く事で、

相手フィールド上に存在するカード1枚を破壊する。

「シンクロ召喚成功時、アーカナイト・マジシャンに魔力カウンターが2つ乗るわ。そしてアーカナイト・マジシャンの効果発動、魔力カウンターを1つ取り除いて、まずは伏せカードを破壊。もう1つ取り除いてジャンク・ウォリアーを破壊する」

破壊したのはスターライト・ロード。

いい流れだわ。あれを警戒してブラック・ローズ・ドラゴンを出さなかったんだけど、正解だったみたい。

「？ シューティング・スターを破壊しないんだ？」

「ええ、シューティング・スターには今から消えてもらうから。手札のチャワの効果発動。魔轟神ルリを捨てて、特殊召喚。そしてルリの効果発動、このカードが手札から捨てられた時、墓地から特殊召喚する」

魔轟神ルリ

効果モンスター

星1 / 光属性 / 悪魔族 / 攻 2000 / 守 400

このカードが手札から墓地へ捨てられた時、

このカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

「チャワ、アーカナイト・マジシャン、ルリーでシンクロ召喚、氷結界の龍 トリシューラ」

氷結界の龍 トリシューラ

シンクロ・効果モンスター（制限カード）

星9 / 水属性 / ドラゴン族 / 攻2700 / 守2000

チューナー＋チューナー以外のモンスター2体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、

相手の手札・フィールド上・墓地のカードを

それぞれ1枚までゲームから除外する事ができる。

「トリシューラの効果を発動。墓地の黄泉ガエル、場のシューティングスター、手札を1枚除外する」

「あー、折角早い段階で出せたのに！」

「守る手段を用意してなかったからでしょ」

カツちゃんのデッキには除外したカードを帰還させる手段がない筈なので、シューティング・スターは破壊せず、除外しておく。唯一の気掛かりだったエフェクト・ヴェーラーは、さつき効果でデッキをめくった時に、中にあるのを確認したし。これで手札の速攻のかかしを除外できれば……あ、当たった！ ふふ、ますますいい流れじゃないの。

「クシャノを召喚。クシャノとエンシエント・ホーリー・ワイバーンでシンクロ召喚。出なさい！ 魔轟神レヴュアタン！」

魔轟神レヴユアタン

シンクロ・効果モンスター

星10 / 光属性 / 悪魔族 / 攻3000 / 守2000

「魔轟神」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

フィールド上に存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた時、自分の墓地に存在する「魔轟神」と名のついた

モンスターを3体まで選択して発動する事ができる。

選択したモンスターを手札に加える。

魔轟神最高のレベルを持つシンクロモンスター、レヴユアタン。

難点は効果が破壊された時に発動するので、やや後ろ向きなことで、任意効果なのでタイミングを逃すことがあること。強制効果だったら嬉しいのに……それでも高レベルのモンスターをシンクロ素材にして出せるために、1枚入れておけば使いどころは十分にある。

「バトルフェイズよ！ レヴユアタンでデブリ・ドラゴン攻撃」

海聖8000 6000

「トリシューラでレベル・ステイラーを攻撃して、ターンエンドよ」

沙羅弥

2700、手札0

トリシューラ、レヴユアタン

ふふん、ライフ・アドバンテージはまだ向こうにあるし、手札も全部使っちゃったけど、ボード・アドバンテージは取り返したわ。このまま押し切ってみせる！そして連敗記録を止める！

「あたしのターンだけど……沙羅弥、ドロウする前に聴いておくわ」

「なに？」

「あんだ、あたしが遊星デッキ使ってると思ってるでしょ？」

え？

「確かにさつきから、そんなカードばかり来てるけどさ、これ違うからな？」

え？ え？

何を言ってるの？それが遊星デッキじゃなかったら何だって言うのよ？

「それじゃ、ドロウ 来たわ、スタンバイフェイズは終了するわよ？ お互い伏せカードも無ければ、そういうカードも墓地に無いんだし」

カツちゃんはそう言って、ドロウしたカードを手札に加え、そのまま発動した。

「未来融合 - フューチャー・フュージョン。エクストラデッキのキメラテック・オーバー・ドラゴンを公開して、デッキからサイバー・ドラゴンを2枚、クイック・シンクロンを3枚、ボルト・ヘッジホッグ2枚、チューニング・サポーター2枚、シンクロン・エクスプローラー2枚を墓地に送る」

未来融合 - フューチャー・フュージョン

永續魔法（制限カード）

自分のデッキから融合モンスターカードによって決められたモンスターを

墓地へ送り、融合デッキから融合モンスター1体を選択する。

発動後2回目の自分のスタンバイフェイズ時に選択した融合モンスターを

自分フィールド上に特殊召喚する（この特殊召喚は融合召喚扱いとする）。

このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

うわ！ やられた！ このパターン、残りの手札は絶対にアレじゃない！

「トリシューラのとき、こっちを選べば少しは違ったのにねえ？」

カードをゆらゆらと揺らしながら笑いかけてくる。

そこでそんな優しい顔で笑わないで！ すっごく傷つくから！

「最後の手札、オーバーロード・フュージョン発動。墓地の機械族を全てゲームから除外して」

オーバーロード・フュージョン

通常魔法（制限カード）

自分フィールド上または墓地から、

融合モンスターカードによって決められたモンスターをゲームから除外し、

閻属性・機械族の融合モンスター1体を融合デッキから特殊召喚する。

（この特殊召喚は融合召喚扱いとする）

「キメラテック・オーバー・ドラゴンを融合召喚！」

キメラテック・オーバー・ドラゴン

融合・効果モンスター

星9 / 閻属性 / 機械族 / 攻 ? / 守 ?

「サイバー・ドラゴン」+機械族モンスター1体以上

このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードの融合召喚に成功した時、

このカード以外の自分フィールド上のカードを全て墓地へ送る。

このカードの元々の攻撃力と守備力は、

融合素材にしたモンスターの数×800ポイントの数値になる。

このカードは融合素材にしたモンスターの数だけ

相手モンスターを攻撃する事ができる。

キメラテック・オーバー・ドラゴン ATK8800

「伏せカードは無し、手札が0でオネストの心配も無し、と。手札があってもトリシューラを狙えば関係なし、終わりね。バトルフェイズ、キメラテック・オーバー・ドラゴンでトリシューラと、ついでにレヴュアタンにも攻撃！ エヴオリューション・レザルト・バースト！！」

これだけアニメカードを使った戦いだもの、最後まで付き合いますよ。

「ウボアー————」

何でチョイスがコレかはレヴュアタンのイラストを見てね

沙羅弥27000

わたしの負け。

それでも昨日よりはマシかな。デッキはきちんと回ってたし、相手のフィールドを攻略するやり取りもあった。

「沙羅弥、強くなりたいなら相手のデッキを読み間違えるなんて論外だよ？」

「……………シューティング・スター辺りまでを見れば、実はシンクロ

フュージョンデッキでした』、なんて思わないじゃない？」

「可能性は0じゃないんだからさ、1枚目のカードを見た時点でデッキの予想をやめちゃダメ。マストカウンターだって読み間違えることになるよ？」

「うっ、肝に銘じておくわ」

「それじゃ、いつものご褒美タイムね」

デッキをケースに納めたカツちゃんが両手を大きく左右に広げている。

「……別に約束してないよね……？」

「だーめ。決闘前に、胸を貸すって言ったら、『お願いするわ、おねえちゃん』って答えたじゃない？」

満面の笑みとポーズを維持したまま、頑として譲りそうにはない。それ、絶対意味違うんだけど……うっ、厭じゃないけど恥ずかしい。

「次抱かせてね」

ルリエさんも後ろに並んでる!？

「ほらほら、観念して、こっちにいらっしやうい」

「……わかったわよ」

「

諦めて、歩みよると

ぎゅむ

広げていた両腕は即座に背中に回され、心地よい圧迫感に包まれた。

「はあー。沙羅弥抱き心地いいよねえー。髪の毛はサラサラですつと撫でていたいし」

なでなで

「腕の中に収まる体に癒されるし、ドレスの感触も気持ち良いし」

すりすり

「……しわになるようなこと、しないでね」

「大丈夫大丈夫……すう」

くんくん

(髪の匂いを嗅ぎ始めた)

「全体的に良い匂いがするし〜」

それは単にわたしの使ってるシャンプーの香りなんじゃないの？

「海聖、早く！ 早くお姉ちゃんにも抱かせて！」

ルリエさんには心待ちにされてる。

「ヤダ。気持ち良いから、まだ抱いてたい」

「わたし、愛玩動物じゃないからね？」

この後しばらく、わたしは二人が満足するまで交互に抱きしめられていたのであった。

……子供に取り合いされるぬいぐるみって、こんな気持ちなのかしら？

第三話 お隣さん（後書き）

（次回予告）（いつものノリで）

沙羅弥です！ って、わたしまた負けちゃってるし！？

やっぱりシューティング・スター・ドラゴンの時にオネストを持っていなかっただのは痛かったです。あと、わたし手札使いが荒すぎるんじゃないか？ 5枚くらいあってもすぐに無くなっちゃうんですよね。アニメや漫画の壊れたドロワー効果の魔法カードが欲しいです。あと、ソリッドヴィジョンシステム対応の^{デュエルディスク}決闘盤も。

そんなことより次回は、いい加減に^{デュエル}決闘したいと五月蠅い厨二病全開ルックスの兄、十夜と^{デュエル}決闘することになりそうです！

お時間があれば、またお付き合ってくださいね。

第四話 本気モードなんだから！（前書き）

沙羅弥デユエルです。見てくださっている方、ありがとうございます。

決闘デユエルは毎回全力なわたしですが、今回はわたしの本気を皆さんにお見せしましょう。それでは、スタート！

第四話 本気モードなんだから！

目覚ましの音、窓から射す光、朝の象徴とでもいうべきそれらを認識した瞬間、わたしは目を覚ました。

「……………?」

視界に入ったのは、見慣れた天井。我が家の天井であり、その事実は間違いない。

ただどこか違和感を感じる。

次に感じたのは身体を柔らかく包む布団の感触と、その匂い。布団からはいつものわたし自身の匂いではなく、もっと別の……

「……………? ??」

この感じは……

「……………十夜?」

そこでわたしはようやく、自分が十夜の部屋で、十夜のベッドで寝ていることを自覚した。

眠い眼をこすり、欠伸を噛み殺しながら、時計を確認する。いつもより少し遅い時間。もう起きて支度しないと……

っつ、どっぴりいっしょとやー?」

なんでわたし十夜のベッドで寝てるの!?!?!

「!?!? !?!? !?!?!!?!?」

寝起きのためか、驚きのためか、頭がうまく働いていない。

落ち着けわたし、まずは落ち着くの!

そのためにはまず深呼吸して

「すう」

布団に入ったまま、大きく深呼吸。

「!?!?」

当然、わたしのものとは明らかに違う、十夜の 男の子の匂いを思いつきり吸い込むことになり、わたしの置かれたこの状況に、改めて混乱した。

「沙羅弥、起きてるかー?」

「ひいやああああっつ!?!?」

勢いよく開いたドアに心臓が跳ね上がりそうになる。頭から布団を被って蹲ってしまった。

「……人の顔を見るなりその反応。流石に傷つくぞ」

「ドアを開ける前にノックしてって、いつも言ってるじゃない!!」

「ここは俺の部屋なんだがな」

「だからって そうだ！ 十夜、あなた……わたしを……妹を部屋に連れ込んで、何を……ナニをしたの!？」

「なんもしてねーよ。あと、その発音はやめろ」

「嘘！ それじゃあ、どうしてわたしはここで寝てるの!？」

「お前が勝手に寝てたんだろーが」

あれ？ 完全に呆れられてる？

嘘を吐くのが上手なタイプじゃないし、昨夜のことを思い出してみましよう。

えーと、この前のカツちゃんとの決闘デュエルを踏まえて、デッキを調整した後、試してみようと思って十夜の部屋へ来たんだっけ。

タイミング悪く、十夜はお風呂に行こうとしてたので待ってるように言われたけど、十夜は冬場にエアコンを使う習慣がないので、部屋の中は冷えきっていた。

暖房が効いてくるまで寒かったから、布団にくるまって寒さを凌いでたら……この辺りで記憶が終わってるわね。

やっぱりお風呂上がりに布団に入っちゃ駄目だわ。睡魔に負けたらしい。

「まるで子供みたいね」

「正真正銘のお子様だろ」

自嘲気味に呟いた言葉に律儀に突っ込みを入れられる。

でも待つて。わたしがここで寝ていたということは、十夜は何処で？

「……十夜は何処で寝たの？」

「勿論お前の布団で 待て、冗談だ。目覚まし時計を投げようとするのはヤメロ。落ち着け、落ち着くんだ沙羅弥。兄の話をお願いしてくれ。さあ、まずはその振り上げた手を下ろすんだ」

一見、十夜は焦っているようだけど、あれはポーズ。

この距離でわたしが投げた目覚ましくらいなら問題なく受け止めることができるので、脅威にはなり得ない。

「いいか、よく聴いてくれ。俺は昨夜客間で寝たんだ。お前がベッドを占領していたから、最初はリビングのソファで寝ようとしたんだが、八尋に止められてな」

それは止めるのが普通でしょう。わたしも一人の時はソファでゴロゴロしたりもするけど、あんなところで寝たら風邪をひく……いや、十夜に限ってそれはないか。

「なにかスゲー失礼なことを考えてる気がするが、とにかく俺はお前の部屋には入っちゃいないし、お前の布団を使ってもいない」

「ふうん。いいわ、信じましょう」

「なんで俺の部屋で勝手に寝てたお前が、そんなに偉っそーにふんぞり返って、上から目線なんだろうな。それより早く起きて来いよ」

「あ、十夜」

言うだけ言って出て行くこととする十夜を呼び止めて、

「おはよう。それと、色々ごめんね」

「ああ、おはよう」

これ、アニメだったらアバンタイトル終了からオープニングの流れよねえ。

わたしがそんなことを考えているとも知らず、十夜は笑った。

せっかくなので適当にそれっぽい曲を再生しましょうか。

さて、一曲流してる間に着替えも済んだことだし、あとは髪を整えるだけ。

鏡に向かって髪を鋤く。

十夜の目覚ましで起きたため、いつもわたしがセットしている時

間とはやや遅くなっている。これで今日の朝食当番とかだったら大変だったけど、暫くその役は回ってこない。

先日お風呂掃除をしなかった一件の罰で、朝食とお風呂の掃除を十夜が一週間引き受けている。

「余裕は無いけど、まだ慌てる時間でもないってね」

せっかくの綺麗な髪が乱れてちや魅力が活かせない。お気に入り曲を口ずさみながら、念入りに髪を鋤き続ける。ちよっとだけ、十夜の短時間でセットできる髪が羨ましく思えてくるわ。

「おはよう兄さん」

「おはよう」

身支度を整え、下に降りると既に八尋兄さんはいつもの定位置、リビングのソファに腰かけてニュースを見ていた。

余りテレビに関心の無い兄さんも朝と夜はニュースをチェックするのは欠かさない。

最新の情報を持つておきたいならパソコンや携帯を使えば良さそうなものなのに、兄さんはその手の操作が苦手。

携帯の使い方はカッチャんに教わっていたけど、結局覚えたのはメールの打ち方とアドレスの呼び出し方。登録するのは自分では難しいとのこと。

バイト先ではパソコンを触ってる筈なので、覚えようという気を持ち方が問題なのかしら。

「できたぞー」

朝食の準備を終えた十夜が呼びに来た。

今日の朝餉は鯖の塩焼き、ほうれん草のバター炒め、そしてあの夜以来毎回食卓に並び、もはや我が家の定番メニューと化しつつある大根の味噌汁。

大根は連日消費して減らしていったというのに、ある朝起きたら増えていた。ミステリーの香りがするわ。

ほうれん草のバター炒め、これって普通にソテーよね。兄さんも十夜もバター炒めって呼ぶけど、どこが違うのかはよく知らない。炒める前にほうれん草を茹でてアク抜きしている。ほうれん草はアクが強いから一度茹でてから炒める方がわたしは好き。

あまり強く炒めると水分が飛んで、しんなりし過ぎて乾燥したようになるから、バターを和えるくらいの気持ちで軽く炒める程度。具材にしめじとカリカリになったベーコンを合わせるのは十夜の好み。わたしが作るならベーコンじゃなくウインナーを使うかな。ウインナーの旨味はバターと相性がいいし。

鯖の方は塩加減がちょっと強い。だけど、これくらい味の強いおかずがあるとご飯が進むと、十夜はこういう味付けを好む。男の子って、みんなそうなのかな？

「今日の味噌汁、少し薄いね」

兄さんの言う通り、鯖の塩気が強いかわりか、味噌汁がいつもより薄味になっている。

一応塩分量とかも考えてはいるのね。その辺は素直に感心する

「ああ、分量を間違えたんだ」

感心して損したわ！

「そっぴゃ沙羅弥、お前なんの用があつて俺の部屋に来たんだ？」

「ちょっと、テストに付き合つて貰おうかと思つてただけど」

「ああ、試験が近いもんね」

え？

「なんだ、試験勉強なら八尋に聞いた方が確実だろ」

「いや、違つて……」

「ボクなら付き合つよ。海聖とも勉強するし、沙羅弥の分くらいなら手間にもならないから」

「羨ましい台詞だな。年下が相手とは言え、俺にはこいつに教えるほどの自信はねーな」

「十夜も一緒に勉強するかい？」

「俺はいい。自分のペースで勝手にやる」

なんかどんどん話に変な方に進んでいつてる。

「帰つたら見てあげるよ」

「そーして貰え」

ええ〜っ!?

何でわたし放課後まで勉強することになってるの？

「後で海聖にも声をかけておくよ」

カッチャンゴメン。もう止められそうにないわ。

「ごちそうさま」

「沙羅弥、歯みがいとけよ。食器洗ったら洗面所は俺が使っからな」

はいはい。子供じゃないんだから、言われなくても歯みがきくらいするってば。

朝食の当番が食器を洗っている間に他の二人が歯をみがいておくのが我が家のルールの一つ。

こういつのって家庭によって違うから、友達と話していると、たまに会話が噛み合わなくなるわよね。特に家事をルリエさんに頼りつきりなカッチャンとか（笑）

「忘れ物は無いね、行くよ」

「行ってきます」

学園に行く前に向かうのはお隣さん。

「おはようございます。海聖は準備できてますか？」

『おはようヒロ君。海聖は』

『ごめん！　すぐ支度するから、ちょっと待ってて！』

ドアホン越しのルリエさんの言葉を遮ってカツちゃんが叫んでる。
今日も朝から元気ね。

『と、いうわけなの。上がってちょうだい』

「はい、お邪魔します」

まだ慌てるような時間じゃないので上がらせて貰う。元々カツちゃんを待つ時間を考慮して早めに出てるんだしね。

「ごめんごめん、お待たせ。それじゃ、行ってきます」

「行ってらっしゃい。4人とも気を付けてね」

ルリエさんに見送られて4人で登校。これがわたしにとっての正しい朝の形と言える。

「ええーっ。まだ試験範囲も発表されてないのに、何でもう勉強するの？」

「沙羅弥がやる気になってるから。ボクらも早めに準備しておいた方がいいんじゃないかな」

「なに？ 沙羅弥ってば高等部に来ないで、外部受験でもする気になったの？」

「そういつわけじゃないけど、なんとなく」

今さら誤解だと説明するのも面倒になったしね。

わたし達の通う私立九頭龍学園は初等部から大学まで、エスカレーター式の一貫教育を取っている。

なので余程のことでも無い限り、進学に心配はない。

「受験といえば十夜は来年どうすんの？」

「このまま高等部上がる。今さら外に行くなんて面倒だし、金もかかるし」

「十夜が外部受験したいなら、すればいいよ。お金のことを気にしてるなら大丈夫。学費にあてる分なら、あるんだからさ」

「そう言われても、別に行きたいところもないからなあ。ここなら家からも近いし」

家から近い。学校に通ううえで、これって重要なポイントよね。もし電車とか使うようなところに通ってたら、カッチャンを待って

遅刻するのが日常化してるわ。

「さ〜ら〜や〜」

「え？」

不意に正面から抱きすくめられた。

「ちよつと、こんな往来で何を!??」

「言ってくれるじゃないの〜。日常的に待たせて悪かったわね〜」

今回は強めに抱かれているため、振りほどけない。

「この前もしてたけど、考えてることを口に出すのは癖なの？ だつたら直しておかないと後々苦労すよ？」

「うっん、今回ののはわざと……ふやあ、カツちゃんそこダメエ！」

「変な声を出すなあっ！ あたしにそのケがあるみたいじゃない……ん〜？ なんか今日いつもと違う感じの匂いする？」

すすすんと鼻を鳴らして確かめられる。さすがにこの密着状態じゃ気付かれるわよね。カツちゃんは友達だし、「正直に」話しましよつか。

顔を伏せて、表情を隠しとかないとね。

「うん、昨日は十夜のベッドで寝たから……朝も十夜と……」

話をしただけ、と小声で付け足す。

「何ソレどういうこと!? 十夜、あんたとうとう妹に手を出したわけ!?!」

あらら、首でも絞めそんな勢いで詰め寄っちゃって。抱擁から解放されると、ちよつとさつきまでの時間が惜しくなるのよねえ。

「ちっげーよ!! ってか、とうとうって何だよ!? カツちゃんはずつと俺をそんな風に見てたのかっ!?!」

「昨夜はあんなに優しくかったのに……もうわたしとこのことを否定するの?」

「もじもじしながら話がややこしくなるようなことを言ってくるんじゃないー!?!」

「だからそれを今聞いているんでしょうが! さあ、正直に話さない! 今のはどう聞いても一線越えちゃってるんじゃないの!?!」

朝からこんな話を大声でするなんて(笑)

兄さんも微笑ましいものを見るように見守ってるし、暫くは二人は放っておきましょう。

……

……

……

「じゃあ本当に手を出してないのね？」

「当たり前だろ！ いい加減信じてくれよ！」

まだ続いているし。そろそろ学園に着くんだけど。

さすがに止めようかと思ったら兄さんに先を越された。

「海聖、そのくらいにしておきなよ」

「まだ言い足りないくらいだけど……未遂だったみたいだし、今回はこのくらいで勘弁してあげる」

「だから俺は無実だって最初から」

「もう聞いてないみたいよ？ 兄さんと話すのに意識が行ってるし」

「はあ……朝からスゲー疲れた。もう今日は授業中寝てよう……」

学園に着く前から疲れきった顔と声でそんなことを呟いてる。でもサボるんじゃない、教室で寝るあたり、真面目なんだか不真面目なんだか。

「そもそも八尋はこういうとき、何で助けられないんだ。あいつは本当のことを知ってるじゃないか」

「見てて面白かったんじゃないの？」

「俺の周りにはこんな奴ばかりか」

なにを今更。十夜も間違いない。『こんな奴』に含まれてるんだか

ら当然じゃない。

「それじゃ、また昼休みに」

「食堂で待ってるからね」

兄さんとカツちゃんは高等部の校舎に、わたしと十夜は中等部の校舎へ。

「さてさて、今日も一日、退屈な授業に耐える苦行の時間ね」

「俺は寝る」

「兄さんにバレないといいわね？」

「お前が何を言っても、試験で点を取ってる限りは怒られねーよ。授業には出てんだし」

こんなんでも成績が上位に位置してるんだから、世の中間違ってるわ。頭のできとかじゃなく、要領の問題だっていうけど、その要領の良さが身につかないから困ってるって言うのに。

放課後を告げるチャイムが響く中、教室に十夜が来た。

「沙羅弥、帰ろーぜ」

「……………ちよっと待って」

わたし今登校してきたとこだったわよね。既に放課後になってるんだけど。

「どうした？　なんか気になることでもあんのか？」

「いつ放課後になったのかと思って」

「何言ってるんだ？　見てみる、現在時刻は午後3時30分。太陽は既に西に傾いて、グラウンドでは気の早い奴らが部活を始めてる。もう放課後であることを示す何よりの証拠だろ？」

確かに、それらの情報は放課後であると示しているけど、なんかおかしいのよね。まるで尺の都合で、特にイベントが無い部分をカットされた映画を地上波で観ているかのような不自然さを感じるわ。

或いは面倒になって日常パートを途中で投げ出した素人が書いた小説のような……………

？

「今、世界の外側で誰かが焦ったような気配がしなかった？」

「……………ホントに大丈夫か？　最近お前ますますおかしくなってるぞ」

うわぁ、なんっつってムカつく視線。その可哀想な子を見る目はやめなさいって。

わたし最近十夜にこんな風に見られてばかりの気がするわ。

「変なこと言っていないで、さっさと帰ろーぜ。晩飯の用意もあるんだから」

そういえば今日の当番は十夜だったけ。最近朝食の担当が毎回十夜だからローテーションがややこしいのよね。

そうだ！

「手伝ってあげようか？」

「その笑い、明らかに何か考えてるだろ」

「勿論。わたしと決闘デュエルしましょうよ。十夜が勝ったらカレー作ってあげる」

「お前が勝った場合は？」

「夕飯にわたしの好きなものを作って」

「それくらいなら条件としては妥当か。よし、その挑戦受けよう」

これでやっと昨日からの目的を果たせる。そうと決まれば早く帰って決闘デュエルしましょう。

「ただいま、おかえり」

「ただいま」

いつもの挨拶を済まし、一度部屋に戻る。いつまでも制服のままではいたくない。

九頭龍学園の制服はデザイナーによるものらしく、世間では可愛いとか、お洒落だとか言われているけど、わたしの趣味には合わないもの。加えて、わたしは「制服」が好きじゃないし。

せつかくの十夜との決闘^{デュエル}、やっぱりわたしらしい格好じゃないとね。それに、この決闘^{デュエル}にはいつも以上の意味がある。

八尋兄さんに負け、カッチャんに負けた。ここで十夜にも負ければ、わたしは……

『塵^{チリ}』

いやいやいや、いくらなんでも卑屈すぎるわよ！

どうしてみんなに負けたくらいで、塵^{チリ}になるのよ！？

頭を振って余計な考えを追い出す。

でも負けたくない一戦ではあるし、気合いを入れる意味で、いつもの格好にちよつと手を加えましょうか。本格的にやるのは久しぶりで、腕が鳴るわ。

「おまたせー」

「……………」

あら、リアクション無し？

「ねえ十夜、バッチリ決めてきたわたしに、なにか言うことは無いの？」

「……………どう言えばいいのか教えてもらいたいもんだな」

ふう、この格好が理解できないなんて、センス無いわ。

「あのねえ、女の子の褒め方もわからないようじゃ男女の仲は上手くないわよ？」

「そりゃ大変だ、だがな沙羅弥よ」

そこで一旦区切って、

「『今日は包帯まみれで可愛いね』、なんて褒め方する奴がいいのか!?!?」

「いや、その褒め方はおかしいでしょ」

「おかしいのはお前の格好だ!」

テンション高いなあ。授業中に寝て元気が有り余ってるのかしら。

「その評価は論外だけど、最初に全体をみた意見を言うのはいいことね。でも、まだまだ足りないわ。細部まで見て欲しいのが女の子。」

むしろ細かいところに気がつかないような男は自分に興味が無いと思われたりするので注意」

「その点お前はわかりやすいよなあっ！ 日常的にゴスロリ着てるだけで目立つのに、今日なんか左手首に巻かれた血の滲んだ包帯とか！ 鎖つきの首輪とか！ 胸元の禍々しい感じの装飾が施された十字架とか！ 左眼を隠すために頭に巻かれた包帯とか！」

「なに？ そんなに鼻息荒くなるほど興奮して、いやらしいわね」

「妹の非常識な格好に兄として呆れてるんだよ！」

「非常識？ わりと一般的な格好よ？」

「へっ、そんな格好で一般的と来たか。相変わらず結構な御趣味をお持ちだな」

「ありがとう。わたしも、自分でも高尚な趣味だと思ってるわ」

「皮肉で言ってるんだよ！ 嬉しそうに微笑むな！」

「十夜、言葉遣いには気を付けなさいな。さつきから乱暴で聞き苦しい言葉を多用してるわよ。男の子が何の気無しに言ったつもりでも、女の子には違って聞こえたりするものなんだから。そんな風だと取り返しのつかない事態を招くこともあるかもね？」

不用意な発言をしないこと。これは非常に注意が必要。

余談だけど、わたしは今、右大腿部にナイフ・ホルダーを装着している。胸元の十字架だって、喉や心臓を狙えば十分な殺傷力を得られるし。わたしの運動能力で十夜に勝てるかは別だけど。

いや、実際にはそんな事しないんだけどさ。

「へいへい。つたく、なんか今日は朝からやけに疲れるな……」

「わたしは昼間の記憶がないから、凄く短い一日の気がするのよね」

「何の話だよ。普通に学園に行つてたじゃねーか。お前もずっと寝てたのか？」

そんなこと言われても、覚えていないものは覚えていない。十夜と別れたあたりから一瞬で放課後になつてたんだし。

「まあ兄妹の心暖まるコミュニケーションはこれくらいにして、決闘デュエルしましょ」

「今のやりとりのどこに心が暖まる箇所があつたんだ？」

釈然としない様子の十夜を無視し、デッキをシャッフルし始めると十夜もデッキを取り出し、シャッフルを始めた。

「カットするか？」

「別にいいでしょ」

自動でシャッフルしてくれる決闘盤デュエルディスクの便利さが羨ましいわ。そろそろ本腰入れて開発してくれないかしら。

「俺のターン、ドロー」

さて、十夜が使うのは新しいデッキとやらか、いつものあれか。
楽しみね。

ちなみに十夜から始まつてるのは、わたしがジャンケンに負けた
からよ。

「調和の宝札を発動。手札のドラグニティ・ファランクスをコスト
にカードを2枚ドローする」

調和の宝札

通常魔法

手札から攻撃力1000以下のドラゴン族チューナー1体を捨てて
発動する。

自分のデッキからカードを2枚ドローする。

「テラ・フォーミングを発動し、デッキからフィールド魔法『竜の
峡谷』を手札に加える」

テラ・フォーミング

通常魔法

自分のデッキからフィールド魔法カード1枚を手札に加える。

フィールド魔法か。わかりやすいわね。これでデッキの特定もだ
いぶ楽に　　？

「ねえ、今『りゅうのきょうこく』って言わなかった？」

「！」

あ、気づいた。

「き、きききの、きのせ、気のせいだろう！ みよ、妙ないい、言いがかりは、や、やめ、やめても、もらおうかかかか」

どれだけわかりやすく動揺してるのよ。確か前にも兄さんに同じことを指摘されてたような気がするけど。

「と、とにかく、かかかく、続けるぞ。竜の渓谷を発動。手札を1枚捨てて、デッキから星4以下のドラグニティ・ドウクスを手札に加える」

竜の渓谷

フィールド魔法

1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に手札を1枚捨てる事で以下の効果から1つを選択して発動する事ができる。

自分のデッキからレベル4以下の「ドラグニティ」と名のついたモンスター1体を手札に加える。

自分のデッキからドラゴン族モンスター1体を墓地へ送る。

「ドラグニティドウクスを召喚して効果を発動。ドウクスは召喚時、墓地の星3以下のドラゴン族のドラグニティを装備する。ドラグニティファランクスを装備だ。そしてドウクスは俺の場のドラグニティ1枚につき200ポイント攻撃力をアップする」

ドラグニティ・ドウクス

効果モンスター

星4 / 風属性 / 鳥獣族 / 攻1500 / 守1000

このカードの攻撃力は、自分フィールド上に表側表示で存在する

「ドラグニティ」と名のついたカードの数×200ポイントアップする。

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在する

レベル3以下の「ドラグニティ」と名のついた

ドラゴン族モンスター1体を選択し、

装備カード扱いとしてこのカードに装備する事ができる。

ドウクス ATK1500 1900

「ドウクスに装備されているファランクス効果を発動。こいつはカード効果で装備されているとき、モンスターとして特殊召喚できる」

ドラグニティ・ファランクス

チューナー（効果モンスター）

星2 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻500 / 守1100

このカードがカードの効果によって

装備カード扱いとして装備されている場合に発動する事ができる。

装備されているこのカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

あのカード、ドラグニティの要になるのに、何故かドラグニティのストラクチャーデッキに入ってなかったのよね。ガツカリした人も多いんじゃないの？ 一時期値段も高騰してたし。

「星2のファランクス、星4のドウクスでシンクロ召喚。 抉れ！
ドラグニティナイト - ガジヤルグ！」

ドラグニティナイト - ガジヤルグ
シンクロ・効果モンスター

星6 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻2400 / 守 800

ドラゴン族チューナー+チューナー以外の鳥獣族モンスター1体以上1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に発動する事ができる。
自分のデッキからレベル4以下のドラゴン族または鳥獣族モンスター1体を手札に加え、

その後手札からドラゴン族または鳥獣族モンスター1体を捨てる。

抉れって……いや、デッキからサーチする効果だし、抉れで合ってるのかしら……よくわからないわ。

「ガジヤルグの効果を発動。デッキから星4以下のドラゴン族か鳥獣族を1枚手札に加え、手札のドラゴン族か鳥獣族を墓地に送る。デッキから鳥獣族のドラグニティ・レギオンを手札に加え、手札のドラゴン族、ドラグニティアームズ・レヴァティンを墓地に送る。カードを2枚伏せてターンエンドだ」

十夜

LP8000 手札2枚

竜の溪谷

ガジャルグ

伏せ2

沙羅弥

LP8000 手札5枚

「わたしのターン、ドロー」

今手札には伏せカードに対処する方法が無い。でも、これなら

「精神操作を発動！ とくや、ガジャルグちよーだい」

精神操作

通常魔法（制限カード）

このターンのエンドフェイズ時まで、
相手フィールド上に存在するモンスター1体のコントロールを得る。
このモンスターは攻撃宣言をする事ができず、リリースする事もできない。

「チツ、受けとれ」

苦々しげにガジャルグのカードを渡される。すぐ返してあげると。

精神操作でコントロールを得たモンスターはリリースすることも攻撃もできない。でもシンクロには使用できる。

「魔轟神レイヴンを召喚。レイヴンとガジャルグでシンクロ召喚。響け！ スターダスト・ドラゴン！」

魔轟神レイヴン

チューナー（効果モンスター）

星2 / 光属性 / 悪魔族 / 攻1300 / 守1000

自分の手札を任意の枚数捨てて、その枚数分このカードのレベルをエンドフェイズ時まで上げる事ができる。

このカードの攻撃力はエンドフェイズ時まで、

この効果によって捨てた手札の枚数×400ポイントアップする。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「残念。カウンター罠、神の警告を発動！ 2000ライフをコストにスターダストの特殊召喚を無効にする。墜ちろスターダストオオツ！」

112

神の警告

カウンター罠

2000ライフポイントを払って発動する。

モンスターを特殊召喚する効果を含む効果モンスターの効果・魔法・罠カードの発動、

モンスターの召喚・反転召喚・特殊召喚のどれか1つを無効にし破壊する。

十夜8000 6000

やけにノリがいいわね。今は明らかにアニメ系の叫び方だったわよ？ ソリッドヴィジョンじゃなくて残念だわ、さぞ絵になったでしょうに。

それにしても

「手札を4枚持つてるわたしに、それを使っちゃうんだ？」

「何枚持つてようと関係ないな。使いどころだと判断すれば使う。そういうもんだろ」

だったら、その判断、後悔するがいいわ！

「手札の魔轟神獣ノズチの効果を発動、魔轟神ルリーを捨てて、ノズチを特殊召喚」

魔轟神獣ノズチ

効果モンスター

星2 / 光属性 / 獣族 / 攻1200 / 守 800

自分のメインフェイズ時に発動する事ができる。

手札から「魔轟神」と名のついたモンスター1体を捨て、

このカードを手札から特殊召喚する。

この効果で特殊召喚に成功した時、

手札からレベル2以下の「魔轟神」と名の付いた

モンスター1体を特殊召喚する事ができる。

「墓地に捨てたルリーの効果にチェインしてノズチの効果を発動、手札の魔轟神獣ケルベラルを特殊召喚する。続いてルリーを墓地から特殊召喚」

魔轟神獣ケルベラル

チューナー（効果モンスター）

星2 / 光属性 / 獣族 / 攻1000 / 守400

このカードが手札から墓地へ捨てられた時、

このカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

魔轟神ルリー

効果モンスター

星1 / 光属性 / 悪魔族 / 攻200 / 守400

このカードが手札から墓地へ捨てられた時、

このカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

このケルベラルとルリー、なんと魔轟神同士でありながら、テキストが全く同じであり、この場合ならどちらを捨てても結果は変わらないかったりする。一応チューナーと非チューナーである点、レベル、種族などで役割がちがうから共存できてるけど。

「カードを1枚伏せて、ノズチ、ルリー、ケルベラルでシンクロ召喚。加速せよ！ 魔轟神レイジオン！」

魔轟神レイジオン

シンクロ・効果モンスター

星5 / 光属性 / 悪魔族 / 攻2300 / 守1800

「魔轟神」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター

1体以上

自分の手札が1枚以下の場合、このカードがシンクロ召喚に成功した時、

自分の手札が2枚になるまでデッキからカードをドローする事ができる。

さあ、神の警告の使いどころを間違えたことを思い知りなさい！

「レイジオンの効果発動！ 手札を2枚になるように」

「甘い！ 罨発動、デモンズ・チェーン！ こいつでレイジオンの効果を無効にし、攻撃も封じる！」

「なあっ!?!」

デモンズ・チェーン

永続罨

フィールド上に表側表示で存在する

効果モンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターは攻撃する事ができず、効果は無効化される。

選択したモンスターが破壊された時、このカードを破壊する。

なんてことしてくれるの!?

レイジオンは手札使いの荒い魔轟神のドロースト。攻めの起点だったり、中継点だったり状況によって様々だけど、手札が1枚以下でないと発動できない性質上、効果を無効にされると一変して窮地に追いやられる！

「くっ……ターンエンドよ」

沙羅弥

LP8000 手札0

魔轟神レイジオン

伏せ1

十夜

LP6000 手札2

竜の溪谷

デモンズチエーン

「俺のターン、ドロ！。ふむ。ドラグニティ・レギオンを召喚、効果発動。レギオンもドウクスと同じく、召喚時に墓地から星3以下のドラゴン族のドラグニティを装備する。アキュリスを装備だ」

ドラグニティ・レギオン

効果モンスター

星3 / 風属性 / 鳥獣族 / 攻1200 / 守 800

このカードが召喚に成功した時、

自分の墓地に存在するレベル3以下の

「ドラグニティ」と名のついたドラゴン族モンスター1体を選択し、装備カード扱いとしてこのカードに装備する事ができる。

自分の魔法&罫カードゾーンに存在する

「ドラグニティ」と名のついたカード1枚を墓地へ送る事で、

相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を破壊する。

「レギオンの効果を発動。魔法・畏ゾーンのドラグニティをコストに、相手のモンスター1体を破壊する。レイジオンを破壊」

「レイジオンが破壊されたからデモンズ・チェーンも破壊よ」

あのカードは対象が破壊以外で場を離れると残るのが厄介。ドラグニティなら再利用する手が入っていることも考えられるし墓地に行くならそれに越したことはない。

「そうだな。だがアキュリスの効果も受けてもらうぜ。装備されていたアキュリスが墓地に送られたので、場のカード1枚を破壊。当然、沙羅弥の伏せカードを破壊を破壊する」

ドラグニティ・アキュリス

チューナー（効果モンスター）

星2 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻1000 / 守800

このカードが召喚に成功した時、手札から「ドラグニティ」と名のついたモンスター1体を特殊召喚し、

このカードを装備カード扱いとして装備する事ができる。

モンスターに装備されているこのカードが墓地へ送られた時、フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊する。

伏せていたのはサンダー・ブレイクだけど、今は手札が無いので発動できない。この辺りにレイジオンの効果を無効にされたのが響いてくるのよね。

「やっぱりサンブレか。お前の畏ってほしいそれだよな。バトルフェイズ、レギオンで攻撃」

沙羅弥 8000 6800

「カードを1枚伏せてターンエンド」

十夜

LP 6000 手札 1

竜の溪谷

ドラグニティ・レギオン

伏せ 1

沙羅弥

LP 6800 手札 0

「わたしのターン」

わたしの場にカードは無く、手札も無い。このドローで逆転のカードを引けなければ、次のターンで十夜はトライデント・ドラギオンを出してくる。そうなれば確実に負ける！ さあ、頼むわよ、わたしのデッキ！

「ドロー！」

引き当てたのは、

「死者蘇生！ 十夜の墓地から」

「甘い甘い、甘すぎるぞ沙羅弥！ 魔宮の賄賂を発動！ 死者蘇生を無効にして1枚ドローしろ」

魔宮の賄賂

カウンター罫

相手の魔法・罫カードの発動を無効にし破壊する。
相手はデッキからカードを1枚ドローする。

「~~~~っ！」

これも防ぐんだ。今日の十夜はいつものドラグニティを使いながら少し違う。

「さあ、カードを引け。今こそおまえの紡ぐ物語を見せてもらおうじゃねーか」

その言い回し、最近どこかで……っつて、この前わたしが言ったやつ？ ああもうっ！ 馬鹿にしてくれちゃって！

でも十夜の言うとおり、今度こそ最後のドローになるかもしれない。だけど、これってアニメなら決めにかかるシーンよね。つまり！ 今こそわたしの真価が問われるときなのよ！

ここであるカードを引き当てられるか否か、そこにわたしの紡ぐわたしの物語、その全てが収束する！

デッキに手を翳し、目を閉じる。右手を宛ら居合いのごとく大きく振り抜く。

「ドローー!!」

来た、貪欲な壺!

わたしの引きも捨てたものじゃ無いわね。これは貪欲な壺のドロ
ーも楽しみだわ!

「貪欲な壺を発動! 墓地からモンスターを5枚、レイジオン、ス
ターダスト、ルリー、ケルベラル、ノズチをデッキに戻して」

「D・D・ク로우発動だ! ケルベラルを除外しな」

……ヤバ。わたし、泣きそう。

貪欲な壺

通常魔法

自分の墓地に存在するモンスター5体を選択し、
デッキに加えてシャッフルする。

その後、自分のデッキからカードを2枚ドローする。

D・D・ク로우

効果モンスター

星1/闇属性/鳥獣族/攻 1000/守 1000

このカードを手札から墓地へ捨てて発動する。

相手の墓地に存在するカード1枚を選択し、ゲームから除外する。

この効果は相手ターンでも発動する事ができる。

「沙羅弥あゝ、この場合の処理を説明してみな？」

ううゝゝ、この兄はゝゝゝっ！

「貪欲な壺で指定した5枚のうち、1枚でもデッキに戻せなかったら……デッキに戻すこともドローも行わない……」

「よくできましたゝ　ハナマルをやるーか？」

「要らないわよ！　ターンエンド！」

十夜

LP6000　手札0

竜の渓谷

ドラグニティ・レギオン

沙羅弥

LP6800　手札0

「俺のターン。お、ダンディライオンだ。竜の渓谷で捨ててデッキからドウクスを手札に。ダンディライオンが墓地に行ったから綿毛トークンを2体特殊召喚」

ダンディライオン

効果モンスター（準制限カード）

星3 / 地属性 / 植物族 / 攻 300 / 守 300

このカードが墓地へ送られた時、自分フィールド上に「綿毛トークン」

（植物族・風・星1・攻/守0）2体を守備表示で特殊召喚する。

このトークンは特殊召喚されたターン、アドバンス召喚のためにはリリースできない。

「ドウクスを召喚して墓地のフアランクスを装備。ドウクスを除外して墓地からレヴァティンを特殊召喚。特殊召喚に成功したのでレヴァティンの効果発動、墓地からフアランクスを装備する」

ドラグニティアームズ・レヴァティン

効果モンスター

星8 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻2600 / 守1200

このカードは自分フィールド上に表側表示で存在する

「ドラグニティ」と名のついたカードを装備したモンスター1体をゲームから除外し、

手札または墓地から特殊召喚する事ができる。

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、

「ドラグニティアームズ・レヴァティン」以外の

自分の墓地に存在するドラゴン族モンスター1体を選択し、装備カード扱いとしてこのカードに装備する事ができる。

このカードが相手のカードの効果によって墓地へ送られた時、

装備カード扱いとしてこのカードに装備されたモンスター1体を特殊召喚する事ができる。

レヴァテインは十夜のデッキのエース。簡単に特殊召喚できて攻撃力も高い。尚且つドラグニティでは容易にシンクロ素材としても使うことができるため、非常に厄介。ドラゴンを装備する効果も色々なコンボに使えて優秀かな。

「装備されたファランクスを特殊召喚して、ファランクスとレヴァテインでシンクロ召喚。焼き払え！ トライデント・ドラギオン！」

トライデント・ドラギオン

シンクロ・効果モンスター

星10/炎属性/ドラゴン族/攻3000/守2800

ドラゴン族チューナー+チューナー以外のドラゴン族モンスター1体以上

このカードはシンクロ召喚でしか特殊召喚できない。

このカードがシンクロ召喚に成功した時、

自分フィールド上に存在するカードを2枚まで破壊する事ができる。

このターンこのカードは通常の攻撃に加えて、

このカードの効果で破壊した数だけ1度のバトルフェイズ中に攻撃する事ができる。

「トライデント・ドラギオンの効果発動！ 俺のフィールドの綿毛トークン2体を破壊し、このターンのみ3回の攻撃を可能とする。バトルだ、トライデント・ドラギオンの攻撃、沙羅弥にダイレクトアタック！ 第一打ア！ 第二打ア！ 第三打アアツツ は打たずにレギオンで攻撃だ」

だったら3回攻撃できるようにした意味無いじゃない！

何で無抵抗の相手を切り札じゃなく、下級で倒そうなんて思うの

よ！

沙羅弥 6800 3800 8000

「うおっしゃあ！ 約束通り、カレー作ってもらっぜ！」

たかがカレーでそこまではしゃげるなんて、そっちの方がよっぽど子供みたいじゃない。

にしても十夜にも負けちゃったか。これで身近な全員に負けたことになるわね。

もしかしてわたし、自分で思ってるよりも弱いのか？ もう少しくらい戦えるかと思ってたのに、今回十夜のライフが減ったのはコストで払った分だけだし。

「むう」

「何を難しい顔でうなってるんだ？」

「原因の一部は十夜にあるんだけど……」

まあ、この兄には言ってもどうせ解らないでしょ。理解を示されても、かえって複雑だし。

「今の決闘デュエルのことか？ 酷い内容だったな。お前がしたのはガジヤルグを除去しただけだし」

改めて言われるとグサツとくるわね！ 兄さんも十夜も、負けた

相手に追い打ちをかけるような真似をするのが好きすぎるでしょ！

「そもそもお前、手が読みやすい。カウンターを合わせやすすぎるんだよ」

「~~~~っ」

なんかいつもと違うと思ったら、珍しくカウンター罫を入れてたんだ。もしかしてこの前の兄さんに負けたときの影響なの？

だったらなんかム力つく！前にわたしに負けたときはデッキを弄りもしなかつたくせに！

「さて、そろそろ時間的に夕飯の支度をしようぜ。副菜はこっちで作るから、メインはよろしくな」

「わかってるわよ、約束だもんね。チキンカレーでいいわよね？」

「チキンも好きだが、俺はビーフカレーの方が好きだぞ」

「そう、でもチキンカレーね」

「注文を聴く気も無いのに確認とつたんかい」

なにせ食事当番は自分の好みで作っていいルールだからね。手酷く負けたんだし、ここくらいは好きにさせてもらわないと。

「とりあえず玉ねぎとトマトはわたしの方で使うから、他のバランスはよろしくね、おにーちゃん」

「オエッ、気持ち悪ッ……………ぶがす!」

失礼極まりない反応をした十夜の顎を真下から掌で跳ね上げ、黙らせる。たまにお仕置きしておかないと調子に乗るから困っちゃう。別にこれは負けた腹いせとか暴力とかじゃないわよ？ 羨よ羨。それじゃ、台所に行きましょうか。

「ほら、いつまでもフラフラしてないで行くわよ」

顎を下から跳ね上げると首を支点にして脳を揺さぶることになるので、一時的にバランスが崩れたり視界がグラついたりします。非力な沙羅弥が筋力、体力はじめ身体機能で勝る十夜に行うお仕置きとしては効果的ですが、決して真似をしないでください。

「沙羅弥のお手軽クッキング コーナー！」

「いきなり何だ!？」

「本日はみんな大好きチキンカレーの作り方を紹介します」

「なに!？ なんなのお前!？ いったい誰に向かって説明してる!？」

「さつきから横でうるさいのは助手の十夜です」

「だから誰と喋ってるんだ!？ 電波か!？ 電波なのか!？」

「用意するものはこちら」

鶏もも肉（骨つきブツ切） 600g
玉ネギ 3個
プレーンヨーグルト カップ2分の1
トマト 2個
りんご 2分の1個
にんじん 3分の1本
にんにく 1片
しょうが 1片
チリパウダー 大さじ1半
ターメリック 大さじ1
コリアンダー 大さじ2
カイエンヌペッパー 大さじ1
ガラムマサラ 小さじ3
塩 適量
サラダ油 必要に応じて
バター お好みで

「ちなみにこれで4人分くらいです」

「市販のカレールウを使わずスパイスで味付けするとこなんかは、ちよつと本格的に見えるな」

「実際にはそんなことないんだけどね。市販のカレールウで作るほうが手間は掛からないし、失敗のリスクも減るしでメリットも多いわけだし。あえてスパイスを調合して作ることによって生まれるメリットは自分好みの味にしやすいことと、今の十夜みたいに本格的と錯覚させることよ」

「俺は甘いのも辛いのも好きだが、これだとどれくらいの辛さになるんだ？」

「助手君、実にいい質問ですね。ズバリ！ わたし好みの味になります」

「つまりは言うほど辛くはないわけだな」

「もつと辛い方がいい人は更に赤唐辛子なんかを加えてください。ちなみにとある独り身の男性が、かつて一人暮らしを始めたばかりの友人に赤唐辛子5本分とカレー粉、小麦粉を混ぜて作った粉末をプレゼントしたところ、友人が食べられるレベルを超えた辛さに出くわしました。辛さの調整は少しずつお願いします」

「その男は確信犯な気がするが……ところで材料のカイエンヌペッパーなんだが、これはその赤唐辛子とどう違うんだ？ 俺にはどちらも同じに見えるんだが」

「元々カイエンヌペッパーは品種名じゃなくて唐辛子の総称だからね。ちなみに赤唐辛子と鷹の爪はどう違うか知ってる？」

「赤唐辛子を乾燥させたものが鷹の爪じゃないのか？」

「半分正解よ。唐辛子を乾燥させると鷹の爪のように見えるからこう呼ばれてるの」

「残りの半分は？」

「鷹の爪、という品種の唐辛子があるの。唐辛子って一括りにしち

やいがちだけど、意外に種類は多いのよ」

「ふむ、そいつは知らなかった。そういうのは知らなくても料理はできるもんなあ……ちょっと待て。さっきの男の話は絶対にわざとじゃないのか？」

「（華麗にスルーして）たまにこういったことを調べるとレシピに一工夫できたりするからね。知識が増えるのは良いことよ。本来知識が増えるのは楽しいことの筈なのに、覚えることを強制されるから勉強って苦痛に思えるわよね。料理のレシピなら繰り返し作っているうちに自然と暗記できるのに」

「確信犯の男と学園の勉強については一先ず置いておくが、さっきからいいのか？」

「なにが？」

「クッキングコーナーなのに調理過程は説明してないだろ？俺もお前も、さっきから手を止めてないんだが」

「……とーやー、もっと早く言ってよ。下ごしらえ済んじゃったじゃない。仕方がない。ちょっと時間を巻き戻しましょう」

わたしと助手は喋りながらも以下の作業をこなしていました。

鶏肉に塩を塗り、下味をつけます。その後ヨーグルトをかけて手で全体に馴染ませます。そのまま最低でも30分はヨーグルトにつけて寝かします。これで鶏肉が柔らかくなります。この時、ポウル

で行うのもありますが、ビニール袋などに入れて作業を行うと手も台所も汚れずに済みます。

にんにくとしょうがを摩り下ろし、玉ねぎ3個をみじん切りにしたら、鍋にサラダ油、クミンシードを入れて中火でいためましょう。香りが出てきたら先ほどのにんにく、しょうが、玉ねぎ、バターを加えて50分ほど弱火でじっくりといためます。焦げ付かない様に注意してください。この玉ねぎがカレーの甘味に重要な役割を果たします。（今ここ）

さて、再び物語を再開します。時間を現在に戻して

「俺は副菜の調理に取り掛かるぞ。玉ねぎを刻むのを全部押し付けやがって、おかげで眼が沁みて」

「手に臭いが付くにんにくの摩り下ろしはわたしがやったんだからおあいこでしょ？」

「言ってる」

「さて、このあたりは詳しく説明することもないので時間を進めて、次の工程に移りましょうか」

玉ねぎに色が付き、しんなりとしてきたら火を弱め、スパイス各種を加えて香りが出るまでいためます。くどいようですが焦がさないように注意してください。玉ねぎやスパイスが焦げた時点で確実に失敗作になります。

香りが出てきたら鶏肉をヨーグルトごと鍋に入れて10分ほどい

ためます。この時にスパイスと鶏肉が絡まるように時々かき混ぜてください。

トマトを加えて2分ほどいためます。事前にトマトをお湯に浸けておくと手を加えやすくなります。トマトが全体に混ざったら水を加えてます。

お好みの大きさに切ったにんじん、摩り下ろしたりんごを鍋に入れたら蓋をして40分ほど弱火でじっくり煮込みます。途中、水気が少なくなってきたら足していきます。この時の加える水の目安は材料が浸かりきらない程度にしてください。水っぽいカレーが好きという方はまずいでしょう。水が少なければ後から足せばいいのですが、多く入れすぎるとどうにもなりません。これは味付けにも同じことが言えますね。いい加減しつこいと思います。ここでも焦がさないように注意してください。

塩、ガラムマサラを加えて味を調べたら、10分煮込んで完成です。

初めのほうでも言いましたが、これは然程難しいものではありません。注意が必要なのは材料を焦がさないようにすることだけです。にも関わらず、こうして作ると本格的と勘違いしてくださる方が多いです。その誤解を活かさない手はありません。さあ、あなたも身近な人に作ってできる人をアピールしましょう！

「以上、沙羅弥のクッキングコーナーでした」

「だから誰に向かって言ってたんだ？」

第四話 本気モードなんだから！（後書き）

（次回予告）（もはや定番のあれで）

沙羅弥です！ わたしの本気いかがでしたか？ まさか決闘^{デュエル}ではなくカレーの作り方で本気を見せることになるとはわたしも予想外でした。これは一応遊戯王の二次創作な筈なんですが、何故真剣にカレーを作ってるんでしょうか？ レシピはレシピでもデッキのレシピと間違えた？ そんなわけないですね。

そんなことより次回は

八尋「新しい恋を見つけたら君との日々も思い出に変わるのかな」

十夜「八尋オ！ ここでケリをつけてやる！」

海聖「この世の中に、自分以外に信じられるものがあるっていうの？ だったら言ってみなさいよ。それは何なのか」

沙羅弥「友達だと思ってた、信じていたのに……あなたはそれを裏切った！ 絶対に許さない！」

はい、絶対に嘘ですなこれ。それではまたお時間あるときにお付き合いくだされば幸いです。

番外編 十夜のレシピ（前書き）

仕事に追われて次話投稿できそうにないので、今回十夜のレシピを晒しておきます。どう考えても前半は要りません。

今回は真面目にデシキのレシピです。

番外編 十夜のレシピ

「ここは？」

気がつくとなわたしは見知らぬ場所に居た。

薄暗い照明、カウンターによって仕切られた空間、棚に並ぶ無数のボトル。ここっでもしかして……

「いらつしゃい。BAR『梅』によっこそ」

声のした方を見ると、そこには

「ぬいぐるみ？」

如何なる原理で動いているのかは解らないけど、高さ10cmほどの犬のぬいぐるみがお酒のボトルを磨いていた。

その小さな体では自分の倍ほどもあるボトルを磨くのも一苦勞でしように。そもそも、ぬいぐるみが磨いても自分についた塵や埃がボトルにつくから、磨く意味無いんじゃないの？

「どうぞ、お好きな席へ」

手 もとい前足 で席を指し、座るように促される。ぬいぐるみらしくデフォルメされた短い前足なので、細かい動作には向いてないみたいね。ただ動かしたただけだわ。

全体的に丸いフォルム。胴体に対して頭が大きいけど、ぬいぐるみならこんなものかしら。カラーは基本的に白い。垂れた耳だけがグレーになっていて、首には赤いリボンが巻かれている。

「どござ」

熱いおしぼりと小皿に乗せたピーナッツを出される。バーってこういうものなの？

「ご注文は？　と言っても未成年に出せるものは限られています」

「メニューを見せてもらえる？」

「畏まりました。通常初めてご来店された方にはお出ししないのですが」

「それはどうも……ええ！？」

このぬいぐるみ、何なのかしら？　わたしは一度も目を逸らさなかったのに、品書きを取り出す動作もなく手渡してきたわ。

場所に関する情報も相手に関する情報も少なすぎる。もう少し話をして情報を引き出してみましようか。

とりあえず何か注文して……あ。

「……名前見てもよくわからないわね」

そう。わたしはバーで出されるカクテルの名前を見ても、それがどんなものかわからない。これじゃメニューを受け取った意味がない。

「そうでしょうとも。初めて来店されたお客様にはそういう方もいます。どのようなものかも知らぬまま、アルコールの強いカクテルを注文してしまう方もいます。お客様にメニューをお出ししないというのは、そういう意味でもあるのです」

ぬいぐるみに諭されちゃった！ わたし今どんな立場なの！？

「お客様には『シンデレラ』をお出ししましょう」

シンデレラ？ 童話にあるガラスの靴の姫しか思い浮かばないけど、話の流れからしてカクテルの名前よね。

「『シンデレラ』とはオレンジ・ジュース、レモン・ジュース、バナナ・ジュース各1/3をシェイクして豊かなフレーバーを楽しむカクテルです。お客様のような未成年の方やアルコールが苦手な方でもお楽しみいただけます」

「それミックス・ジュースじゃないの？」

わたしの言葉にぬいぐるみが笑っている。いや、嗤っているのかも。もしかして莫迦にされた？

「もしお客様が御自分で作られればミックス・ジュースとなるでしょう。勿論、練習を重ねればいつかは作れるようになるでしょうが、しかし、シェイクとはただシェイカーを振っているだけではありませんから」

ひょっとしてこのぬいぐるみ、バーテンダー？ 小さな体と短い手足、シェイクもステアもできそうにないんだけど、さっきも動作無しでメニューを渡してきたし、案外できるのかしら。

「どうぞ、シンデレラです」

結局作る動作無しなのね……

いきなりカウンターにグラスが置かれた。

「ノンアルコールに加えて甘口ですので、安心してお召し上がりください」

さっきのレシピでアルコールになったらビックリするどころじゃないわよ。

グラスの中身を口に含んだ瞬間に素直に認める。ただのミックス・ジュースとは違う味わいがある。芳醇さと爽快さを併せ持ち喉ごしすら異なるこれは、紛れもなくカクテルなのだ。

カクテルは専門外だけど、わたしも料理はするからわかる。ただ混ぜ合わせてもこの味は再現できない。氷を選び、シェイクする時間を考え、3つの液体を完璧に混ぜあわなければ、この味には

カクテルにはならない。微細な気泡を発生させ空気を含ませることで口当たりを柔らかくしているのに加えて氷から溶け出した水分によって、味全体が丸くなっている。

「満足いただけただようで何よりです」

わたしの態度にぬいぐるみも満足げに微笑んでるけど、このぬいぐるみが作ったのかしら？

「さて、それでは本題に入りましょうか。いい加減前振りにも飽きてきましたし」

「さつさと入ってくれどと助かるんだけど、まず問うわ。あなた何者なの？」

「作者です」

「さらっと言っちゃった！ これってあれ？ 二次創作でよく見る作者と登場人物の座談会？」

「はっはっは、その通り。実はちよいと仕事が忙しくてねえ。更新できそうに無いんで今回デッキレシピでも晒しておこうかと」

「安直な発想ね」

「まあそういうわけで、比較的デッキ紹介をしやすいキャラを選んでレシピを晒そうかと思ったんですが、誰がいい？ 一応主人公である君の希望は聞くよ」

「十夜で。なんかこの前の負け方は八尋兄さんに1キルされた時以上にムカつくから」

「了解。では いでよ、高城十夜！」

突如虚空に浮かんだ光の陣、歪んだ線で形作られた五芒星のようなあの紋章は……

「まさか、エルダー・サイン旧神の印！？」

なんでいきなりクトウルー神話！？

光はより強く激しく輝きを増し、薄暗い照明に慣れた目を開けていられないほどに 否、例え通常の状態であってもこれほどの光に耐えることはできなかつたでしょう。目を閉じてさえ光は白く世界を焼いていくのを感じる。

やがて光の奔流が収まり、目を開くと

「……何も変化してないし」

先程までと全く変わっていない。いや、変わった点といえばぬいぐるみ 作者 が磨くボトルがウイスキーからシャンパンに変わっているけど……

「十夜を呼んだんじゃないの？」

「すぐに来ますよ」

待つこと数分。

「ここは何処だ!？」

ドアを開けて極めて普通に十夜が入ってきた。もう描写のしようもないくらい普通に。驚いてはいるけど、登場に派手さは無い。ねえ、さっきの眩い光の意味は？

「俺は帰宅して、玄関を開けたところのはず……なんでこんなところ？」

「わたしが希望したから、かな」

「沙羅弥も居るとか、何なんだここ」

「いらっしやい。BAR『梅』にようこそ」

「玄関くぐってオーセンティックバーかよ。どうなってんだ？　ひとまず『サラトガ・クーラー』を貰おうか」

さつきまで慌ててたのに、もう馴染んでる？　普通に注文してるし、ぬいぐるみが喋ってるのにも驚いてないし。

「どうぞ、『サラトガ・クーラー』です」

またしても一切の動作も無く、カウンターにグラスが置かれる。わたしに出したものは違うカクテル、どんなものなのかしら。

「さすが夢の中だな。いきなりカウンターにグラスが出てきた」

「落ち着いてるんじゃないかって現実逃避してんの!？」

十夜もここがおかしいことを感じているようだけど、追求を断念し、夢だと思い込んでるのね。何事も無いかのようにカクテルを呷ってる。

ああもう、説明するのも面倒くさいし、変な夢で納得してるならそうしておこう。

十夜の飲んでる『サラトガ・クーラー』って何かしら？　来てすぐに頼んだけど、止められなかったってことはノンアルコールよね。

「ねえ、それ一口ちょうだい」

さっきの『シンデレラ』が美味しかったこともあってカクテルに興味がわいてきたので、つい十夜のが欲しくなってしまう。

「お前はやめとけ」

ちょっと困った顔で止められる。何かわけでもあるの？

「ご要望でしたら、もう一杯お出ししますが」

「いや、沙羅弥には他のものを出してやってくれ。こいつ炭酸飲むとむせるんだ」

「それ炭酸なの？」

「『サラトガ・クーラー』は端的に言うとなんじやアールとライム・ジュースを混ぜたもの。ついでに言うが間違っても『サラトガ』を頼むなよ。ブランデーがベースのかなり強いアルコールだから」

むう、それじゃわたしには辛い。残念。

「ところで十夜、デッキを持っていきますね。見せてもらえますか？」

「ああ」

懐からデッキケースごとぬいぐるみに渡してる。ぬいぐるみの体じゃ持てないんじゃない？ あ、潰れた。

「このままじゃ無理か。よし、解説役は十夜にやらせるとして、沙羅弥、進行役よろしく。私はしばらく引っこ込むから」

「何しに出てきたの？ まあいいわ。それでは十夜のレシピを公開します」

十夜 デッキレシピ（第四話時点）

上級

ドラグニティ・アームズ・レヴァティン×2

下級

ダンディライオン×2

D・D・クロウ×2

デブリ・ドラゴン×2

ドラグニティ・アキュリス×3

ドラグニティ・ドウクス×3

ドラグニティ・ファランクス×3

ドラグニティ・レギオン×3

魔法

サイクロン×2

死者蘇生

調和の宝札×2

テラ・フォーミング×2

未来融合ーフューチャー・フュージョン

竜の渓谷×3

罨

神の警告×3

神の宣告

デモンズ・チェーン×3

奈落の落とし穴×2

魔宮の賄賂×3

モンスター20枚

魔法11枚

罨12枚

計43枚

エクストラ

A・O・Jカタストル

ゴヨウ・ガーディアン

ドラグニティナイトーガジャルグ

ドラグニティナイトーヴァジュランダ×2

氷結界の龍ブリユーナク

ブラック・ローズ・ドラゴン×2

ギガンテック・ファイター

スターダスト・ドラゴン

氷結界の龍トリシユーラ

ミスト・ウォーム

トライデント・ドラギオン×2

F・G・D

シンクロ14枚

融合1枚

計15枚

「十夜、これ小説で使うには面白みがなくない？」

「お前がそれを言うのか？」

「わたしのデッキはロマンがたっぷりよ。魔轟神だし。魔・轟・神よ？ 響きだけでロマンが溢れてると思わない？」

「それを言うなら俺のデッキも竜騎士だ」

「ドラグニティナイトは3枚しかないじゃない。ちょっと前までゲイボルグとかバルーチヤも入ってたのに。とりあえずデッキについて説明お願い。まずは畏から、なんでこんな構成なの？」

「神の宣告と奈落の落とし穴は省いていいよな。説明要らないだろうし。デモンズ・チェーンは色んなデッキに刺さる。効果モンスターを使ってこない奴なんて滅多に居ないし、除去できなくても効果を無効にしてやるだけでも大分戦況が変わってくる。沙羅弥のデッキならレイジオンをはじめとしたシンクロモンスターを狙い撃ちにするだけでも充分な対策になるしな」

「あれは今思い返してもムカつくわ」

基本的にレイジオン出すときは手札を0にしてるからね。効果を無効にされると致命傷を負いかねないわ。実際負けただけど。

「魔宮の賄賂は強力なんだろうが、場合によっては微妙。最悪の場合、これでドローさせたカードで状況が悪化するし」

「わたしも魔宮の賄賂で貪欲な壺をドロウできたもんね。不発にさねなければわたしの勝ちだったかもしれないのに」

「今更確かめようはないだろ（多分無理だよな）。こいつのデッキは墓地に、ある程度モンスターが居ないと手札2枚でどうにかできるような構成じゃないし」

考えてることが顔に出てるって。ほんとに隠し事が下手ね。兄さんみたいな常に同じ表情も困るけど、十夜みたいなのも困るわ。

嘘が上手いってことは必ずしも悪徳じゃないのよ。勿論、人を傷つけるようなもの、不幸にするようなものは論外だけどさ、時には相手のために相手を騙すことが必要なことだってあるんだから。これは狡さも同じね。人を傷つけず、自分も傷つかないように生きていく、そんなほんの少しの狡さを何処かに置き忘れてきてしまったような真っ直ぐな人、そんな人をわたしは前に一人だけ

「沙羅弥？」

あつといけない、意識が思いつきりあさつての方向いてたわ。

「続き、しないよね。魔法カードの未来融合と調和の宝札は序盤に引かないと腐るんじゃない？」

「そのあたりは使えなくなったら竜の溪谷のコストにするなり、トライデント・ドラギオンで破壊するエサに使う。対象が居なくなつて、無意味に残り続けたデモンズ・チェーンも同じだな。未来融合はF・G・Dを呼ぶカードじゃなくドラゴン族専用の墓地肥やしだと思えば強力カードだし。F・G・Dは場に出るとは思っていないし、出ても役に立つとも思っていない」

「それがドラゴンデッキ使うキャラクターの台詞？」

普通そのカードは「攻撃力5000だど!？」とかって台詞で使わせない？ アニメ系の二次創作に多いと思ってるだけで、必ずそうだとは言わないけど。

「残念ながらここ最近は役に立ったことがなくってな。仮にF・G・Dを出しても攻撃が一発通るかも怪しい。むしろF・G・Dに奈落の落とし穴とかを使ってくれたらありがたい」

「うーん、十夜は小説のキャラクターに向いてないんじゃないの？ 次はモンスターだけど、こっちの方は特に不自然もないのかな？ 基本的にドラグニティばかりだし」

「いや、正直この構成だとダンディライオンとデブリ・ドラゴンは抜きたいんだ。ブラック・ローズ・ドラゴンかトリシューラを出すときくらいしかデブリ・ドラゴンでシンクロしないし。たま〜にドラグニティナイトともシンクロするけど。できるだけ40枚にしておきたいってのもあって、抜こうかどうか考え中」

「一応聞くけど、抜いたら何入れるの？」

「トラップ・スタン2枚かハリケーンとテラ・フォーミングの3枚目。もしくはSinスターダスト・ドラゴン。その場合はエクストラデッキもブラック・ローズ・ドラゴンを1枚にして、スターダスト・ドラゴンを追加する」

「Sinスターダスト・ドラゴン？」

「ちょっと意外。あまり使ってるの見ないけど。」

「Sinって使いにくくない？」

「お前のデッキには合わないだろうけど俺には結構重要。フィールド魔法の維持に使う気は無いが、トライデント・ドラギオンがキメやすくなるのは大きい」

「結局そこなのね。このデッキで苦手なカードは？」

「基本的にドウクスやレギオンの通常召喚から効果を発動して繋いでいくから月の書は大の苦手。デッキへの採用率も高いカードだし、その辺は改善したいが、スロット的に厳しい」

月の書か、私もあのカードは苦手だわ。遊戯王系の小説ではあんまり真剣勝負にあのカードは出てこないけど、十夜のデッキを見る限り今後間違いない誰か普通に使ってくるわよね。

「他には？」

「基本的に沙羅弥のデッキの弱点とあんまり変わんねーよ。墓地にドラゴン族が居ないと何にもできねーし。特殊召喚を封じてくるよ。うな奴は最悪だ」

「墓地依存はお互い様ね。ドラグニティなのに竜操術は入れないの？」

「そーだなー（棒読み）。この構成で竜操術の強いところを教えてください。きちんと答えられたら考えるよ」

「妹に無理難題ぶっかけて楽しいの？」

「お前が振ってきたのに、その言い方だと俺のほうが最低みたいだな……」

さて、デッキの解説ってこれくらいでいいのかしら。

「ご苦労様」

「作者さん、もういいの？」

「はい。せつかくなので十夜のプロフィールでも載せようかと思いましたがやめときましょう。誰にも希望させてないものを載せても鬱陶しいだけでしょうし」

「このデッキレシピ自体が誰にも必要とされてないでしょうに。そもそも、感想の殆どは自分で要請したようなものじゃない」

「否定はしません。ついでに宣伝もしておきましょうか」

「それはもしかして、最近作者がすんすんすんごく評価してるあの御方、機甲竜騎兵様の作品ね？」

「もちろん。あの方の作品は素直に面白い。デュエルターミナルの世界観を背景に、遊戯王カードでも人気の高い霊使い6人によるライディング・デュエルのチーム戦を描いた『遊戯王〜EURD〜』、その続編でエリアとウインを中心に紡がれた物語『遊戯王〜友愛〜』ではインヴェルズ・グリーズとの変則デュエルを。カードの使い方でもストーリー面でも見事な演出で描かれています。アニメが好きな人ならあれは一読の価値あり！ 超おススメ！ EURDの方はコメディとなっていますが、どちらも燃える展開です！」

「作者のマイページ、お気に入りユーザーから機甲竜騎兵様のページに飛べますので興味のある方は是非どうぞ。それでは、またお時間あるときにお付き合いくだされば幸いです。」

ねえ作者さん、わたしはいつになったら勝てるの？」

「未定 キツパリ！」

番外編 十夜のレシピ（後書き）

十夜はしばらくはこの形のデッキで行くと思います。改良案など御座いましたら是非お送りください。

それでは、またお時間あるときにお付き合いいただければ幸いです。

第五話 妹っていうのはね（前書き）

作者です！ 役2ヶ月ぶりの投稿になります。やはり12月1月は色々と厳しかった……言い訳です。本当はモンハンしたり、仕事したり、忘年会したり、仕事したり、新年会したり、仕事したり、その他各種宴会したり仕事したりしてました。友人の結婚式に向けて、ちよつと芸を磨いたりもしています。物語の主人公が持つてる器用さが私にもあれば！ と思わずにはいられません。

第五話 妹っていうのはね

暖房器具は何が好き？

こつ訊かれたらわたしは迷うことなく答えましょう。

『こたつ』

日本文化に根付いた伝統的な暖房器具。正直、こたつは抗いがたい不可避の力を放っていると思えない。一度入ってしまったえば抜け出すことは困難で、何かをするのは億劫になるし、ここにいる間は思考能力が低下している気さえするわ。この暖かさに身を任せてゆっくり寝るのもありよね。

平日の夕方、学園での授業も終わり、帰宅したわたしはこたつでくつろいでいた。

「さらや〜、みかん持ってきて〜」

「自分で好きなだけ取ってきてちょうだい」

「お客さんに取りに行かせようってーの？」

わたしの対面で寝転び、くつろぎ過ぎてるカツちゃんのみかんをねだってくる。ここまでだらけきった姿を人前に晒せるのは凄い。こたつに入っている、という現状では自然な姿かもしれないけど、女の子としてならちょっとどうかと思う姿だわ。

「カツちゃんなら家族同然だから平気よ。我が物顔で家の中を歩き回っていても、わたしは気にしないし、兄さん達も気にしないと思うから」

少なくとも八尋兄さんは確実に気にしないと思う。現にカツちゃんが来てるのにほったらかしで洗濯と掃除中なわけだし。ちなみにわたしの分だけは洗濯物は別にしてある。ロリ服ってのは洗うのに気を遣うものなのよ。

以前クリーニングに出したときは悲惨な結果になって帰ってきたし……子供服だと思いましたが、とふざけたことをぬかした業者には心底腹が立ったわ。

「それだけあたしが居るのが自然になってる、いいことじゃない。家の中が華やかになって嬉しいでしょ」

「華やかさなら、わたしが居るから充分だもん」

「お子様じゃ可愛いのはあっても、華やかさには程遠いでしょ」

中年のおじさんみたいな状態のカツちゃんにそんなことを言われる、なんとというか滑稽よね。

「制服のまま寝ると皺になるよ。いったん帰って着替えてくれば？」

「そんなことわかってるってば。それより、さっさとみかん取ってくる。コレお姉ちゃん命令だからね」

「同じお姉ちゃんでも、ルリエさんならカツちゃんにそんなこと言わないでしょうに……第一、兄弟や姉妹の関係は対等よ？」

お姉ちゃんだからって、妹に命令していい理由にはならない。なる筈がない。

「対等と言うわりには、ボクも十夜も普段から沙羅弥に振り回されてる気がするけどね」

手にお茶とお茶菓子を乗せたトレイを持ち、腕にみかんを入れた籠を乗せた兄さんが入ってきた。綺麗にバランスを取っており、不安定さを微塵も感じさせていない。

「はい、お茶とお茶請け。それとみかんも置いておくから好きに食べなよ」

「ありがとう」

やっぱり持つべきものは優しい兄さんだわ。どのあたりから会話を聴いてたのかはわからないけど、頼まれる前に用意してくれるなんて。

「ふ~~~~ん」

いつの間にやら体を起こし、こたつに頬杖をついたカツちゃんがニヤニヤしながらこつちを見る。

「……………なに？」

「大したことじゃないんだけどねえ、この前あたしにお姉ちゃんにあまえすぎって言ってたけど、あんたも八尋にあまえまくってるんじゃないかな」と思ってたね」

はあ？ わたしが兄さんにあまえずぎ？
考えがあまいわ。まるで解かっていないわね。

「カツちゃんは思い違いをしてるわ。根本的な部分を間違ってるの。いい？ よく聞いてね」

優しく諭すような言い方をしてみたけど、無理そうだったのでやめた。目標としてはルリエさんの口調と雰囲気を出したいんだけど、わたしだと性格的にも体格的にも無理がある。特に背丈と胸のあたりは覆しようのない絶対的な差が……いえ、これを考えるのはよしまししょう。ルリエさんとは年齢差もあるし、わたしまだ中等部の生徒だもん。この先に成長と言う名の無限の可能性が待っているはず！ ……待っているわよね？

でも待つてたら待つてたで服と体が合わなくなるし……

「おーい。人に聞けとか言うておいて、なに一人で百面相してるの？」

「！ うん、なんでもないの。カツちゃんもわたしも『妹』として兄や姉と接してるわけじゃない？ でもカツちゃんは『姉』に、わたしは『兄』にと対象が違うでしょ」

「それで？」

「それだけよ。そのひとつの違いが全て。だけど、そのたった一点でわたしとカツちゃんは決定的に違う。さっきも言ったけど、兄弟や姉妹の関係は対等よ。年長の人に責任感や義務感は生じやすいけど、本来この関係には上、下などの力関係は存在しないの。でもね、姉弟、兄妹は違う。『姉』というのは『弟』にとって、この世で最

も理不尽な女性であり、『妹』というのは『兄』にとって、この世で最も不条理な女の子なの。これは理屈じゃなくて絶対の理、すなわち真理サテイマなのよ」

「……そういうもんなの？」

「どうやら腑に落ちないようね。無理もないわ。こればかりは当事者でないと理解できないでしょうし。」

「この感覚を身近で一番実感してるのは……やっぱり十夜かな。八尋さんという『兄』、カツちゃんという『姉』（みたいなもの）『わたしという『妹』に囲まれてるもんね。」

「八尋は今の話どう思う？」

「兄と妹の関係は思い当たる節はあるけど、ボクには姉は居ないから、そっちはわからないな」

いつもの微笑を浮かべてお茶を入れる兄さんは曖昧に笑ってる。思い当たる節ねえ。まあ、兄さんなら一つや二つは、そんなものがあるって当然でしょ。一番身近でわたしを見てるわけだし。

「はい、お茶。熱いから気を付けてね」

「ありがと……悪いわね。結果的に八尋を使うことになっちゃって」

「いいよ。こたつを出した時点で、沙羅弥や海聖が出たがらないことは予想できてたし。ただね、出たくない気持ちは解るけど、ホストがゲストをもてなすのは当然のことだろ？」

笑みを変えぬまま、やんわりと注意される。怒ってるわけじゃな

さそうだけでも、叱られてる気分になるわ。これくらいで反省したりしないけどね。

用意されてるお茶請けは、お煎餅、お饅頭、どら焼き、羊羹、それとクッキーとチョコレート。

全て個別包装のタイプであり、ごった煮みたいな感じになってる。

でもそれがイイの！ ごっちゃんごっちゃんのお菓子の中から自分の好きなものを探し出す手間、その手間が愛しい。

無駄を楽しんでこそ、お茶の時間は意味がある。わたしはそう信じてる。

お煎餅をかじり、お茶を啜る。体の中からも暖まって心地いい。今は兄さんもこたつに入って、愛用の湯飲みにお茶を注いでる。

マイカップじゃなくて湯飲み……若さがないなあ、兄さんには。

「で、八尋の思い当たる節って？」

「海聖も覚えがあると思うけど、昔のことだよ。沙羅弥はあまやかされるのが当然と思えるようなポジションだろ。末っ子で初の女の子だから、周囲が可愛がりすぎたのが原因なんだろうけど。で、そういう風に可愛がられた沙羅弥は基本的に気まぐれで、機嫌がいいときはあまえてきたりすけど、すぐにどっか行っちゃう。にも関わらず、構ってあげないとすぐ拗ねる。ボクや十夜が食べているものに対して強く興味を持って『一口ちょうだい』って言うってくるんだけど、自分が食べてるものを『一口食べる？』とは、絶対に言うてこない」

「ちよ、兄さん、いつの話よ!?!?」

「分けてあげなかったときは、そりゃもう大変だったよ。辛いものはダメだし、炭酸でむせるってことを自分で理解してなかったから、こっちが善意で止めたのを意地悪だつて責めてくる。かといって根負けして分けてあげようものなら、むせ返つてまた泣くし」

「あつたあつた！ あたしそれ見たことあるわ！」

カッチちゃんはお腹を抱えて爆笑してる。人の幼少時の恥をそんなに笑うなんて！

「そんなんでも妹が泣いてるとボクらは泣き止ませようと必死なんだけど、こっちの気も知らずに暴れる。で、最終的にルリエさんに泣きついて、ボクらを悪者に仕立てあげる。これに関しては今も昔も変わってないかな、よくお隣で愚痴ってるし」

「うううううう、兄さん、もうやめて！」

これ以上過去の恥を暴露されてたまるものですか！

兄さんの思い当たる節は一つ二つどころか、わたしの覚えていないものまで把握してる。こういふところ身内は本当に厄介だわ！

「これ以上やると、この子イジケるんじゃない？」

「イジケ始めても、構って貰いたいっていう意図が見え見えのイジケ方してる間なら平気だよ」

「兄さんはわたしが嫌いなもの！？」

今のは明らかに止めるべきタイミングだったでしょ！？

「沙羅弥も十夜もボクの大事な家族だよ」

「そう思ってるんだったら、もっと優しくしてくださいませんかねえっ!？」 第一、妹に振り回されるのは兄の義務であり特権でしょう!？」

「勘違いしてるみたいだけどね、ボクは別に沙羅弥に振り回されるのは厭じゃないんだよ。むしろ、ルリエさんが面倒を見てくれた期間をボクが見てあげられなかったのが残念なくらいに思ってる。不思議なものだよ。さつき言ったことなんて相手が他人なら明らかな面倒ごとなのに、妹だってだけで、こういう風に思えるんだから」

「なるほどねえ、八尋にそう思わせるんだったら確かに妹って不条理かも。そういやもう一人の兄は？」

「買い物中。そろそろ帰ってくる頃だと思っけど」

四人分の湯呑みを用意しているのに、十夜が居ないことを疑問に思ったカツちゃんの問いに兄さんが答える。

「買い物って夕飯の分？ あの子、最近ずっと家事ばっかしてない？」

「今日は私用だよ。トリシューラが欲しいんだってさ」

「今さら？ って、十夜もトリシューラ持ってたでしょ？」

「あれはわたしのを貸してあげてるの。元々は9月まで使ってた分を、制限カードになった後で一枚十夜に渡したの」

「そうなんだ。あんたもレアカード結構持つてるもんね」

「種類はそんなに多くないんだけどね」

正直、わたしの所有するカードは結構偏ってる。デッキに使えるようなカードのみを所有しているから、わたしには余分なカードが殆ど無い。デュエル・ターミナルだと、シングル買いで揃えた方が効率良いしね。特に魔轟神は、最初は安かったから買い集めておいた甲斐があつたわ。クルスが高騰したときなんか、心中で喝采をあげたものよ。

「兄さんは今年のゴールドシリーズ買わないの？」

「必要ないから」

兄さんの必要ない、は「あれに収録されてるカードは既に持つてるから」という意味になる。

わたし個人としてはゴールドレアのグングニールより十夜の持つてるシークレットレアのグングニールが欲しい。ウルトラレアなら1枚持つてるけど、氷結界のシークレットレアは見た目に美しい。コレクションの価値がある。

初めてあれを見たときは

いいな。あれ、欲しいな。

by スライ

と思ったものよ。結局彼の思わせ振りの発言は、なんだったのかしらね。時期的に、もう活躍は見込めそうにないし。

「ただいまっ。お、今さらこたつ出したのか」

「おかえり。十夜もお茶にする？」

我が家ではお茶にする、という発言で紅茶が出ることはまずない。わたしが紅茶の香り　わたしにとっては嫌な感じがするため『臭い』の方がしつくり来る　を嫌うために出さない。

味とか香りの好みって兄妹でも似ないものよね。兄さんも十夜も平気で紅茶を飲めるし。

「おかえり……って、どうしたのそれ？」

何故か魚を丸ごと持つてる。あれは鰯ね……なんでまた？

「これか。話すと長くなるんだがな、貰ったんだ」

「」「はしよりすぎ」「」

一言で済ましちゃうわかんないでしょうが。順を追って説明しなさいよ。

「せめて要点だけは話してくれるかな。誰に、どうして、だけ押さえてくれればいいから」

兄さんナイス！

「魚屋の親父さんに報酬として貰ったんだ」

「何の報酬として？」

「商店街で引ったくり犯を捕まえたんだ。俺が捕まえたわけじゃないんだが」

「それどういうこと？ もう少し詳しく」

「どういうことにもなにも、そのままだ」

か、会話のテンポ悪くく。もっとスムーズに進めましょうよ。
ん？ もしかして今の十夜は

「機嫌が悪いの？」

「……ああ、良くはないな」

なるほど、機嫌は悪いけど怒ってるわけじゃない。

「一先ず、その鰯は冷蔵庫に入れてくるから、十夜は着替えてきなよ」

「そうだな、入れといてくれ。鞆置いてくる」

「あたしも着替えてこよつと。話の再開は戻ってくるまで待っててね」

「 やっぱりこたつはいいわね。寒い外に比べると天国だわ」

「え？ カツちゃんは天国に行ったことあるの？ どんな所だった？」

「アホか（笑）」

うわ、かつこわらいかつことじる、なんて言われたの初めて……

「で、鰯を貰った経緯は？」

お茶を飲んでる十夜に兄さんが促す。

「まあ待て。今少し待ってくれ」

どら焼き3つを食べていたので口の中が甘くて仕方ないらしく、もう一杯お茶を飲み干す。

とりあえず機嫌が悪かった理由はハッキリしたわ。今の状態と、この食べ方から見て、お腹が空いていたに間違いない！

お茶を飲み、一息ついて十夜は話し始めた。

「実際たいした話じゃないんだよ。商店街でひったくりが出てな。魚屋の前でそいつとぶつかつたんだ。で、転んだそいつを追いかけた若い衆が取り押さえたんだが、一応引つたくり犯の脚を止めたのは俺だつてことで礼を言われてな。それを見てた魚屋の親父さんが「よくやった！」って、あれをくれたんだ」

なんとという漫画的展開。今の話に魚屋のおじさんが十夜を誉める理由はあっても、鰯を渡す理由は あるわね。十夜は商店街で妙に好かれてるし。見た目に覚えやすいから有名人だし。

「さっきまで機嫌が悪かった理由は？」

「話すと長くなるんだが「聞き手に伝わるように努力して最小限に纏めなさい」引ったくりにぶつかられたとき、肉屋で買ったおやつのコロッケを落とした」

なんといい適当なオチ！

「なるほど、これは由々しき事態だね」

「八尋？」

あゝ、今度は兄さんの魂に火がついてる。この人こうなると、ちよつと面白おかしくなるのよね。

「あの鰯、なかなか上質だよ。これは早いうちに食べた方がいいね」

「兄さんの好物だもんね」

兄さんは肉よりも魚が好き。旬のものは特にだけど、中でも冬になると鰯をこよなく愛してる。イナダはイナダで、ハマチはハマチで愛してる。

〜豆知識！〜

イナダとハマチは同じもので、やがては鰯になります。関東と関西で呼び方が違ったりするけど、わたしの方では天然物がイナダ、養殖されたのがハマチ。当然ながら身の締まりはイナダ、脂の乗りはハマチに軍配が上がる。この辺は実際に食べ比べると、まるで別の魚であるかのようにハッキリ違い、好みが別れますが……天然物は高い！

「ちょっと買い物に行ってくる。今夜は冷蔵庫の中の物で鍋にするつもりだったけど、状況が変わった。海聖も居るんだし、ちょっと豪勢にしようか」

いつもの微笑の中に凜々しさが見え隠れしてるわ。鯰のためにあんなに男前な表情になるなんて。

「頼むから大根だけは買ってくるなよ」

あんなに大根がたくさんあるのに、買うわけないでしょうが……
つてか、あの大根、誰が足してるの？

わたしは犯人じゃないし、十夜が兄さんじゃないとなると……怖いわ！ 既にミステリーじゃなくてホラーの域に達してるじゃない！ しかも毎回妙に鮮度が高いし、味も美味しいとか！

（誰が入ってるのかわからないものを平気で食べるとかおかしくない？）

「十夜が帰ってきたら八尋が出掛けた。なかなか人数揃わないわね」

「なんかやる予定だったのか？」

「アルバをはめ殺そうかと思って。一人でやると部位破壊しながら倒すの面倒じゃない」

「カツちゃんアルバ出てたっけ？」

「まだ出てないけど、あんたら出てるでしょ。一緒に連れてって貰おうかと思ったんだけど」

じゃあ一人でやる云々は関係なくない？

「身内でやれると楽しじゃん。乙つても気にしないでいいし」

と言つてもこのポータブル3rdは妙にモンスターが弱い。Wi iを持ってないから3をやったことが無いけど、こんなに弱くなつた理由がわからない。希少種の頭の堅さにはイライラさせられるけど、それ以外では少々弱すぎる気がする。オルガロン級のモンスターが居ないから、牙獣Ⅱ大型のザコ、とか思つてると、訓練所のクマさんに時間がかかりすぎて、自信喪失したけど。

「晩飯の後でいいんじゃないか？ 今日時間気にならないんだからな」

今夜はルリエさんは用があつて家を開けてる。帰りは明日になるとのこと。カツちゃんが一人になるのが心配だったみたいなので、今夜は家に泊めることに。

カツちゃんにしても、初めて泊まるわけでもなければ、今さら遠慮するような関係でもない。思いつきにくつるぐわ、わたしを平然と使おうとするわと、普段と一切変化なし。勝手知つたる他人の家とはいうけど、もはや第二の我が家レベルね。わたしがお隣に行つても同じだけど。

「それじゃ八尋が帰ってくるまでデュエルでもしてみる？ 十夜とやるのは久しぶりだし」

「だな、やるか」

「それじゃ、対戦順を決めよー じゃんけん」

「これで、決まりだああああああああっ!!」

十夜の攻撃でわたしのライフが0になる。

「……賞賛に値するわ」

「さて、次はあたしだけど、どっちがやる?」

「俺が抜ける」

「カッチちゃん、この間の借りを返すときが来たようね!」

「まず涙を拭きなさいよ……」

「泣いてないもん!」

十夜め、まさか前回とほぼ同じ方法で封殺されるとは思わなかったわ。一応デッキの中身は変えてあるのに、肝心なところで伏せカードに対処できないんだから。

「さうて、デッキどれにしようかな。確か前はキメラで決着だったから」

ここでわたしもデッキを変えろという選択肢はあるけど、あつちはカッチちゃんのようなタイプと戦うのには面白くない。そんな真似

はわたしの誇りが許さない！

なんか十夜が「誇りに拘って負け続けるマヌケが一人」とか言ってるけど今は気にしない！

「よし、決めた。今回はこれで行こうと」

「準備できた？ それじゃ、始めましょう」

「先攻後攻はさっき負けた沙羅弥が決めなさい」

「じゃ、アニメ風に。わたしの先攻！」

なんだ、この手札は？

「ドロー」

そしてケルベラル。おいおい、これじゃミーの勝ちじゃないか。さすがに冗談だけどさ。

「モンスターをセット、カードを3枚伏せて、ターンエンド」

沙羅弥

LP8000 手札2

モンスター（裏側守備）

伏せ3

海聖

LP8000 手札5

「あたしのターン！ ドロー」

さうで、今回のカッチャんの使用デッキは

「E-エマーゼンシーコールを発動」

E-エマーゼンシーコール

通常魔法

自分のデッキから「E・HERO」と名のついたモンスター1体を手札に加える。

HERO系のデッキね。メタビートって可能性も無くはないけど、多分融合軸かネオスを使う十代のファンデッキと予想。

「デッキからE・HERO エアーマンを手札に加えて、エアーマンを召喚！ エアーマンの効果発動。デッキからオーシャンを手札に加えて バトル！ エアーマンで攻撃！」

E・HERO エアーマン

効果モンスター（制限カード）

星4/風属性/戦士族/攻1800/守 300

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、

次の効果から1つを選択して発動する事ができる。

自分フィールド上に存在するこのカード以外の「HERO」と名のついたモンスターの数まで、フィールド上に存在する魔法または罠カードを破壊する事ができる。自分のデッキから「HERO」と名のついたモンスター1体を手札に加える。

「メタモルポットの効果発動よ。カッチャんも使っし、今さら説明は要らないよね？」

「あつちや〜、サーチした直後にいきなり手札を入れ換えられると、ちよつと痛いかな〜」

メタモルポット

効果モンスター（制限カード）

星2/地属性/岩石族/攻 700/守 600

リバーズ：お互いの手札を全て捨てる。

その後、お互いはそれぞれ自分のデッキからカードを5枚ドロースる。

この効果は本当は自分のターンに使いたんだけど、贅沢は言っ
てられない。手札使いの荒いわたしには手札が増えるだけよしと
しないよね。それに ドローもそうだけど、手札を「捨てる」つ
てところが大きいんだし。

さてさて、向こうは墓地に何を捨てたのかな？ 確認させてもら
うと捨てたのはオーシャン、プリズマー、アナザー・ネオスにメタ
モルポット、平行世界融合、超融合。チツ、超融合を落とせたのは
僥倖だけど、ミラクル・フュージョンが入ってないじゃない。今の

で墓地が肥えてるし、もし持ってるのならまずいわね。

「メタモルポットで捨てた魔轟神獣ケルベラルの効果発動！ 手札から捨てられたので、墓地から特殊召喚」

魔轟神獣ケルベラル

チューナー（効果モンスター）

星2 / 光属性 / 獣族 / 攻1000 / 守 400

このカードが手札から墓地へ捨てられた時、

このカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

「それ好きね」

「可愛いでしょ。ソリッド・ヴィジョンで見たいカードの筆頭よ」

キャシー、チャワ、ケルベラル。この3種はわたしの心を惹き付けてやまない。なんといつても見た目がぷりちい（誤字に非ず）。抱っこしたらもふもふしてそうだし、ぬいぐるみが発売されたら買っちゃうわね。

「そーかな〜。あたしには頭が3つある時点で若干可愛いのカテゴリから外れてるように見えるんだけど。まあいつか、好みの問題だし。メインフェイズ2でR ライトジャスティスを発動」

R・ライトジャスティス

通常魔法

自分フィールド上に表側表示で存在する「E・HERO」と名のついた

カードの枚数分だけ、フィールド上の魔法・罨カードを破壊する。

「チエーンする?」

「ん〜…通すよ」

このライトジャスティスは対象を取るカードではない。だから発動時にチエーンしなければならず、破壊するカードを指定されてからチエーンすることはできない。

「それじゃあ真ん中のカードを破壊!」

残念、それはサイクロン。

「一応当たりかな。カードを2枚伏せてターンエンド」

「エンドフェイズに砂塵の大竜巻を発動して、右のカードを破壊して、カードを1枚セットする」

「うわ、そっちを破壊しても似たような結果に…違っわね、そっちを破壊しておくべきだったかな」

砂塵の大竜巻

通常罨

相手フィールド上に存在する魔法・罨カード1枚を選択して破壊する。

その後、自分の手札から魔法または罨カード1枚をセットすることができる。

破壊したカードはヒーロー・シグナル、か。ダメージステップにE・HEROの特殊召喚を行うカード。わたしの方はハズレを引いた感じかな。除去カードが蔓延するこの環境で、よくそういうカードを採用する気になったと感心しそうになるけど、楽しむためのデッキであるなら不自然でもないわよね。相手がカツちゃんだと考えると、あの伏せカードも奈落の落とし穴や神の警告とは考えにくいけど……まあ、ドローしてから考えればいいか。手札が変われば戦略も変わって当然だし。

「いや、戦略ってのはデッキを組んだ時点で決まってるだろ。デュエルの場面に応じて変わるのは戦術だ」

「心の声にツッコまれた!? 十夜ってば読心術でも身に着けたの!?」

「なんとなくだ」

沙羅弥

LP8000 手札4

魔轟神獣ケルベラル

伏せ2

海聖

LP8000 手札2

エアーマン

伏せ1

「わたしのターン、ドロ―」

これは……行けるかな？

「暗黒界の雷を発動、カツちゃんの伏せカードを選択。破壊できた
らわたしの手札を1枚捨てるよ」

暗黒界の雷

通常魔法

フィールド上に裏側表示で存在するカード1枚を選択して破壊する。
その後、自分の手札を1枚選択して捨てる。

「また地味なカードを使ってくるんだから。チェーンしてヒーロー・
ブラストを発動！ まだチェーン積む？」

あっちゃあ、失敗しちゃったか。それにあのカードは　　ごめ
んねケルベラル。

ヒーロー・ブラスト

通常罫

自分の墓地に存在する「E・HERO」と名のついた
通常モンスター1体を選択し手札に加える。
そのモンスターの攻撃力以下の相手フィールド上表側表示モンス
ター1体を破壊する。

「わたしはチエーンしないよ」

暗黒界の雷をかわし、墓地のモンスターを回収し、わたしのモンスターを破壊する。理想的な流れね。さっきのエアーマンやライトジャスティスもそうだし、色々アドヴァンテージを取るカードが多いのよね。羨ましいわ……ちょっと意地悪しなくなっちゃうくらいに。

「それじゃ、墓地からE・HERO アナザー・ネオスを手札に加えてケルベラルを破壊。破壊対象を失った暗黒界の雷は処理を行わないけど、今回は暗黒魔轟神なの？」

「対戦中にデッキをバラすほどお人好しじゃないよ　って言いたいけど、今すぐ教えてあげる。手札の魔轟神獣ノズチの効果を発動して、魔轟神クルスを捨てて特殊召喚　クルスの効果を発動して墓地の魔轟神獣ケルベラルを選択し、チエーンで強制回収をオープン、強制回収にチエーンしてノズチの効果を発動、手札の魔轟神レイヴンを特殊召喚！　ハア……ハア……」

一息で言う……ちょっと、息が、切れるわ……カードの発動を宣言したあたりで区切って息継ぎするべきね。

魔轟神獣ノズチ

効果モンスター

星2 / 光属性 / 獣族 / 攻1200 / 守 800

自分のメインフェイズ時に発動する事ができる。

手札から「魔轟神」と名のついたモンスター1体を捨て、

このカードを手札から特殊召喚する。

この効果で特殊召喚に成功した時、手札からレベル2以下の「魔轟神」と名の付いたモンスター1体を特殊召喚する事ができる。

魔轟神クルス

効果モンスター

星2 / 光属性 / 悪魔族 / 攻1000 / 守800

このカードが手札から墓地へ捨てられた時、自分の墓地に存在するこのカード以外のレベル4以下の「魔轟神」と名のついたモンスター1体を特殊召喚する。

魔轟神レイヴン

チューナー（効果モンスター）

星2 / 光属性 / 悪魔族 / 攻1300 / 守1000

自分の手札を任意の枚数捨てて、その枚数分このカードのレベルをエンドフェイズ時まで上げる事ができる。

このカードの攻撃力はエンドフェイズ時まで、

この効果によって捨てた手札の枚数×400ポイントアップする。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

強制接收

永続罫

自分が手札を捨てた時に発動する事ができる。

その後自分が手札を捨てる度に、相手も同じ枚数分手札を捨てる。

「もつと地味なカードキタ！」

さつきから地味だ地味だつて……確かにメジャーなデッキに入っている可能性はまず無いけど、この効果は魔轟神とはシナジーするんだから。相手が暗黒界だったら死亡フラグになりかねないけど。

「強制接收つて、捨てる手札はランダムだっけ？」

「ううん。残念だけど、捨てる場合はカツちゃんが好きに選べるの。だからキーカードを狙って落とすのは難しいのよね」

発動に手間がかかるのに、これでは割りに合わない気がする。

完全に余談だけど、このカードと便乗はルールも似ていれば、少しややこしいカードのうえに、採用率が低いマイナーカードな点も同じなので、慣れないと処理が辛い点も似通っている。特に初心者はテキストを誤解しがちなので注意。つてか、このテキストを初見で正しく理解できたプレイヤーは相当にルールに精通している筈。わたしは兄さんたちに散々説明して貰ったし。

「チエーンの最後で墓地からケルベラルを特殊召喚。手札の魔轟神獣ガナシアを捨てて、墓地の魔轟神クシャノを手札に戻すよ。さ、強制接收で手札を捨ててね」

魔轟神クシャノ

チューナー（効果モンスター）

星3 / 光属性 / 悪魔族 / 攻1100 / 守 800

手札から「魔轟神クシャノ」以外の「魔轟神」

と名のついたモンスター1体を墓地へ捨てて発動する。

自分の墓地に存在するこのカードを手札に加える。

「うーん、捨てるとなると……これかな」

折角手札に戻ったアナザー・ネオスなのに、もう捨てちゃうんだ……わたしは人のこと言えないプレイスタイルだけど。

「墓地からガナシアを特殊召喚し、クシャノを召喚」

魔轟神獣ガナシア

効果モンスター

星3 / 光属性 / 獣族 / 攻1600 / 守1000

このカードが手札から墓地へ捨てられた時、

このカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したこのカードの攻撃力は200ポイントアップし、

フィールド上から離れた場合ゲームから除外される。

さて、今わたしには手札が無く、場にはチューナーが3体、非チューナーが2体。全員レベル2か3だけど、これだけあれば充分よ！ あのアドバンテージを容易く稼ぐ、羨ましい存在 空気男をブチ殺すにはね！

「 2 魔轟神獣ノズチに 3 魔轟神クシャノをチューニング！
えーと、カッコいい口上募集中！ シンクロ召喚。おいでませ超
司書さん、TG ハイパー・ライブラリアン！」

TG ハイパー・ライブリアン

シンクロ・効果モンスター

星5 / 闇属性 / 魔法使い族 / 攻2400 / 守1800

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードがフィールド上に表側表示で存在し、

自分または相手がシンクロ召喚に成功した時、

自分のデッキからカードを1枚ドローする。

「手札が0なのにレイジオンじゃないんだ？」

わかってないな。これほど強力なカードも珍しいのに。まだ他のTGがカード化されてないからカツちゃんはこのカード使つてないし、強さを体感してないだけかもしれないけど、シンクロ素材に縛りがなく星5で闇属性の魔法使い族、攻撃力は2400の上級ライン、汎用性の高い効果も持っている。そしてなにより、わたしのデッキとは相性がいい！

「このカードの力で魔轟神は更に加速するんだよ。それを今から見せてあげる。 3 魔轟神獣ガナシアに 2 魔轟神獣ケルベラルをチューニング！ シンクロ召喚。加速せよ、魔轟神レイジオン！」

魔轟神レイジオン

シンクロ・効果モンスター

星5 / 光属性 / 悪魔族 / 攻2300 / 守1800

「魔轟神」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

自分の手札が1枚以下の場合、このカードがシンクロ召喚に成功し

た時、
自分の手札が2枚になるまでデッキからカードをドロウする事ができる。

「ハイパー・ライブラリアンの効果にチェーンして魔轟神レイジオンの効果発動。魔轟神レイジオンの効果で手札が2枚になるようにドロウし、ハイパー・ライブラリアンで1枚ドロウ」

このチェーンも初心者は混乱しがちな組み方も。ハイパー・ライブラリアンの効果が強制の誘発効果、レイジオンが任意なので、この順番でしかチェーンは組めない。ハイパー・ライブラリアンの効果が永続効果だったら処理は逆になるんだけど……テキストが微妙にややこしいのよね。

これで手札は3枚、まだまだ行くよ！

「手札の魔轟神グリム口の効果により、デッキから魔轟神クルスを手札に加える」

魔轟神グリム口

効果モンスター

星4 / 光属性 / 悪魔族 / 攻1700 / 守1000

自分フィールド上に「魔轟神」と名のついたモンスターが表側表示で存在する場合、

手札からこのカードを墓地へ送る事で自分のデッキから「魔轟神グリム口」以外の

「魔轟神」と名のついたモンスター1体を手札に加える事ができる。

お馴染みのサーチ。実はグリム口こそがわたしに魔轟神に希望を持つ最大の理由。このカード、わざわざテキストに「魔轟神と名のついたモンスター」って書いてあるでしょ？ DT初出のカードが通常エキスパンションに収録され始めたときには「魔轟神と名のつく魔法・罠が来る！」と期待したのに……いつまで待たせるの？

「魔轟神獣チャワの効果を発動。手札の魔轟神クルスを捨てて自身を特殊召喚。捨てた魔轟神クルス発動、対象は魔轟神獣ケルベラルで強制接收も発動ね」

「くく、今回はじわじわ削ってくるな。手札破壊って好きになれないわ……」

ぶつぶつ言いながら、手札を捨ててる。捨てたのはデュアルスパークだった。

ま、手札破壊されるのが好きって人はいないでしょう。そんなのが好きって、どれだけ被虐趣味よ。でもね

「お姉ちゃんなら妹と同じ苦しみを、手札が無い辛さを分かち合いましょ」

「今苦しんでるのあたしだけじゃん！ そっちは捨てても損してないじゃん！」

「それどころか得してたりして。 5 魔轟神レイジオンに 1 魔轟神獣チャワをチューニング！ シンクロ召喚。哭け！ 氷結界の龍 ブリューナク！」

氷結界の龍 ブリューナク

シンクロ・効果モンスター（制限カード）

星6 / 水属性 / 海竜族 / 攻2300 / 守1400

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

自分の手札を任意の枚数墓地に捨てて発動する。

その後、フィールド上に存在するカードを、

墓地に送った枚数分だけ持ち主の手札に戻す。

このカードこそ魔轟神と最も相性のいいシンクロモンスターの1体。ブリューナクに限らず、「氷結界の龍」はどれも【氷結界】よりも【魔轟神】と相性がいい。そもそも、氷結界と相性のいいシンクロって、なにが居たっけ？

ドウローレンも氷結界に特別相性が良いわけじゃないし、氷結界の虎将は展開を早めるけど、シンクロ自体と相性はいいかな？ 効果は無縁だけど。最初は西洋風なカードだったのに、どんどん東洋風になっていくし……なんとも不思議な一族よね。ただ、氷結界のシークレットレアは非常に美しい！ わたしの美意識に強く訴えてくる、この点は間違いなくターミナル最強ね。

「シンクロ召喚に成功したので、ライブラリアンの効果発動、ドロ！。魔轟神レイヴンの効果発動、手札を1枚捨てて、レベルアールップ！」

魔轟神レイヴン 2 3

「捨てたルリーの効果発動、カツちゃんも手札を選んで捨てて……あ、ゴメン。もう1枚しか持ってなかったね」

魔轟神ルリー

効果モンスター

星1 / 光属性 / 悪魔族 / 攻 200 / 守 400

このカードが手札から墓地へ捨てられた時、

このカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

「ぐうぐうぐう、好き勝手に荒らしまわってくれるわね」

墓地にはある程度カードが揃ってるからミラクル・フュージョンを使われたら危ないと思ってたけど、やっぱり持ってた。相変わらず妙に引きが強いけど、この辺は持って生まれた天運よね。カッチャんは逆鱗や紅玉が出ないって嘆いたことが無いし……わたしは紅玉目当てに毎日のように希少種を延々と狩ってるのに！

それにしても、今日のわたしはいつもと違うわ！ まるで望むカードを引き当てているかのようにドローできてる！

「自分が優勢だと、とことん調子に乗るよなあ。ワンサイドゲームがそんなに楽しいか？」

横から口出ししないで。そもそも、ついさっきわたしを封殺した十夜にだけは言われたくないわ！

それに、完全なワンサイドは、このデッキじゃ作るの難しいのよ。やり方しだいのできるだろうけど、長く維持できるものでもないし……機会があつたら狙ってみようかな。

「 1 魔轟神ルリーに 3 魔轟神レイヴンをチューニング！

荒ぶる螺旋に刻まれし神々の原罪、断ち切るは魔に魅入れし獣。

汝は墮落せし者、崇高なる者。傲慢なる神に裁きを降す、無垢なる

魔の遣いにして、公正なる執行者。長きに渡る戦乱により世界が負の感情に沈むとき、嘆きの荒野に祈りの歌が響き渡る。戒めの鎖は解き放たれた。古き伝説に名を残す一角獣よ、駆け抜ける世界を照らし出し、新たな伝説となれ。我と汝の力以て、我ら神なる魔に立ちはだかる全ての愚かし者に「なげーよ！」チツ、外野が余計な口を……シンクロ召喚。嘶け！ 魔轟神獣ユニコール！ シンクロ召喚に成功したので1枚ドロー」

魔轟神獣ユニコール

シンクロ・効果モンスター

星4 / 光属性 / 獣族 / 攻2300 / 守1000

「魔轟神」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

自分の手札の枚数と相手の手札の枚数が同じ場合、相手が発動した魔法・罠・効果モンスターの効果を無効にし破壊する。

4にして攻撃力2300、強力な効果を持ち、デメリットが存在しない、条件さえ整えばカウンター罠すら無効にする魔轟神獣の天才児。可愛らしいデザインの多い魔轟神獣の中で精悍さを感じさせる異色の存在。このユニコールを主軸としたデッキを組むことから可能なほどのスペックを秘めている。

「ブリューナクの効果発動、手札を1枚捨てて、エアーマンを手札に戻してもらおうわ。それと、強制接收でその手札、エアーマンを捨ててね」

「くーー、ここまで引つ張っておいて結局それなんだ！ 戦闘破

壊しようって気は無いんだ!？」

そんなこと言われても、ここで普通に攻撃する理由って無いでしょ。

これで相手の場はがら空き、手札は0。私を手札を0にしておけば、カツちゃんは引いたカードを使用することすらできなくなる。

もっとも、それはもしもターンが回ったら、の話だけだね。

「カードを1枚伏せて、 5 TG ハイパー・ライブラリアンに、

2 魔轟神獣ケルベラルをチューニング! 煌け、エンシエント・

ホーリー・ワイバーン!」

エンシエント・ホーリー・ワイバーン

シンクロ・効果モンスター

星7/光属性/天使族/攻2100/守2000

光属性チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

自分のライフポイントが相手より上の場合、

その数値だけこのカードの攻撃力はアップする。

自分のライフポイントが相手より下の場合、

その数値だけこのカードの攻撃力がダウンする。

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、

1000ライフポイントを払う事でこのカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

これで布陣は整った。相手の手札と場、全てのカードを消し、ユニコールで抵抗を封じ、エースであるエンシエント・ホーリー・ワイバーンも登場。長かった、ここまでの連敗、本当に長かった! あとはただ、行くだけ。今こそわたしは勝利を掴む!

「バトルフェイズ！ ブリユーナクで攻撃」

「しゃーない、ライフで受ける！」

バトスピ？ まさか、カーンじゃないでしょうね。

海聖 LP8000 5700

エンシエント・ホーリー・ワイバーン ATK2100 4400

「ユニコールで攻撃！」

「ライフで受けるっ！」

海聖 LP5700 3400

エンシエント・ホーリー・ワイバーン ATK4400 6700

いける、今ならイける！ 攻撃が通るたびに、エンシエント・ホーリー・ワイバーンの攻撃力が上がるたびに、勝利が近付いてくるのを 感情が昂ぶってイクのを感じるわ！
さあ、これで終わりよ！

「エンシエント・ホーリー・ワイバーンで攻撃！」

「『バカな！ ヒーローが、正義の力が侵略者に負けるなんて！？』」

「

「『ただか英雄風情が、我ら神の名を冠する魔に敵うと思つてか
つ！』」

いよし、勝つたああ！！

と、いうのは、そんなこともあつたかもしれないifのお話。現
実はそこまであまくないんですよ……

第五話 妹っていうのはね（後書き）

沙羅弥です！ みなさんはコタツは好きですか？ あれの赤い光って、暖かそうだからという理由で赤いって知ってます？ 昔のこたつは白い光だったそうです。でも、これで本当に暖かいのか、と疑問に思われて余り売れなかったので、赤い光に変更になったんだそうです。イメージっていうのは大事ですね。

そんなことより次回は……普通に今回の続きです。これといって物語りも動かない普通すぎる一日ですが、次々回からは少し動き出すようですよ？ 多分ですけど。それでは、またお時間あればお付き合ってくださいね。

第六話 英雄×魔王 ちよつと違う(前書き)

八尋です。ようやく上がった第六話。今にして思えば五話目と分けた意味はあったのか甚だ疑問ですね。これも作者が飲んだくれて遊んでたから こうして喋ると、ボクと沙羅弥と海聖の口調って差が無いよね。このあたりは要改善だよ、作者さん？

……実に耳が痛いです、ハイ

第六話 英雄×魔王 ちよつと違う

「ダシの用意と材料を切っておいて」

鱗を落とす兄さんから指示が飛ぶ。

厨房において、シェフの命令は絶対。聞き逃したり、自己の解釈を加えることは許されず、ひたすら忠実にシェフの命令に従うことが全て。己の全てをそのためだけにフル稼働させてこそ厨房は回る故にわたしは、ただこう答えるのみ！

「O u i C h e f !」

いや、単なるジョークよ？ わたしは調理に関して、そこまでの技量もレパートリーもないし。

言われた通りに昆布でダシを取りましょう。昆布を水につけておいて、材料を切っておく。この作業の間に思い出されるのは先ほどのカッチャんとデュエルのこと

カッチャんとデュエル。開始時点でのわたしの手札はなかなかだった。

「モンスターをセット、カードを3枚セットしてターンエンド！」

でも

「あたしのターン　　ドロー」

参ったわね。なんとなくだけど、わかる。

カツちゃんの表情が物語っている。おそらく　いえ、確実に良い手が入ってる筈。問題はその手が戦局を有利にする程度で収まるのか、或いは

「おつし、行くよ沙羅弥！　まずはハリケーンを発動、場の魔法・罫を全て手札に戻しなさい」

「ふにやつ!?!」

伏せていたのは今回の目玉である強制接收、サイクロン、砂塵の大竜巻。場を空けられるのは避けられない。

「いよつし、まずは後ろガラ空き　　お次はE　エマーゼンシールコール発動。デッキからE・HERO　プリズマーを手札に加える。さらに沼地の魔神王を捨てて、デッキから融合を手札に」

E・エマーゼンシール

通常魔法

自分のデッキから「E・HERO」と名のついたモンスター1体を手札に加える。

沼地の魔神王

効果モンスター

星3 / 水属性 / 水族 / 攻　500 / 守1100

このカードを融合素材モンスター1体の代わりにする事ができる。その際、他の融合素材モンスターは正規のものでなければならぬ。また、このカードを手札から墓地へ捨てる事で、デッキから「融合」魔法カード1枚を手札に加える

くると手札が入れ替わって目まぐるしい。

E エマージェンシーコール……魔轟神にも、ああいうカードがあればと思わずにはいられないわね。似たようなサーチとはいえ、グリム口の効果を見れば、E・HEROがいかに優遇されているかが分かってもらえるはず。

「プリズマーを召喚して効果発動、エクストラデッキのE・HERO ジ・アースを見せて、その素材であるE・HERO フォレストマンを墓地に送る。この効果でプリズマーのカード名はE・HERO フォレストマンに変更される、リフレクト・チェンジ！」

遊城十代のごとく高らかに効果名を宣言する。相変わらず原作カードでは気分のノリがいいみたい。

E・HERO プリズマー

効果モンスター

星4/光属性/戦士族/攻1700/守1100

自分のエクストラデッキに存在する融合モンスター1体を相手に見せ、

そのモンスターにカード名が記されている融合素材モンスター1体を自分のデッキから墓地へ送って発動する。

このカードはエンドフェイズ時まで墓地へ送ったモンスターと同名カードとして扱う。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「融合を発動。手札のオーシャン、場のフォレストマン（プリズマ）を融合して、E・HERO ジ・ア「フリーザ様キターーッ！！」ええい、人の言葉に被せるなッてば！」

融合

通常魔法

手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた

融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。

E・HERO ジ・アース

融合・効果モンスター

星8/地属性/戦士族/攻2500/守2000

「E・HERO オーシャン」+「E・HERO フォレストマン」

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

自分フィールド上に表側表示で存在する「E・HERO」と名のついた

モンスター1体をリリースする事で、このカードの攻撃力は

このターンのエンドフェイズ時まで、リリースしたモンスターの攻撃力分アップする。

あの丸い頭部、カラーリング。まさにフリーザ様その人 と言
うにはボディがゴツく、角張っている。もっと丸みを帯びたスマー

トなボディなら似てたのに。

うん？ スマートなのに、丸みを帯びてるって言ったら、痩せてるんだか太ってるんだかハッキリしないわね。梅辰さんに怒られちゃう。

「フリーザ言^ゆなって。あたしも最初カードを見たときは似てるか
なって思ったけど」

「俺も」

さすがフリーザ様は大人気 お姿やお声も素敵だし、しゃべり方もバツグン。センスのあるお方だったわ。

「続けるわよ。ミラクル・フュージョン！ 墓地のHEROである
フォレストマン、水属性の沼地の魔神王をゲームから除外して、E・
HERO アブソルートZeroを召喚」

194

ミラクル・フュージョン

通常魔法

自分のフィールド上または墓地から、融合モンスターカードによって
決められたモンスターをゲームから除外し、「E・HERO」という
名のついた融合モンスター1体を融合デッキから特殊召喚する。

(この特殊召喚は融合召喚扱いとする)

E・HERO アブソルートZero

融合・効果モンスター

星8 / 水属性 / 戦士族 / 攻2500 / 守2000

「HERO」と名のついたモンスター + 水属性モンスター

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードの攻撃力は、フィールド上に表側表示で存在する

「E・HERO アブソルートZero」以外の

水属性モンスターの数×500ポイントアップする。

このカードがフィールド上から離れた時、

相手フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

最強の称号を持つ、アブソルートZero。原作ではどこが最強だ！と思われたこのE・HEROはOCG化された時に最強に相応しい力を入れた。『フィールドを離れた時』に『強制発動』する、相手モンスターの全破壊。これほど強力な効果を、こんな緩い条件で任意効果ではなく強制効果にされたのが羨ましい。しかもコミックスの付録なのでお手軽価格の超親切なヒーロー。財布にすら優しいから子供にも優しい、まさにヒーローの鑑ね。富の象徴だったガイアさんとは大違い。

でもわたしはこのアブソルートZeroが憎いかも。わたしのレヴュアタンなんか『破壊された時』限定で『任意』だからタイミングを逃しやすいのに！レヴュアタンだけに嫉妬しておきましよう。おのれ〜ヒーロー。嫉ましい〜。妬ましい〜。そして何よりサポートの豊富さが羨ましい〜。

「ジ・アースの効果発動！ E・HEROをリリースして、その攻撃力を吸収する。アブソルートZeroをリリースして『地球灼』
「ちよおつと待ったあああああ！」
！？ このタイミングでチエーンする気！？」

「ううん、そういうのじゃなくてね。今『ジ・アース・マケマ地球灼熱』って言うんですけどでしょ？」

「？ 当然じゃない。原作ではこの効果名になってるんだから」

ノリノリ（死語）で決めに入ったところを邪魔されたからか、少し不機嫌になってる。まあ気持ちはわかるけど。

でも　ここは譲れない！

「変だよ。アブソルートZeroを　絶対零度の名を冠するヒーローを地球が吸収して灼熱化するなんて。この組み合わせなら冷える筈だと思うの」

「……また、妙な理屈をごね始めたわね」

「一理あるかもしれないぜ。一応筋は通ってる」

「えーと……つまり？ あんたはあたしに『地球灼熱』ジ・アース・マクスマじゃなく、アブソルートZeroにあわせた別の効果名を言えと？」

「イエース。さすがカツちゃん、話がわかる」

「……こういうのは原作のものを使うからテンションの維持に繋がってるのに、自分で考えるとか　」

そんなこと言いながらも全力で考えてくれるのがカツちゃん。だから好きだよ。

「なにがいいかな……いつそ効果名は抜きにする？ いや、この場面ではないわ。ここは盛り上げどころだし。ジ・アース、地球、アブソルートZero、絶対零度……冷気……氷……氷河期……」

氷河期。うん、氷河期よ」

なにか思い付いたみたい。表情が変わり、パツと明るくなったとき、一瞬電球みたいなものが見えた。

「ねえ、あれなんて言ったっけ。氷河期に地球全体が氷で覆われてた、ってヤツ」

……？ 氷河期って、そういうものだっけ？

「ごめん、わたしはわからない。十夜は知ってる？」

「全球凍結。または雪球地球、全地球凍結だろ」

「そうそれ！ それで行くわ！」

十夜の答えが正しいらしく、大きく頷いてる。この二人がこんな会話をするなんて……ちょっと賢く見えちゃう。

「全球凍結って？」

「全球凍結は地球史上何度かあった氷河期のうち、『ヒューロニアン氷河時代』と『スターチアン氷河時代およびマリノニアン氷河時代』に起こったとされる地球全土が凍結した激しい氷河期のこと」

ひゅーろにあん氷河時代？ すたーちあん氷河時代および……なんだっけ？ そんな単語聞いたことないけど、今の説明はおかしい。

「しつもん。地球全土が凍結したって言うけど、本当にそうだったのなら、どうして今の地球は凍結してないの？ そんな状態だっ

たらアルベドが高くなっちゃうのに」

「え？ 氷河期って時間経過で自然と終わるもんじゃないの？ それに、アルベドが高いつて……なに？」

今度はカツちゃんがついてこれないみたい。全球凍結自体は知ってたのに、そういうのは知らないんだ。それに、地球の氷河期は終つてないよ？

「沙羅弥の言うアルベドが高いつてというのは 地表温度の条件 についても説明した方がいいのか。地表は太陽光線によって温められて、宇宙空間へ熱エネルギーを放射することによって冷えるってのは知ってるよな？ この太陽光線から受けるエネルギーと、宇宙空間に放射されるエネルギーのバランスが地球の表面温度を決めるんだ。ところが白い氷床に覆われた状態では太陽光の反射率が非常に高く、太陽光エネルギーの殆どを宇宙空間にそのまま反射する この状態を『アルベドが高い』という。アルベドが高いと地表温度はさらに低下するから、一度地球全体が雪や氷に覆われると そうなつて永遠に溶けなくなるんじゃないかって言いたいんだよね？」

むう、今日の十夜は手強いわ。いつもより賢さが高くなつてる気がする。

「んで氷床が溶けた理由だが、火山活動なんかが止まってた訳じゃないから、大気中には二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスが排出されていた。海が液体の状態なら二酸化炭素は海に吸収されるんだが、凍結していた状態では吸収されずに蓄積する。すると温室効果によって気温が上昇し、地表の氷雪を溶かすに至った、という説が有力。さっきアルベドが高いと地表の温度は低下するって言った

けど、逆も起こる。太陽光を反射する氷床が減少すれば地表の温度が上昇し、気温は急激に上がると言われている。蛇足になるが、太陽系の惑星で最もアルベドが高いのは金星」

「？ アルベドが高いと地表温度は下がるんでしょ？ 金星は暑いって習ったけど」

「はあん。さては中等部の授業で習ったことを忘れてるわね。これは高等部のカツちゃんよりも、中等部のわたしたちの方が記憶に新しいし、仕方ないかな。」

「金星が暑いのは大気中の成分の問題だったさ。主成分が二酸化炭素だから温室効果がハンパない状態で、金星の地表温度は平均で400以上あるらしい。これは太陽に一番近い水星の温度より上だな。あと、地軸の傾きと自転の向きの場合で、金星は一日が地球換算で約4ヶ月と、すげー長いうえに、西から昇った太陽が東に沈むを実現できてる唯一の惑星ってことを覚えておくと、雑学なんかで役に立つときが来るかも。来なかったとしても責任は取らねーが」

そんなことまで知ってるなんて意外。わたしの使ってる教科書には大気の主成分なんかは載ってるけど、そこまで詳しく書いてないのに。

「あんた何でそんなこと知ってるの？ 全球凍結も金星の環境も、学園の授業では扱わなかった筈だけだ」

「フツ、授業態度が不真面目すぎて、レポートを提出させられただけだ。すげー面倒だった」

なにを情けないことを自慢げに答えてるのよ。

あ。

「ターンプレイヤーのカツちゃんが無もしない時間が3分を過ぎてから、わたしのターンに移っていいよね？」

「待て待て待て！ いいわけないでしょうが！ だいたい、あんたが止めたんじゃない」

残念。公式ルールでは何もしまま3分過ぎちゃいけないのに。

「ジ・アースの効果からやり直すわよ。ジ・アースの効果発動！

アブソルトZeroをリリースして、このターンのエンドフェイズまで、その攻撃力2500を吸収する。☞ スノーボール Snowball

アース Earth 雪球地球！☞」

「冗談みたいな効果名だが、全球凍結を英訳するとそうなるんだよな……」

ジ・アース

攻撃力2500 5000

うん、なんだかんだ言ったけど、デュエルディスクさえあれば何の問題もなく、あっさり解決したわよね。ソリッド・ヴィジョンのジ・アースがどうなるか見ればわかるんだし。

「墓地に行ったアブソルトZeroの効果発動。場を離れたので、全ての相手モンスターを破壊する！」

ぐう、手札を捨てる、手札を補充と二重に美味しいメタモルポットが！

いや、それよりも、マズイ！ ここで攻撃してくれないとわたしは

「不安が顔に出てる。それじゃ攻撃を防ぐ手がありませんって宣言してるのと同じだって。ミラクル・フュージョンをもう1枚発動。墓地のE・HERO アブソルトZeroと光属性のプリズマーをゲームから除外して、E・HERO The シャイニングを召喚！」

E・HERO The シャイニング

融合・効果モンスター

星8 / 光属性 / 戦士族 / 攻2600 / 守2100

「E・HERO」と名のついたモンスター + 光属性モンスター

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードの攻撃力は、ゲームから除外されている

自分の「E・HERO」と名のついたモンスターの数×300ポイントアップする。

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、ゲームから除外されている自分の「E・HERO」と名のついたモンスターを2体まで選択し、手札に加える事ができる。

「除外されているE・HEROはフォレストマン、プリズマー、アブソルトZeroの3体。よってThe シャイニングの攻撃力は3500になる」

The シャイニング

攻撃力2600 3500

「……ねえ、カツちゃんは積み込みなんてしてないよね？ 都合が良すぎる引きだけど、偶然なんだよね？ イカサマなんかしてないよね？」

前の未来融合もそうだったけど、どうしてこんなに都合のいい引きができるのっ！？ 御都合主義の主人公補正でもかかっているの！？

「ヒーローは小細工なんかしない！ 悪しき侵略者にも真っ向から正々堂々と戦い、打ち倒すものよ！

バトル！ ジ・アースで攻撃！ アース・マグナ・スラッシュ地球灼熱斬じやまずいから……そのままですか。
Earth Frozen Slay スラッシュ
sh 地球凍結斬！

沙羅弥 LP8000 3000

「The シャイニングでとどめよ！ オプティカル・ストーム！」

「HEROがワンキルなんて恥を知るべきじゃないっ！？」

沙羅弥 LP3000 0

「ガツチャ！ 別に楽しくもなんともないデュエルだったわ！」

そりゃそうでしょうねえっ！ なにせわたしは、ただの一枚もカードを発動してませんからねえっ！

と、このように、本当は後攻ワンキルを決められていたの。ええ、この現実を直視したくなくて、コンボが決まった未来を妄想してたんですが、それがなにか？

「~~~~っ、負けっぱなしで悔しいけど、わたしは抜けるから次は十夜と」

ちょうどそのタイミングで買い物に出ていた兄さんが帰ってきた。

「ただいま」

「おかえり、って、随分買ってきたなオイ」

十夜の言葉通り、その両手に提げられた袋は明らかに、いつもの買い物の量じゃなかった。鯉に対する兄さんの本気度が窺えるわ。

「宣言通り、奮発したんだよ。早速仕度に取り掛かるよ」

「わたしも手伝ったげる」

ちょうどやることも無くなったしね。

「んじゃ俺も手伝おう、と、思ったけど三人も台所に立つと狭いし、邪魔になるよな。それじゃあ、デュエルだ」

「おっけー。久しぶりに可愛がってあげる」

「その台詞、俺的にはルリエさんに言われたかつ……いや、なんでもないんだ、さあ、おっ始めようか」

回想終わり。

「兄さん、今日は昆布だけでダシを作るの？」

「そのつもりだよ」

昆布から取れるダシはやさしい上品な味で素材の味と香りを活かすのに最適だけど、おいしく取るにはコツがある。何が言いたいかっていうと、つまりこれよ。

「沙羅弥のクッキングコーナー 昆布ダシ編！」

水出しと湯出しがありますが、夕飯前という都合上、今回は湯出しで行います。どちらの場合も用意するのは

昆布 30g
水 1000ml

昆布といつても、何を使ってもいいわけではありません。昆布にも色々種類がありますが、やはりダシを取るのに適した良質なものを使うのが一番です。天然で肉厚で緑褐色の艶やかなものがダシを取るのに好まれます。とはいえ、市販されてる昆布にはだいたい「だし用昆布」と表記されているので、悩むこともないかもしれませぬ。

ダシ昆布の表面には白い結晶が付着していますが、これは糖類の一種であり、昆布の旨みの結晶なんです。非常に水に溶けやすい性質なので、砂が気になるなどの理由があってもダシ昆布を水洗いしてはいけません。

ではどのようにするかというと、かたく絞った布巾でさつと拭いてしまうのがいいでしょう。このとき、布巾に水ではなくお酒を染み込ませておくのも選択肢の一つとして覚えておいてください。わたしは以前に学園の調理実習で日本酒の瓶を取り出したところで先生に怒られました。家庭科だけに、家庭の味を再現しようとしただけなのに！

昆布を拭いたら、3cm程度の間隔で切り込みを入れておきます。これは旨みを出やすくする加工ですが、海藻特有のぬめりや臭みも出やすくなるため、切り込みを入れなくても問題なかったりします。切り込みを入れようが入れまいが、何かが劇的に変わるようなものではありません。

では水出しの仕方を説明します。

昆布を分量の水に10時間つけておいてください。説明終わり。

ここからは湯出しの方法です。

分量の水に昆布を30分つけておきましょう。その後中火にかけます。灰汁を取りつつ「沸騰直前」に昆布を取り出します。決して

煮たたせてはいけません。昆布は70 を越えるとアルギン酸が溶け始めます。こうなるとダシがぬめり、口当たりが悪くなるほか、臭みで風味も落ちてしまいます。この点にはくれぐれもご注意ください。

以上で昆布ダシが取れます。素材の味を活かす、鍋物によくあうダシです。これの応用で一番だし、二番だしが取れるので、昆布ダシの取り方を覚えておいて損はありません。ダシは料理の基本です。基本を疎かにして、上達はありえません。

また、ダシを取ったあとの昆布にも栄養素は十分に残っているのですが、捨てずに食用として使います。このままサラダに使ってもいいのですが、今は冷凍庫に入れて保存しておき、ある程度の量がたまったら佃煮や煮物に再利用するのもいいでしょう。

「以上、昆布ダシの取り方でした」

さて、今夜はブリしゃぶ。昆布を水につけておく間に他の材料を準備しておかないとね。

野菜は大根、白菜、白ネギ、水菜。それと薬味用に刻みネギを用意。

白菜はしゃぶしゃぶ用に細く切っておく。ネギも細長く切っておき、大根は煮込んで食べる分とおろしてポン酢とあえる分を用意。水菜は食べやすい大きさにしておけばいいか。これで文句は言われないでしょう。

他に用意するものといえば、えのきはほぐして食べやすい大きさに、シイタケはいしづきを落として飾り切りをしておいたし、豆腐は早めに用意すると水が出るので直前まで放置。

うん、わたしのほうはこれでいいかな。

兄さんは愛用の刺身包丁　台所においてあるけど、兄さんの私物　で鰯をスムーズにさばいており、今は正確に5ミリ幅で切り分けてる。物欲には乏しいのに、わざわざこういう魚をさばく為だけに高価な刺身包丁を購入したその執念はどこから来るのか
って、食欲に決まってるわよね。湯飲みといい、包丁といい、兄さんの愛用品は食に関わるものばかり。

「なに？　一切れほしい？」

しばらく刺身をひく兄さんの手元を（正確には包丁を）ジッと見ていたらあらぬ誤解をされた。

「ううん、手元を見てただけ」

「そう」

何事もないように作業に戻ってるけど普段より3割増しくらいの笑顔になってる。ここにきて、いよいよ楽しみで仕方ないって感じね。

兄さんは馴れた手つきでさばいてるけど、わたしにはブリのような大型の魚を最初からさばくことはできない。せめて半身にしたもの……いえ、腹骨を取り除いたあとからなら！　この辺は練習しないとだけど、なかなか機会が無い。失敗しても許される環境があれば……！

「これだけあれば足りるよね」

ざっと見て5〜6人前の切り身を用意して大皿に取り分けてる。

「それじゃあ昆布だしもいい時間だし、そろそろ次の準備を」

「待った」

コンロの用意をしようとしたところで止められる。

「なに？」

「はい、あーん」

にこやかに菜ばしでつかんだ切り身を差し出してくる。

「は？」

「手伝ってくれた御褒美、一番いい部位だよ」

「ご丁寧に非常に食べやすい位置であるほか、真下に醤油皿を差し出してるじ。」

「……………わざわざそんなことしてくれなくても」

「いいから」

妙にニコニコして聞こうとしてくれない。

というか、普通に恥ずかしいじゃない。この歳になって兄さんに食べさせられるなんて……………そこまで思ったところで、ふと脳裏に夕方の会話が蘇る。

『ルリエさんが面倒を見てくれてた期間をボクが見てあげられなかったのが残念なくらいに思ってる』

まさか、あれでフラグが立ってるの？ あれが原因で、今こうい
う行動を取らせてるの？

「ほら、あーんして」

これまでの経験上、兄さんは絶対に退きそうにない。つまりわた
しには選択肢が一つしかないわけで……

「……………あーん」

覚悟を決めて口を開く。

「おいしい？」

「……………うん」

返事を聞いて兄さんは満足げに頷いた。

味は素直に美味しかった、と思うんだけど……………この状況でさえ
なければもつとよく味わえたのに。

「それじゃ、コンロを用意して大根と豆腐を入れようか」

この後は何事も無く準備は進み、みんなで食べることに

「この大根、薄味だけどおいしいじゃん」

「ブリしゃぶでまず大根から行くカツちゃんの心意気に脱帽だぜ！」

「楽しみは後に取っておくもんでしょ」

「そんな悠長なこと言ってるとう無くなるよ？　って、十夜は一人で銀とろをとり過ぎないの」

「ちっ、バレたか」

先ほどから十夜が遠慮もせず堂々と取っていたのは腹側で脂の乗った部位であり、銀とろとも呼ばれている。わたしが兄さんに食べさせてもらったのと同じ部位。醤油につければ、脂が醤油に浮くほどでありとても美味しい。刺身のまま食べてよし、鍋に入れてしゃぶしゃぶにしてよし。贅沢ね。

「十夜はもう少し野菜を取るべきだね。そっちの豆腐も火が通り過ぎてる感じがするし、一緒に取っちゃって」

「言ってる間に人の皿に入れてくるんじゃないよー!」

容赦が無いわ。あ、勿論自分のお箸でつかんだりせず、おたまで取って入れたのよ。兄さんはそういうところは几帳面だから。

「海聖は火を通しすぎてるね。軽く泳がせて白くなったら引き上げ時だよ」

「わーったわよ。ったく、あんたは鍋奉行かっの。沙羅弥はそれ何つけてんの？」

「これ？　ゴマダレ。カツちゃんも使う？」

そんなこんなで食べ進めていくうちに、食卓の上は大変なことに

なっている。鍋とコンロで中央を占拠し、ブリの大皿、野菜・キノコ類の大皿、各種薬味、4人分の取り皿　刺身用の醤油皿、しやぶしやぶのポン酢用、ゴマダレ用と一人で複数使っているで、かなりごちゃごちゃしている。

まあこれは仕方ないわよね。最適なタイミングで魚や野菜を食べられる、というしやぶしやぶのメリットを考えればこのくらいの不都合は受け入れましょう。普通に鍋だと、野菜類は火が通り過ぎちゃうし。

勿論、大根は別枠！ あれはダシが染み込んで色が変わるくらいまで煮込んでもいいくらい。あらかじめ鍋の底に大量に沈ませておいたし、ちよつとした楽しみよね。ブリの脂がダシに溶け始めた後で取るとまた格別の味に　　ああっ！

「　　いい味だ」

「ちよつと十夜！　それはわたしが丹精こめて味付けしてる最中の大根よ！」

「知ったことか。鍋の中のものは早い者勝ち、食つか食われるかの世界だろーが」

「こ、この欠食児童めが~~~~っ！

「ああ、分かっているとは思っけどお腹いっぱいになるまで食べないようにね。締め雑炊作るから」

それこそ言われるまでもないわ。お酒の呑めないわたしたちにとって、「ぶりしやぶは締めの雑炊のためにある」といっても過言では……明らかに言い過ぎてるわ。「ぶりしやぶは締めの雑炊まで含めてぶりしやぶです」くらいが適切ね。

さて、と。そろそろ頃合だし、締めに入れるお餅の用意でもしてきましようか。昆布の旨み、野菜の旨み、ブリの旨みが出たダシで作る雑炊は文句なく美味しい。その雑炊に小さな焼餅を入れると、ポリユームを多く感じられるし、食感が楽しいのよ？ あまり大きいものだと雑炊のバランスを崩すので注意！ あくまでもお餅はアクセント！ お餅のカロリーは馬鹿にならないしね……

おまけ

「カツちゃん、お風呂最初に入ってね」

「なんだったら一緒に入る？ 十夜はダメだかんね」

「十夜、覗いちゃダメよ」

「幼馴染とペタ妹の裸なんぞ見たいと思うか ふぐわっ!？」

掌を顎に叩き込む。十夜の方が身体能力は高いのに、不思議とこの手のお仕置きは滅多に避けられない。ひょっとしてギャグ補正つてやつ？ まさか、ね。

「一言余計よ。わたしたちが入った後のお風呂のお湯、飲んじゃダメだからね？ あとで兄さんも入るんだから」

「お、お前の、、なかで、、俺、、は、、どう、、いう、、、、」

変、態、だ（ガクッ）」

「今のはあんたが悪いわ……気をつけなきゃダメよ？ 妹とはいえ、沙羅弥も女の子なんだから　　って、聴こえてないか」

顎を跳ね上げると舌を噛む恐れがあります。悪戯に真似をしないでください。

第六話 英雄×魔王 ちよつと違う(後書き)

沙羅弥です！

女の子同士で一緒にお風呂に入ったり、同じ布団で寝たりするのは可愛らしく思えても、男同士だと嫌がるのは作者が男性だからでしょうか？ わたし、沙羅弥としては美形同士ならば大いに結構！
十分ありだと思っています！

そんなことより次回は、ちよつと真面目に学園に行ってみようかと思えます。投稿はいつになるかはわかりませんが、またお時間あるときにお付き合いいただければ幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7571o/>

沙羅弥デイズQuoD

2011年10月6日23時04分発行